

目次

所属名称	施策名	事業番号	大事業名称	事業名	評価区分	ページ番号
産業観光課	効率的な行政運営の推進	39	総務一般管理費	ふるさと納税推進事業費	総合	1-2
産業観光課	農業の振興	2701	農業委員会管理費	農業委員会経常管理費	簡易	3
産業観光課	農業の振興	2751	農業総務管理費	農業総務経常管理費	簡易	4
産業観光課	農業の振興	2760	有害鳥獣駆除事業費	有害鳥獣駆除事業費	総合	5-6
産業観光課	農業の振興	2777	鳥獣被害防止総合対策交付金事業	鳥獣被害防止総合対策交付金事業	簡易	7
産業観光課	農業の振興	2778	有害鳥獣防護柵設置事業	有害鳥獣防護柵設置事業	簡易	8
産業観光課	農業の振興	2800	農業振興管理費	農業振興経常管理費	簡易	9
産業観光課	農業の振興	2801	農業振興管理費	農業振興臨時管理費	簡易	10
産業観光課	農業の振興	2825	中山間地域等直接支払交付金事業費	中山間地域等直接支払交付金事業費	簡易	11
産業観光課	農業の振興	2830	中山間地域等直接支払推進事業費	中山間地域等直接支払推進事業費	簡易	12
産業観光課	農業の振興	2835	地域農業振興事業費	担い手総合支援事業費	簡易	13
産業観光課	農業の振興	2850	農業振興資金利子補給事業費	農業近代化資金等利子補給事業費	簡易	14
産業観光課	農業の振興	2870	地域特産物振興事業補助金	地域特産物振興事業補助金	総合	15-16
産業観光課	農業の振興	2900	就業奨励金支給事業費	就業奨励金支給事業費	簡易	17
産業観光課	農業の振興	2920	各種団体補助金	自立農家組織育成対策補助金	簡易	18
産業観光課	農業の振興	2921	各種団体補助金	農業後継者組織育成対策補助金	簡易	19
産業観光課	農業の振興	2927	各種団体補助金	生活交流グループ協議会補助金	簡易	20
産業観光課	農業の振興	2950	地域農業持続化支援対策事業費	利用権設定促進事業費	簡易	21
産業観光課	農業の振興	2952	地域農業持続化支援対策事業費	新規就農奨励事業費	総合	22-23
産業観光課	農業の振興	2960	農産園芸振興事業補助金	特産物組織育成対策補助金	簡易	24
産業観光課	自然環境・景観の保全	2968	花のプロムナード推進事業費	花のプロムナード推進事業費	簡易	25
産業観光課	農業の振興	2973	産業まつり開催事業費	産業まつり開催事業費	総合	26-27
産業観光課	農業の振興	2995	地域農業再生事業費	地域農業再生事業費	簡易	28
産業観光課	農業の振興	2997	人・農地問題解決加速化支援事業	人・農地問題解決加速化支援事業	簡易	29
産業観光課	農業の振興	2998	農業次世代人材投資事業	農業次世代人材投資事業	簡易	30
産業観光課	農業の振興	3010	園芸総合対策事業	園芸総合対策事業	簡易	31
産業観光課	農業の振興	3012	農地集積・集約化対策事業費	農地集積・集約化対策事業費	簡易	32
産業観光課	農業の振興	3017	産地生産基盤パワーアップ事業費	産地生産基盤パワーアップ事業費	簡易	33
産業観光課	農業の振興	3030	特産物応援事業	鏡野町特産物応援事業	簡易	34
産業観光課	農業の振興	3025	農業振興センター事業費	農業振興センター事業費	総合	35-36
産業観光課	農業の振興	3028	経営継承・発展等支援事業	経営継承・発展等支援事業	簡易	37
産業観光課	農業の振興	3031	早期経営確立支援事業	早期経営確立支援事業	簡易	38
産業観光課	農業の振興	3300	畜産管理費	畜産経常管理費	簡易	39
産業観光課	農業の振興	3301	畜産管理費	畜産臨時管理費	簡易	40
産業観光課	農業の振興	3312	畜産振興事業費	思原高原公有牧野振興事業費	簡易	41
産業観光課	農業の振興	3315	優良肉用牛保留事業補助金	優良肉用牛保留事業補助金	総合	42-43
産業観光課	農業の振興	3320	各種団体補助金	肉用牛生産組合組織育成補助金	簡易	44
産業観光課	農業の振興	3325	各種団体補助金	受精卵供給事業	総合	45-46
産業観光課	農業の振興	3540	多面的機能支払交付金事業費	多面的機能支払交付金事業費	簡易	47
産業観光課	農業の振興	3560	環境保全型農業直接支援対策交付金事業費	環境保全型農業直接支払交付金事業費	簡易	48
産業観光課	農業の振興	3608	農業施設管理費	農業センター経常管理費	簡易	49
産業観光課	農業の振興	3609	農業施設管理費	農業センター臨時管理費	簡易	50
産業観光課	農業の振興	3610	農業施設管理費	農林水産物直売施設経常管理費	簡易	51
産業観光課	農業の振興	3611	農業施設管理費	農林水産物直売施設臨時管理費	簡易	52
産業観光課	農業の振興	3613	農業施設管理費	農林水産物加工施設臨時管理費	簡易	53
産業観光課	農業の振興	3614	農業施設管理費	農産物集出荷貯蔵施設経常管理費	簡易	54
産業観光課	農業の振興	3618	農業施設管理費	富農林水産物処理加工施設経常管理費	簡易	55
産業観光課	農業の振興	3619	農業施設管理費	富農林水産物処理加工施設臨時管理費	簡易	56
産業観光課	林業の振興	03731-1	林業総務管理費	林業総務経常管理費	簡易	57
産業観光課	林業の振興	3734	林業総務管理費	ぬくもりの木で家づくり推進事業補助金	総合	58-59
産業観光課	林業の振興	3736	林業総務管理費	緑のふるさと協力隊推進事業費	総合	60-61
産業観光課	林業の振興	03750-1	林業振興管理費	林業振興経常管理費	簡易	62
産業観光課	林業の振興	3752	林業振興管理費	地域林業担い手サポート事業	総合	63-64
産業観光課	林業の振興	3754	林業振興管理費	鏡野町森林づくりセンター経常管理費	簡易	65
産業観光課	林業の振興	3759	林業振興管理費	木材需要拡大推進事業	総合	66-67
産業観光課	林業の振興	3761	林業振興管理費	林業就業者支援事業	総合	68-69
産業観光課	林業の振興	3760	林業振興地域対策事業費	林業振興促進対策事業	総合	70-71
産業観光課	自然環境・景観の保全	3890	緑化推進事業費	緑化推進事業費	簡易	72
産業観光課	林業の振興	3910	間伐促進特別対策事業費	間伐促進等特別対策事業費	総合	73-74
産業観光課	林業の振興	3911	間伐促進特別対策事業費	間伐材運搬費補助事業	総合	75-76
産業観光課	林業の振興	03925-0	作業道補助金	作業道補助金	簡易	77
産業観光課	林業の振興	3925	作業道補助金	作業道補助金	簡易	78
産業観光課	林業の振興	3955	各種団体補助金	林業研究クラブ補助金	総合	79-80
産業観光課	林業の振興	4022	ナラ枯対策事業費	ナラ枯対策事業費	簡易	81
産業観光課	林業の振興	4029	森林経常管理費	森林経常管理制度推進事業費	総合	82-83
産業観光課	林業の振興	4031	森林資源解析事業	森林資源解析事業	総合	84-85
産業観光課	林業の振興	4115	林業施設管理費	山村広場交流センター経常管理費	簡易	86
産業観光課	林業の振興	4117	林業施設管理費	貯木場経常管理費	簡易	87
産業観光課	林業の振興	4121	林業施設整備事業費	特用林産物生産事業	総合	88-89
産業観光課	林業の振興	4122	林業施設整備事業費	貯木場整備事業	簡易	90
産業観光課	林業の振興	4155	公有林整備事業費	町有林整備事業費	総合	91-92
産業観光課	水産業の振興	4200	水産業振興関係施設管理費	ひらめ種苗センター経常管理費	簡易	93
産業観光課	水産業の振興	4202	水産業振興関係施設管理費	淡水魚養殖施設経常管理費	簡易	94
産業観光課	商工業の振興	4310	商工振興管理費	商工振興経常管理費	簡易	95
産業観光課	商工業の振興	4315	各種団体補助金	町商工会補助金	簡易	96
産業観光課	商工業の振興	4335	中小企業特別対策事業補助金	中小企業特別対策事業補助金	簡易	97
産業観光課	商工業の振興	4339	工業設備資金利子補給事業	工業設備資金利子補給事業	簡易	98

所属名称	施策名	事業番号	大事業名称	事業名	評価区分	ページ番号
産業観光課	定住化の促進	4344	住宅リフォーム事業補助金	住宅リフォーム事業補助金	総合	99-100
産業観光課	商工業の振興	4345	起業支援事業	起業支援事業	総合	101-102
産業観光課	商工業の振興	4346	小規模事業者経営改善資金利子補給事業	小規模事業者経営改善資金利子補給事業	簡易	103
産業観光課	商工業の振興	4347	鏡野町特別利子補給事業	鏡野町特別利子補給事業	簡易	104
産業観光課	観光の振興	4350	観光管理費	観光経常管理費	簡易	105
産業観光課	観光の振興	4351	観光管理費	観光臨時管理費	簡易	106
産業観光課	観光の振興	4353	観光管理費	インバウンド推進費	簡易	107
産業観光課	観光の振興	4361	観光イベント開催費	大納涼祭事業費	総合	108-109
産業観光課	観光の振興	4365	観光イベント開催費	山村都市交流事業費	総合	110-111
産業観光課	観光の振興	4370	観光イベント開催費	越畑紅葉祭事業費	総合	112-113
産業観光課	観光の振興	4371	観光イベント開催費	奥津紅葉祭開催事業費	総合	114-115
産業観光課	観光の振興	4391	各種団体補助金	ひらめ祭実行委員会補助金	総合	116-117
産業観光課	観光の振興	4392	各種団体補助金	奥津温泉足踏み洗濯保存会補助金	簡易	118
産業観光課	観光の振興	4400	電源地域産業育成支援事業費	氷紋まつり開催事業費	総合	119-120
産業観光課	観光の振興	4405	観光振興費	恩原高原緑化事業	総合	121-122
産業観光課	観光の振興	4407	観光振興費	鏡野町文化・スポーツ合宿補助金	総合	123-124
産業観光課	観光の振興	4434	観光振興費	鏡野町観光総合システム運営事業	総合	125-126
産業観光課	観光の振興	4435	観光振興費	町観光団体事業	総合	127-128
産業観光課	観光の振興	4410	観光推進事業	登山道・観光施設等管理事業	簡易	129
産業観光課	観光の振興	4417	観光推進事業	かかみのアクティビティ推進事業	総合	130-131
産業観光課	観光の振興	4450	観光施設管理費	観光施設共通経常管理費	簡易	132
産業観光課	観光の振興	4451	観光施設管理費	観光施設共通臨時管理費	簡易	133
産業観光課	観光の振興	4452	観光施設管理費	越畑ふるさとセンター経常管理費	簡易	134
産業観光課	観光の振興	4456	観光施設管理費	男女山公園経常管理費	簡易	135
産業観光課	観光の振興	4458	観光施設管理費	ふれあい交流広場経常管理費	簡易	136
産業観光課	観光の振興	4462	観光施設管理費	大釣温泉施設経常管理費	簡易	137
産業観光課	観光の振興	4466	観光施設管理費	奥津湖総合案内所経常管理費	簡易	138
産業観光課	観光の振興	4470	観光施設管理費	泉源園地経常管理費	簡易	139
産業観光課	観光の振興	4472	観光施設管理費	ファームビレッジ施設等経常管理費	簡易	140
産業観光課	観光の振興	4474	観光施設管理費	スノーモービルランド施設経常管理費	簡易	141
産業観光課	観光の振興	4476	観光施設管理費	月出原苑地交流施設等経常管理費	簡易	142
産業観光課	観光の振興	4478	観光施設管理費	奥津温泉星の里キャンプビレッジ施設経常管理費	簡易	143
産業観光課	観光の振興	4482	観光施設管理費	ミルクウェイパーク経常管理費	簡易	144
産業観光課	観光の振興	4484	観光施設管理費	オートキャンプ場経常管理費	簡易	145
産業観光課	観光の振興	4486	観光施設管理費	上齋原観光トイレ経常管理費	簡易	146
産業観光課	観光の振興	4488	観光施設管理費	クアガーデンこのか経常管理費	簡易	147
産業観光課	観光の振興	4490	観光施設管理費	妖精の森ガラス美術館経常管理費	簡易	148
産業観光課	観光の振興	4492	観光施設管理費	恩原高原青少年旅行村経常管理費	簡易	149
産業観光課	観光の振興	4496	観光施設管理費	うたたねの里経常管理費	簡易	150
産業観光課	観光の振興	4497	観光施設管理費	うたたねの里臨時管理費	簡易	151
産業観光課	観光の振興	4498	観光施設管理費	野鳥の森経常管理費	簡易	152
産業観光課	観光の振興	4500	観光施設管理費	高清水トレイル経常管理費	簡易	153
産業観光課	観光の振興	4502	観光施設管理費	のとう原キャンプ場経常管理費	簡易	154
産業観光課	観光の振興	4504	観光施設管理費	のとう温泉経常管理費	簡易	155
産業観光課	観光の振興	4506	観光施設管理費	のとう館経常管理費	簡易	156
産業観光課	観光の振興	4510	観光施設管理費	富ふるさと公園経常管理費	簡易	157
産業観光課	観光の振興	4513	観光施設管理費	恩原高原スキー場臨時管理費	簡易	158
産業観光課	観光の振興	4517	観光施設管理費	奥津浜公衆トイレ改修工事臨時管理費	簡易	159
産業観光課	観光の振興	4519	観光施設管理費	恩原高原マウンテンバイクコース経常管理費	簡易	160
産業観光課	観光の振興	4567	観光施設整備事業費	鏡野町観光案内所整備事業費	簡易	161
産業観光課	観光の振興	4568	観光施設整備事業費	なごみ茶屋整備事業費	簡易	162

事業番号	事務事業名	ふるさと納税推進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
00039	政策名	5 みんなでつくる里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	53 効率的な行財政運営の推進	根拠法令等	所得税法、地方税法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	寄附金の受付 返礼品の発注・支払 寄附金受領証明書の発行(送付) ふるさと納税ワンストップ特例制度への対応 町HP・ポータルサイト等の更新管理 県(国)への報告及び指定制度申出	平成20年度の地方税法の改正に伴い受け入れを開始した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア ふるさと納税応援寄附金	ア 寄附金額	千円	見込	20,000	20,000	30,000	30,000	50,000
			実績	20,558	16,712	19,326		
イ 町民以外	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 寄附者の増加	ア 寄附件数	件	目標	1,200	1,200	1,350	1,500	2,000
			実績	1,089	903	897		
			達成率	90.8%	75.3%	66.4%		44.9%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア PR	ア ポータルサイトの増加	サイト	目標	1	1	2	10	10
			実績	1	1	2		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		20.0%
イ 返礼品	イ 返礼品の充実	品	目標	43	43	60	100	120
			実績	43	45	50		
			達成率	100.0%	104.7%	83.3%		41.7%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 鏡野町の行財政	ア 自主的・自律的な行財政運営の確立
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 02		項 01		目 01		大事業 中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		総務費		総務管理費		一般管理費		01	18	ふるさと納税推進事業費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	00039		
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源		7,474	9,441	14,833	23,000	1,967	一般財源		6,723	7,588	14,833	23,000	865			
合計		7,474	9,441	14,833	23,000	1,967	合計(A)		6,723	7,588	14,833	23,000	865			
財源名称							従事正職員人数		1	1	1	1				
							延べ業務事務時間		1,800	200	200	200	-1,600			
							人件費計(千円)(B)		6,052	667	667	667	-5,385			
	最終予算額		9,441 千円	予算執行率	80.3%	トータルコスト(A+B)			12,775	8,255	15,500	23,667	-4,520			

1枚目

事業番号	00039	事務事業名	ふるさと納税推進事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
ふるさと納税に係る指定制度の運用がより厳格なものになってきた。(返礼品基準、地場産地基準、募集適正基準)
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
商工会等関係機関に声掛けをして、返礼品の募集を行ってきた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
ふるさと納税を有効に活用して、鏡野町を全国にPRするべきという声がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 町外の方々から寄附金納付をいただくことは、当町の自主財源の確保、健全な財政運営に資することから、施策体系に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 地方自治体が募集・受付を行うことは、平成20年4月30日に公布された「地方税法等の一部を改正する方法」で規定されており妥当と考えられる。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 ふるさとに貢献したい、応援したいという納税者が寄附金を納付することにより、寄附金税額控除が受けられるものであり適正である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 積極的なPRとともに他の自治体などとの連携、返礼品の見直し等により成果の向上が期待される。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 自主財源の減少、納税者に対する税制面での措置がとれない。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 新たな返礼品提供事業者募集、返礼品の見直し、ポータルサイトの見直し、町外イベントなどでのPR、友好都市などとの連携、運営や管理などノウハウを持った中間業者への委託、寄附者を対象にしたモニターツアーなど	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 現在のところ返礼品や必要最低限の委託料のみであり削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 最低限の人員で対応しているため削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 受益者負担を伴わない事業である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	中間事業者と委託契約を締結し返礼品提供事業者様に対して説明会を実施した。成果が出るまでには至らなかった。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 町内事業者へ対して新たな返礼品提供事業者募集、返礼品の見直し、ポータルサイトの見直し、町外イベントなどでのPR、友好都市などとの連携、運営や管理などノウハウを持った中間業者とともに町でできる戦略的なふるさと納税の返礼品の開発等を行う。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上			○																					
	維持																								
	低下																								
人気の返礼品の数量の確保、新たな返礼品の開拓や県内返礼品の取扱い、当町の特性を反映した寄附金の使途の明示、工夫を凝らした寄附の募集を図らなければならない。 また、ふるさと納税制度が毎年厳格化される中で制度の趣旨を踏まえた適正に事務を執行が求められている。																									

事業番号	事務事業名	農業委員会経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02701	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者
	施策名	21	農業の振興	根拠法令等	農地法、農業委員会等に関する法律	

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	①農業委員会の開催 (農地法に基づく許可可、農業経営基盤強化促進法に基づく許可可事務等) ②証明事務 ③農業委員会サポートシステムの更新管理 ④農業委員会制度改正に伴う条例改正等	昭和26年、農業委員会等に関する法律

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農地権利移動・設定	→ ア 管内の農地面積	ha	見込 実績	2,328 1,810	2,328 1,810	1,810 1,800	1,800	1,800
イ 農地の転用	→ イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農地の適正な権利移動	→ ア 適正に実施された農地の権利移動(農地法及び基盤法、機構法に係る権利移転)	m ²	目標 実績 達成率	900,000 735,827 81.8%	900,000 960,271 106.7%	900,000 976,436 108.5%	900,000	900,000
イ 農地の適正な転用	→ イ 適正に実施された農地の転用	m ²	目標 実績 達成率	20,000 24,726 123.6%	20,000 37,018 185.1%	20,000 33,435 167.2%	20,000	20,000

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業委員会の開催	→ ア 農業委員会開催回数	回	目標 実績 達成率	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12 13 108.3%	12	12
イ	→ イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 01		大事業 中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業委員会費		01	02	農業委員会経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比				
国庫支出金						国庫支出金		620				-620				
県支出金						県支出金				900	900					
町債						町債										
その他特財						その他特財										
一般財源	4,899	3,808	2,040	2,100	2,100	-1,768	一般財源	3,720	2,589	1,693	1,200	1,200	-896			
合計	4,899	3,808	2,040	2,100	2,100	-1,768	合計(A)	3,720	3,209	1,693	2,100	2,100	-1,516			
財源名称	従事正職員人数							1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間							1,600	1,600	1,600	1,600	1,600				
	人件費計(千円)(B)							5,474	5,379	5,336	5,336	5,336	-43			
	最終予算額		2,040 千円		予算執行率		82.9%		トータルコスト(A+B)		9,194	8,588	7,029	7,436	7,436	-1,559

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	農地法等の農業関係法に基づく、農業委員会運営の経常経費であり、町全体の農地及び農家へ関する業務のため、対象と意図は、適切であり、公平・公正である。また、手段方法についても経常経費のため、改善の余地がない。成果の向上については、委員会の運営経費であり、通常運営を支障なく行なっているため、目標水準に達している。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業総務経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02751	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・農業振興を図るための経常経費を支出する。 ・物産館「夢広場」借地料 ・鏡野町振興公社運営補助金 ・会計年度任用職員給与2名分	農業費、水産業費に係る事業を推進するため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農家	ア 販売農家数	戸	見込 実績	900 906	900 906	900 906	900	
イ 農業生産法人、集落営農組織等	イ 農業生産法人、集落営農組織等の数	組織	見込 実績	28 28	28 27	28 27	28	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業生産の維持・拡大	ア 栽培面積(水稲)	ha	目標 実績 達成率	1,200 1,042 86.8%	950 1,022 107.6%	950 995 104.7%	995	
イ	イ 栽培面積(ぶどう)	ha	目標 実績 達成率	8 8 100.0%	8 8 100.0%	8 9 112.5%	8	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 夢広場事業数	ア 夢広場イベント等	件	目標 実績 達成率	2 0 0.0%	2 1 50.0%	2 2 100.0%	2	
イ 公社運営の補助	イ 補助金等額	千円	目標 実績 達成率	9,000 9,000 100.0%	9,000 9,000 100.0%	9,000 9,000 100.0%	9,000	

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		02		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業総務費		農業総務経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	9,366	16,601	16,411	17,610	-190	一般財源	9,329	15,731	16,149	17,610		418		
合計	9,366	16,601	16,411	17,610	-190	合計(A)	9,329	15,731	16,149	17,610		418		
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	240	240	240					
						人件費計(千円)(B)	821	807	800			-6		
	最終予算額	16,411 千円	予算執行率	98.4%		トータルコスト(A+B)	10,150	16,538	16,949	17,610		412		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	各種農業事業遂行における総務的な業務であり、業務内容の変更は少ない。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	有害鳥獣駆除事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02760	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・農地、山林及び放流魚に被害をもたらすイノシシ、ニホンジカ、カワウ等の有害鳥獣の駆除を猟友会駆除班(実施隊)により実施する。 ・被害を受けた農家や地元区長等からの有害鳥獣駆除依頼に基づき、鳥獣保護員の調査を経て、有害捕獲許可書を交付する。	・昭和56.4.1に県から町へ有害鳥獣の捕獲許可に関する権限が移譲された。 ・平成18.4.1に補助金交付要綱を施行した。 ・平成24.10.1に実施隊を設置した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内に生息する有害鳥獣	ア 有害鳥獣の数(推定値)	頭・羽	見込	29,663	29,900	29,000	29,000	29,000
			実績	28,300	28,500	29,000		
イ 捕獲従事者数	イ 捕獲従事者数(実施隊委員数)	戸	見込	120	125	125	125	125
			実績	117	119	115		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農林水産物への被害軽減のため捕獲する	ア 捕獲数	頭・羽	目標	1,670	1,670	1,800	2,200	2,200
			実績	1,625	1,866	2,208		
			達成率	97.3%	111.7%	122.7%		100.4%
イ 有害鳥獣による農林水産物への被害軽減	イ 被害面積	ha	目標	16	15	15	15	15
			実績	16	18	16		
			達成率	99.4%	119.5%	104.7%		104.7%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鳥獣捕獲、追い払い、捕獲檻管理	ア 駆除班員の延べ活動日数	日	目標	1,600	2,500	2,500	2,500	2,500
			実績	2,300	2,500	2,600		
			達成率	143.8%	100.0%	104.0%		104.0%
イ 隊員の確保	イ 許可証交付件数	件	目標	600	600	600	600	600
			実績	598	589	560		
			達成率	99.7%	98.2%	93.3%		93.3%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 02		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業総務費		02	01	有害鳥獣駆除事業費					02760
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金	7,997						国庫支出金	7,997								
県支出金	4,149	5,147	6,349			1,202	県支出金	5,905	5,147	5,672			525			
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	19,082	17,915	18,095			180	一般財源	15,325	16,305	16,665			360			
合計	31,228	23,062	24,444			1,382	合計(A)	29,227	21,452	22,337			885			
財源名称							従事正職員人数	3	3	3						
							県支出金:有害鳥獣駆除班活動奨励事業補助金	延べ業務事務時間	900	900	900					
							県支出金:農作物鳥獣害防止対策事業費補助金	人件費計(千円)(B)	3,079	3,026	3,002		-24			
	最終予算額		24,444 千円	予算執行率	91.3%	トータルコスト(A+B)		32,306	24,478	25,339			861			

事業番号	02760	事務事業名	有害鳥獣駆除事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
実施隊加入希望者も増えているが、実施隊員の高齢化が進んでいる。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
捕獲意欲を高めるため、令和3年から捕獲報奨金を支払う頭数の上限を150頭から300頭へ増加させ、各地区猟友会への交付金増加を図った。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
捕獲報奨金を支払う上限頭数以上に捕獲している一部の駆除班より、上限の撤廃や、上限頭数の増加要望がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 町内の有害鳥獣駆除活動を支援することで、町内農家の農業継続意欲を高める事ができる。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 農業の振興を図るために有害鳥獣駆除を行っている事から、町の関与は農政事業の一環として妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 補助金の交付やわなの配布を行う事で、実施隊委の捕獲意欲を高め、捕獲実績を増加させられている事から、適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 捕獲報奨金を支払う上限頭数や、補助金額の変更などにより捕獲頭数などの成果を向上させる余地はある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 鳥獣による農地の被害が増加する可能性がある。また、被害増加により農家の営農意欲の下落につながる恐れがある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 捕獲状況に配慮して、補助金額を増加させるなどの改善の余地はある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 鳥獣被害防止の為に補助であることから、補助金削減が鳥獣による被害面積拡大につながる恐れがある。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 必要最小限の業務時間であり、削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 実施隊からの申請による補助事業であるため、受益者の公平性は損なわれていない。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	実施隊員の高齢化が進んでいるため、後継者の確保を図る必要がある。高齢化の進んでいる実施隊員の労力軽減のため、猟友会が行う簡易的な処理施設の導入を支援した。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 猟友会と協力し、新規免許取得者に実施隊加入を促し、後継者の確保育成を図る。 駆除班への捕獲補助金の上限頭数を上昇させ、捕獲意欲を高める。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上			○																					
	維持																								
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
実施隊加入後の補助金や優遇制度について新規免許取得者に丁寧に説明し、若い世代の参加を推進する。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	鳥獣被害防止総合対策交付金事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02777	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鳥獣被害防止総合対策交付金交付要綱、同要領		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・H27年度から「鳥獣被害防止総合対策交付金事業」として開始。 ・単価は、イノシシ及びニホンジカ7,000円/頭、ヌートリア1,000円/頭、カワウ・サギ200円/羽。 ・その他の事業メニューとしては、推進事業(囲い罫の設置等)、整備事業(広域での防護柵設置等)がある。	・鳥獣による農林水産業等に係る被害が深刻化、広域化していることに伴い、従来からの鳥獣被害防止対策に加え、鳥獣の捕獲活動を更に強化するために実施。 ・H26年度で「鳥獣被害防止緊急捕獲等対策事業」が終了し、H27年度からは「鳥獣被害防止総合対策交付金事業」が開始。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内に生息する有害鳥獣	ア 有害鳥獣の数(推定値)	頭・羽	見込 実績	29,663 28,300	29,900 28,500	29,000 29,000	29,000	29,000
イ 鳥獣捕獲者	イ 有害駆除班員の数	人	見込 実績	110 113	115 119	125 115	125	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 有害鳥獣による農林水産物の被害軽減	ア 被害金額	千円	目標 実績 達成率	12,500 17,421 139.4%	12,500 18,400 147.2%	12,500 22,137 177.1%	12,500	12,500 177.1%
イ 有害鳥獣による農林水産物の被害軽減	イ 被害面積	ha	目標 実績 達成率	16 16 99.4%	16 18 111.9%	15 16 106.7%	15	—
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鳥獣捕獲	ア 捕獲数	頭・羽	目標 実績 達成率	1,670 1,625 97.3%	1,670 1,866 111.7%	1,800 2,208 122.7%	2,200	2,200 100.4%
イ 捕獲許可証の交付	イ 許可証交付件数	件	目標 実績 達成率	600 598 99.7%	600 589 98.2%	600 560 93.3%	600	—

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		02		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業総務費		鳥獣被害防止総合対策交付金事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金	16,331	18,194	16,668		-1,526	県支出金	15,904	18,018	16,205			-1,813		
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源						一般財源		108	156			48		
合計	16,331	18,194	16,668		-1,526	合計(A)	15,904	18,126	16,361			-1,765		
財源名称	県支出金:鳥獣被害防止総合対策交付金					従事正職員人数	4	4	4					
						延べ業務事務時間	1,800	1,800	1,800					
						人件費計(千円)(B)	6,158	6,052	6,003			-49		
	最終予算額		16,668 千円	予算執行率	98.1%	トータルコスト(A+B)	22,062	24,178	22,364			-1,814		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	捕獲頭数は増加傾向にあるが、被害金額が減少しておらず、野生鳥獣、特にニホンジカの生息数が増加している事が考えられる。 引き続き、広域防護柵の整備を続け、被害の軽減を図る。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	有害鳥獣防護柵設置事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02778	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鳥獣被害防止総合対策交付金交付要綱、同要領		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・イノシシ等による農地及び農作物の被害を防止するため、設置する電気柵、金網、金トタン、ネット等の購入経費の一部を補助する。 ・防護柵を設置した農家から補助金交付申請書を受け、現地調査を経て、交付決定通知をし、速やかに補助金を支払う。	・野生鳥獣被害の防止に向け、有害鳥獣の「捕獲」と相俟って、農作物等を鳥獣から守る「防護」を支援することで有害鳥獣に強い集落づくりを推進する事業を展開してきた。 ・有害鳥獣による農作物の被害を最小限に食い止めるため、防護柵設置に対する補助金交付が開始された。 ・平成27年9月に事業名が変更となった(野猪防護柵設置事業→有害鳥獣防護柵設置事業)。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内に生息するイノシシ	ア イノシシの数(推定値)	頭	見込 実績	7,000 4,550	6,000 5,000	6,000 4,596	6,000	
イ 農家、林家	イ 農家、林家数(経営体数)	戸	見込 実績	1,400 1,418	1,400 1,418	1,400 1,418		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 個体数の適正化	ア イノシシの捕獲数	頭	目標 実績 達成率	800 557 69.6%	800 721 90.1%	800 613 76.6%	800	
イ 農作物の生産拡大	イ 経営耕地面積	ha	目標 実績 達成率	1,100 1,074 97.6%	1,100 1,074 97.6%	1,100 1,074 97.6%	1,100	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金交付申請書の受理・審査	ア 受理・審査件数	件	目標 実績 達成率	200 155 77.5%	200 128 64.0%	200 151 75.5%	200	
イ 現地調査	イ 現地調査件数	件	目標 実績 達成率	200 155 77.5%	200 128 64.0%	200 151 75.5%	200	

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		02 目		08 01 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業総務費		有害鳥獣防護柵設置事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	11,000	8,969	10,000	10,000	100,000	1,031	一般財源	10,316	8,969	9,976	10,000	10,000	1,007	
合計	11,000	8,969	10,000	10,000	100,000	1,031	合計(A)	10,316	8,969	9,976	10,000	10,000	1,007	
財源名称	一般財源					従事正職員人数	2	2	2					
						延べ業務事務時間	680	570	670			100		
						人件費計(千円)(B)	2,326	1,916	2,234			318		
	最終予算額	10,000 千円	予算執行率	99.7%		トータルコスト(A+B)	12,642	10,885	12,210	10,000	10,000	1,325		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	豚熱の影響もあるのかイノシシの被害は減少傾向にあるが、ニホンジカによる被害が増加傾向にあり、背丈の高い防護柵が必要となってきている。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業振興経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02800	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町物産館(夢広場)の特産品等の実演販売を行う味覚祭(春・秋の2回)について、その実施主体である財団法人鏡野町振興公社へ補助金を交付。(令和2年度以降新型コロナにより中止)。 ・大阪茨木市の鏡野町アンテナショップ夢広場に出荷する手数料として鏡野町振興公社に出荷額の10%を手数料として支出。	・平成9年5月物産館「夢広場」が完成し、そのオープンを記念してイベントを実施した。その後、「夢広場」の集客と販売拡大を目的として、同年秋に「味覚祭」を開催し、これが契機となり助成事業が開始された。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業振興に係る各種団体	ア 振興公社	社	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	
イ	イ 味覚祭開催経費	千円	見込 実績	2,000 0	3,500 0	3,500 1,480	3,500	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業の各種団体の活性化	ア 「夢広場」の売上	千円	目標 実績 達成率	150,000 153,173 102.1%	150,000 166,194 110.8%	150,000 190,322 126.9%	150,000	
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町物産館「夢広場」	ア 味覚祭開催回数	件	目標 実績 達成率	2 0 0.0%	2 0 0.0%	2 1 50.0%	2	
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		01 01 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		農業振興経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町 債						町 債								
その他特財						その他特財								
一般財源	4,295	3,059	4,404	4,347	1,345	一般財源	3,359	2,811	4,403	4,347	1,592			
合計	4,295	3,059	4,404	4,347	1,345	合計(A)	3,359	2,811	4,403	4,347	1,592			
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	240	240	240					
						人件費計(千円)(B)	821	807	800			-6		
	最終予算額	4,404 千円	予算執行率	99.9%	トータルコスト(A+B)	4,180	3,618	5,203	4,347	1,586				

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	イベントも定着してきており、多くの町内外からの集客ができた。今後も継続して町の特産品の魅力発信に努めていく。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業振興臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02801	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	エネルギー価格(電気代、水道代)高騰の影響を受ける指定管理者に対し、令和6年度以降も継続して指定管理業務を行う事などを要件とし、補助金の交付を行った。 補助金額は、各指定管理施設の令和4年度に支出しエネルギー代から令和3年度に支出したエネルギー価格の差額としている。	エネルギー価格等の高騰により影響を受ける指定管理者に対して令和6年度以降における指定管理業務継続を目的として令和5年度に事業実施

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業関連施設指定管理者(R5)	ア 農業関連施設指定管理者数(R5)	件	見込 実績			12 12		
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 令和6年度以降も指定管理業務を継続してもらう	ア 令和6年度以降も継続して指定管理業務を行う農業関連施設指定管理者数	件	目標 実績 達成率			12 8 66.7%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の交付	ア 支払回数	回	目標 実績 達成率			8 3 37.5%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		01 02 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		農業振興臨時管理費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			2,165			2,165	一般財源			2,165			2,165	
合計			2,165			2,165	合計(A)			2,165			2,165	
財源名称	従事正職員人数										1		1	
	延べ業務事務時間										24		24	
	人件費計(千円)(B)										80		80	
	最終予算額	2,165 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)				2,245		2,245	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	R6年度から指定管理者の交代がある4施設を除いて、継続して指定管理業務を実施してもらうことができた。 各指定管理者には、エネルギー代の高騰などに対応できるように管理経費縮減を推奨していく。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	中山間地域等直接支払交付金事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02825	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	池田亜加理
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (2 年度~ 6 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	中山間地域に属する集落単位で、農地やその周辺の環境を管理することに対して、町と集落とが協定を結び、農作業に係る経費を補助するため交付金を交付する事業である。交付金の内訳は、国庫50%、県費25%、町費25%である。事務手順は、①集落協定認定(変更)申請書の受理(~6月 ※令和2年度は~8月)、②実施確認(10月)、③交付金交付(2月)、④実績報告書の受理(~3月)である。	平成12年度にスタートしたこの制度は、中山間地域で農業生産を継続する農家に対して交付金を交付し、「適切な農地管理」「集落の共同活動」などに活用することで、将来に豊かな農地と自然を守り伝えるために開始された。令和2年度から6年度は第5期対策となる。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 集落協定を締結した集落	ア 協定締結集落数	集落	見込 実績	99 99	99 99	99 99	99	96
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 集落単位での農地の保安全管理	ア 実施面積	ha	目標 実績 達成率	539 538 99.8%	538 538 100.0%	538 538 100.0%	530	500 107.6%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 制度の推進(説明会・ヒアリング)・協定締結	ア 協定締結集落数	集落	目標 実績 達成率	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99	96 103.1%
イ 現地確認	イ 現地確認集落数	集落	目標 実績 達成率	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99	96 103.1%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		03		06 01					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		中山間地域等直接支払交付金事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金	41,725	41,798	41,583	41,000	40,000	-215	国庫支出金	41,706		41,583	41,000	40,000	41,583	
県支出金	20,862	20,899	20,791	20,500	20,000	-108	県支出金	20,853	62,661	20,791	20,500	20,000	-41,870	
町債							町債							
その他特財	31						その他特財	30	140				-140	
一般財源	20,862	20,899	20,791	20,500	20,000	-108	一般財源	20,853	20,852	20,791	20,500	20,000	-61	
合計	83,480	83,596	83,165	82,000	80,000	-431	合計(A)	83,442	83,653	83,165	82,000	80,000	-488	
財源名称	中山間地域等直接支払交付金事業費					従事正職員人数	3	3	3	3	3			
						延べ業務事務時間	1,000	200	200	200	230			
						人件費計(千円)(B)	3,421	672	667	667	767	-5		
	最終予算額		83,165 千円	予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	86,863	84,325	83,832	82,667	80,767	-493	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	この事業に取り組んでいる集落協定に対し、農用地面積に応じて交付金を交付している。多くの集落協定で高齢化が進み、参加者および取組面積の減少が危ぶまれる。今後、集落組織の減少してく可能性がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	中山間地域等直接支払推進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02830	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	池田亜加理
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	中山間地域等直接支払推進交付金実施要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	中山間地域等直接支払交付金事業の推進指導、審査、確認事務等	中山間地域等直接支払交付金制度の定着に向けて、都道府県及び市町村が行う直接支払交付金交付等の適切かつ円滑な実施の促進のために開始された。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 集落協定を締結した集落	ア 協定締結集落数	集落	見込 実績	99 99	99 99	99 99	99	99
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 集落単位での農地の保全管理	ア 実施面積	ha	目標 実績 達成率	539 538 99.8%	538 538 100.0%	538 538 100.0%	530	500 107.6%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 集落協定及び個別協定の作成指導	ア 作成指導集落数	集落	目標 実績 達成率	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99	96 103.1%
イ 現地確認	イ 現地確認集落数	集落	目標 実績 達成率	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99 99 100.0%	99	96 103.1%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		07 01 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		中山間地域等直接支払推進事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金	182	182	182	164	144		182		164	160	160	164		
県支出金								182				-182		
町債														
その他特財														
一般財源	20	20	30	30	30	10	4	14	29	30	30	15		
合計	202	202	212	194	174	10	合計(A)	186	196	193	190	190	-3	
財源名称	中山間地域等直接支払推進事業費					従事正職員人数	3	3	3	3	3			
						延べ業務事務時間	200	200	200	200	230			
						人件費計(千円)(B)	684	672	667	667	767	-5		
	最終予算額		212 千円	予算執行率	91.0%		トータルコスト(A+B)	870	868	860	857	957	-8	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	中山間地域等直接支払交付金事業の推進に必要な事務費を捻出しており、すべての集落協定に対して公平公正に使用している。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	担い手総合支援事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
02835	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21	農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	農業経営強化のため認定農業者を中心とする担い手の育成、担い手への利用集積、経営構造対策を総合的に推進するため「鏡野町農業再生協議会(担い手育成総合支援事業)」に補助金を支給する事業。「鏡野町農業再生協議会」は町、農業委員会、JA、津山農業普及指導センター、認定農業者代表等の集まりで、補助金をもとに各種研修会、視察などを実施する。 (業務の内容:手順など)①補助金等交付申請書の受理(5月)、②補助金等交付決定通知(5月)、③補助金等実績報告書の受理(翌年3月)、④補助金	担い手育成総合支援協議会設置要領(平成17年4月1日付け16経第8837号農林水産少経営局長通知)の制定に伴い鏡野町地域担い手育成総合支援協議会規約(平成17年6月6日)が制定され認定農業者等の支援を目的として協議会が設立されたため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町農業再生協議会	ア 鏡野町農業再生協議会	団体	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	
イ 認定農業者	イ 認定農業者	人	見込 実績	85 81	85 86	85 84	85	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 担い手対策の推進	ア 認定農業者数	人	目標 実績 達成率	85 81 95.3%	85 86 101.2%	85 84 98.8%	85	
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 本対策を円滑に実施するための事務	ア 認定農業者の面談件数	件	目標 実績 達成率	24 20 83.3%	24 17 70.8%	24 10 41.7%	24	
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		担い手総合支援事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	150	174	150		-24	一般財源	150	174	150			-24		
合計	150	174	150		-24	合計(A)	150	174	150			-24		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1					
	延べ業務事務時間						24	24	24					
	人件費計(千円)(B)						82	81	80			-1		
	最終予算額		150 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		232	255	230	-25

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	認定農業者数については、今年度認定農業者法人の合併等により減少したが、新規で認定農業者となる予定の農業者からの相談も受けており、おおむね目標水準は達成している。 また、今後高齢化等による更新辞退者の増加が懸念されるため、目標は現状維持とする。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業近代化資金等利子補給事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02850	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町農業近代化資金等利子補給金交付規程		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(事務事業の内容) 農業者が資本整備の高度化及び農業経営の近代化(堆肥舎、サイロ、原動機、揚排水用機具等の設備)を図るため、農業近代化助成法に基づき国、県がそれぞれ利子補給をしているものに対して、交付要綱を制定し、農業近代化資金を貸し付けた農業協同組合等に対し、利子補給金を交付している。 (業務の内容:手順など) 利子補給金交付申請の受理、交付決定(確定)通知、支払	農業近代化資金助成法及び岡山県農業近代化資金利子補給金交付要領により借り受けた農業者に対して利子補給することとなり、本町でも上乘せ支援を行うこととなった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の農業従事者	ア 認定農業者	人	見込 実績	85 81	85 86	86 84		
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業近代化資金を借り受けた農家に利子補給を行い農家負担を低減を図る	ア 新規の利子補給件数	件	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 3 300.0%	1 1 100.0%		
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金等交付申請書の受理審査	ア 審査件数	件	目標 実績 達成率	5 2 40.0%	5 5 100.0%	5 2 40.0%	5	5
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		農業近代化資金等利子補給事業費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	55	59	56	108		-3	一般財源	48	55	51	108		-4	
合計	55	59	56	108		-3	合計(A)	48	55	51	108		-4	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1				
							延べ業務事務時間	5	5	5				
							人件費計(千円)(B)	17	17	17			-0	
	最終予算額		56 千円		予算執行率	91.0%		トータルコスト(A+B)	65	72	68	108		-4

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	制度資金に対する利子補給であり、方法・手段の改善余地はない。 指標の基幹的農業従事者数は、高齢化等により減少傾向。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名		地域特産物振興事業補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02870	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	尾崎 颯俊
	施策名	21	農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則 鏡野町地域特産物振興事業実施要領		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	地域の特性を生かした水稻に代わる作物を推進することにより、農業者の意欲向上と地域特産物の育成を図るための事業	地域の特性を活かした特産物の育成を図るため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	町指定の地域特産物の作付を行った農家	→	ア	人	見込	90	90	90	90	90
					実績	79	89	89		
イ		→	イ		見込					
					実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	米作付面積の減少による生産調整の拡大	→	ア	m ²	目標	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200
					実績	3,205	4,407	4,453		
					達成率	51.7%	71.1%	71.8%		71.8%
イ		→	イ		目標					
					実績					
					達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	対象農家への申請(実績)受付	→	ア	件	目標	85	85	85	85	
					実績	69	82	80		
					達成率	81.2%	96.5%	94.1%		
イ	補助金支払い	→	イ	千円	目標	6,300	6,300	6,300	6,300	6,300
					実績	3,687	4,859	5,384		
					達成率	58.5%	77.1%	85.5%		85.5%
ウ		→	ウ		目標					
					実績					
					達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		大 14		中 01		予算上の事業名		事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		地域特産物振興事業補助金						
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	4,500	5,344	5,385	4,500	4,500	41	一般財源	3,687	4,860	5,384	4,500	4,500	524		
合計	4,500	5,344	5,385	4,500	4,500	41	合計(A)	3,687	4,860	5,384	4,500	4,500	524		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1	1		
	延べ業務事務時間						100	100	100	100	100	100	100		
	人件費計(千円)(B)						342	336	334	334	334	334	334	-3	
最終予算額	5,385 千円		予算執行率	99.9%		トータルコスト(A+B)	4,029	5,196	5,718	4,834	4,834	521			

事業番号	02870	事務事業名	地域特産物振興事業補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
開始時期と比べ対象作物の追加、簡易施設の整備支援の追加を行っている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
特になし
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
農家から補助要件の緩和を求める要望があった。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	地域特産物の生産拡大は町農政事業の基幹であり、政策体系と合致する。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	地域特産物の振興という観点からも、町の関与は農政事業の一環として妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	対象作物については、地域特性を生かした収益性の高い作物としており、市場動向などから判断して検討する必要がある。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	補助申請の状況などを考慮し、対象作物の選定や補助金額の変更などにより成果を向上させる余地はある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	転作面積の減少、地域特産物の生産規模が縮小する可能性がある。また転作面積の減少分が主食米の作付に回ると米価の下落につながる恐れがある。
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	作付動向に配慮して、対象作物の選定や補助金額の変更などによる改善の余地はある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	生産拡大を図るための補助であることから、補助金削減が地域特産物の生産面積減少につながる恐れがある。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	業者の収益に直結し、町予算から補助金を交付していることから、業務委託には適さない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	農業者の申請による補助事業であるため、受益者の公平性は損なわれていない。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	生産調整に伴う水稲作付面積の減少と、農業者の収益向上に一定の効果をもたらしている。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 今後も対象作物の選定及び助成単価の調整など、農家の実態に即した補助事業としての運用を行い、地域特産物の増産を図る。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
対象作物の追加にあたっては、営農計画書により、農家の作付内容を正確に把握することが必要。																									

事業番号	事務事業名	就業奨励金支給事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02900	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	岡山県農林漁業担い手育成財団就業奨励金支給事業実施要		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	県内で新規に農林漁業に従事する者で、次の条件に該当する者に対し、就業タイプ別に就業奨励金1人あたり50,000円を支給する。 ア. 将来にわたり専業(年間従事日数が概ね250日以上)として農林漁業経営を続けていく意思と条件を有すること。 イ. 年齢が申請年度初めにおいて、39歳以下であること。 ウ. 過去に就業奨励金の支給を受けたことがないこと。 ただし、夫婦で該当する場合は、いずれか一方のみに支給するものとする。	本町では、後継者がいない等により離農する農家が増える傾向が続くものと見込まれ、新たに農業経営を目指す者が農業経営を始める際に奨励金として支給し、本町農業の担い手確保及び農村地域の活力保持を図る必要があったため、この事業を活用することにした。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の就業者数	ア 15歳以上の就業者数	人	見込	5,576	5,576	5,576		
			実績	5,890	5,890	5,890		
イ			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 担い手の確保と地域農業の中核者として育成する	ア 新規就農者数	人	目標	2	2	2		
			実績	1	2	3		
			達成率	50.0%	100.0%	150.0%		
イ			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 新規就農者	ア 相談を受けた件数	人	目標	15	15	15		
			実績	19	17	13		
			達成率	126.7%	113.3%	86.7%		
イ			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		就業奨励金支給事業費					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金	25	75	50		-25	県支出金	25		50			50		
町債						町債								
その他特財						その他特財		75				-75		
一般財源	25	75	50	100	-25	一般財源	25	75	50	100		-25		
合計	50	150	100	100	-50	合計(A)	50	150	100	100		-50		
財源名称	岡山県農林業担い手育成財団助成金					従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	10	10	10					
						人件費計(千円)(B)	34	34	33			-0		
	最終予算額		100 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)	84	184	133	100		-50		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	県要綱による事業。 新規就農者の掘り起こし及び就農相談については、関係機関と連携して対応しており、最適な支援策活用に努める。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	自立農家組織育成対策補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02920	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	池田亜加理
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町自立農家主婦の会の活動に対する補助金を交付する事業。この会は、農業に意欲的な農家女性で構成されている。 ・業務手順は、①交付申請書の受理、②交付決定通知、③実績報告書の受理、④額の確定通知、⑤請求書の受理、⑥補助金の支払である。	・昭和52年7月15日、農家の生活改善、技術の向上と親睦を図るために設立した。事務局は、晴れの国岡山農業協同組合西部アグリセンターに置く。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町自立農家主婦の会	ア 組織数	組織	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	1
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 会員相互の意識の高揚と技術の向上・習得	ア 会員数	人	目標 実績 達成率	12 11 91.7%	11 12 109.1%	12 12 100.0%	12	12 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 担い手の確保	ア 交流会開催	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ 農地の保全、産地間競争力の確保	イ 講習会開催	回	目標 実績 達成率	2 0 0.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		24 01 予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		自立農家組織育成対策補助金						
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財									
一般財源	60	60	60	60	60	一般財源	60	60	60	60	60				
合計	60	60	60	60	60	合計(A)	60	60	60	60	60	0			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1					
	延べ業務事務時間						20	20	10	10			-10		
	人件費計(千円)(B)						68	67	33	33			-34		
	最終予算額		60 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		128	127	93	93	60

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
見直し余地がある	目標水準に達している	新規の会員数を増やし、活動参加者間で生産技術の交換や伝承を進め、後継者の育成を図ることが必要。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業後継者組織育成対策補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02921	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(内容)鏡野町青年農業者クラブ泉会に対する補助金を支給する事業である。町内で農業に従事する青年が、仲間作りや、農業技術の習得・農業の改良等の実践を通し、社会に役立つ人間形成を目指すための活動助成をした。泉会は青年農業者の集まりで、町からの補助金をもとに講習会や視察研修会や各イベントへの参加などを実施する。 (業務の手順)①補助金等交付申請書の受理(4月)、②交付決定通知(4~5月)、③実績報告書の受理(翌3月)、④確定通知(翌3月)、⑤請求書の受	合併以前から旧鏡野町、旧奥津町で青年農業者クラブがあったが町村合併後に一つとなった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア クラブ会員	ア クラブ会員数	人	見込	15	15	15	15	
イ	イ		実績	14	19	17		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 会の活発な活動につなげる	ア 会の活動回数	回	目標	9	9	9	9	
イ	イ		実績	7	15	16		
			達成率	77.8%	166.7%	177.8%		
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 事務局としての事務	ア 団体に係る事務的件数(補助金申請、総会準備、視察研修依頼、会計監査等)	件	目標	5	5	5	5	
イ	イ		実績	3	3	3		
			達成率	60.0%	60.0%	60.0%		
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		24 02 中事業 大事業					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		農業後継者組織育成対策補助金					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	135	135	165		30	一般財源	135	135	165			30		
合計	135	135	165		30	合計(A)	135	135	165			30		
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	30	30	30					
						人件費計(千円)(B)	103	101	100			-1		
	最終予算額		165 千円		予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)	238	236	265		29		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	この事業があることで各産品の後継者がつながりを持ち、さらに次世代の青年農業者が連携することで地域が活性化し、鏡野町特産品の産地が維持されている。このことから適切な政策と思われる。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	生活交流グループ協議会補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02927	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	池田亜加理
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町農村生活交流グループ協議会の活動に対する補助金を交付する事業。当協議会は、農村生活の健全な発展のため、研修会(年2回程度)を開催している。 ・業務手順は、①補助金交付申請書の受理、②交付決定通知、③実績報告書の受理、④確定通知、⑤請求書の受理、⑥補助金の支払である。	・平成17年12月12日、町内の生活交流グループが集まり、協議会を設置した。 ・現在の構成グループ数は3グループ。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町農村生活交流グループ協議会	ア 構成グループ数	グループ	見込 実績	3 3	3 3	2 2	2	2
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農村生活の健全な発展のためのグループ活動の強化	ア 構成員数	人	目標 実績 達成率	20 18 90.0%	20 16 80.0%	16 16 100.0%	16	16
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金等実績報告書の受理・審査	ア 研修会の開催	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2
イ 補助金の支払い	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		生活交流グループ協議会補助金						
	24	08											02927		
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	70	60	60	60	60		一般財源	60	60	60	60	60			
合計	70	60	60	60	60		合計(A)	60	60	60	60	60	0		
財源名称	従事正職員人数							1	1	1	1				
	延べ業務事務時間							8	8	12	12		4		
	人件費計(千円)(B)							27	27	40	40		13		
	最終予算額		60 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		87	87	100	100	60

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	会員の高齢化が進み、今後、団体の存続が危ぶまれる。 新規の会員数を増やし、活動参加者間で生産技術の交換や伝承を進め、後継者の育成を図ることが必要。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	利用権設定促進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02950	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町利用権設定促進事業実施要領		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	交付対象者(認定農業者)に対し一定の要件で補助金を支給する。 農地の賃借権設定等の権利移動に対し、促進費の交付を行う事業。 交付額(円/10a)は、5年以上10年未満16,000円、10年以上25,000円 手順 ①交付申請書の受理、②交付申請書の審査、③交付決定通知(額の確定)、④促進費支払、⑤振込通知	米価の低迷、高齢化等により、農業経営が困難となる中、耕作放棄地の発生防止と担い手育成を目的として、旧鏡野町が平成13年度から開始し、合併後も継続して実施している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 認定農業者	ア 認定農業者数	人	見込 実績	85 81	85 86	85 84	85	
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 利用権設定によって農地集積を促進させる	ア 農地集積面積	ha	目標 実績 達成率	12 14 116.7%	12 22 183.3%	12 26 216.7%	12	
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 交付申請受付	ア 交付申請件数	件	目標 実績 達成率	11 19 172.7%	11 19 172.7%	11 22 200.0%	11	
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		27 01 中事業 大事業					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		利用権設定促進事業費					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	7,250	7,137	8,379	4,000	1,242	一般財源	6,994	6,580	8,343	4,000	1,763			
合計	7,250	7,137	8,379	4,000	1,242	合計(A)	6,994	6,580	8,343	4,000	1,763			
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	50	50	50					
						人件費計(千円)(B)	171	168	167			-1		
	最終予算額	8,379 千円		予算執行率	99.5%		トータルコスト(A+B)	7,165	6,748	8,510	4,000	1,762		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	農地集積を進めるうえで一定の成果がでている。実施者一年分の抽出を効率的に行う必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	新規就農奨励事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02952	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町新規就農奨励事業実施要領		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	就農奨励金交付対象者(要件有)に対する補助金を支給する事業である。 要件①将来にわたり専業(年間従事日数がおおむね200日以上)として、農業経営を続けていく意思と条件を有すること。②年齢が就農開始年度始めにおいて、15歳以上40歳以下であること。③夫婦で該当する場合は、いずれか一方のみに交付するものとする。④町内に住民票を有するとともに生活の実態があり、今後も居住し続けること。以上の要件に当てはまる者に対し3年間で総額1,000千円を奨励金として支給する。※1年目400千円、2年目300千	本町では、後継者がいないこと等により離農する農家が増える傾向が続くものと見込まれ、新たに農業経営を目指す者が農業経営を始める際に奨励金として支給し、本町農業の担い手確保及び農村地域の活力保持を図る必要があった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内就業者数	ア 15歳以上就業者数	人	見込	5,576	5,576	5,576	5,576	5,576
			実績	5,890	5,890	5,890		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 新規就農者を確保し、自立し優れた経営の地域農業の担い手へ成長させる	ア 新規就農者数	人	目標	2	2	2	2	2
			実績	3	5	3		
			達成率	150.0%	250.0%	150.0%		150.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 就農相談	ア 相談の件数	回	目標	15	15	15	15	15
			実績	19	17	13		
			達成率	126.7%	113.3%	86.7%		86.7%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		事業 27		中事業 03		予算上の事業名		事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		新規就農奨励事業費		新規就農奨励事業費		02952		
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込		前年比	
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	1,300	2,100	2,400	3,000		300	一般財源	1,300	2,100	2,400	3,000		300		
合計	1,300	2,100	2,400	3,000		300	合計(A)	1,300	2,100	2,400	3,000		300		
財源名称							従事正職員人数	1	1	1					
							延べ業務事務時間	35	35	35					
							人件費計(千円)(B)	120	118	117			-1		
	最終予算額	2,400 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	1,420	2,218	2,517	3,000		299		

1枚目

事業番号	02952	事務事業名	新規就農奨励事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
国の新規就農者向けの交付金は近年、要件が厳格化している。 また、本事業の開始時期と比べて、農業従事者数等が好転しているとは言えない。
②この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
改革改善は行っていない。
③この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
一部住民より、対象年齢引き上げの意見あり。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか?意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 新規就農者の育成により担い手を確保することは、政策体系に結びつく。
	②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか?税金を投入して行うべき事業か?住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 町農業の振興を図るうえで担い手を育成することは行政の役割であり、妥当である。
	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 鏡野町内で新規就農する者に対する助成であり、妥当である。
効率性 評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか?成果を向上させる有効な手段はないか?何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 新規就農者の確保・育成に一定の効果があるものと考えられる。
	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は?目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 廃止した場合、新規就農者が減少する可能性がある。
	⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 交付金の支払事務、激励式開催業務のみであり、改善余地はない。
公平性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 交付金を主な手段としており、削減は難しい。
公平性 評価	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 県や後継者クラブなどの関係機関、団体と情報を共有して新規就農者の情報収集を行っており、効率的な事業遂行に努めている。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか?受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 岡山県新規就農研修ガイドブックに本制度を記載する等、周知を行っており公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果	②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	管内の市町村には例のない、鏡野町独自の支援策であり、新規就農を検討する者に対して呼び水となっている。また、関係機関及び関係団体と連携して新規就農者の掘り起こしに努めており、新規就農者の確保に一定の効果がある。																						
B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p>今後の改革改善案</p> <p>就農後も、農地や特産品の担い手として成長を促すため、関係機関と連携して対応していく。</p>																						
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
新規就農者の掘り起こしや高齢等により農業をリタイヤする農家の把握が課題である。																							

事業番号	事務事業名	特産物組織育成対策補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02960	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	尾崎 颯俊
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	地域特産物の生産組織に補助金を交付する事業である。補助金は、栽培講習会の開催、新規栽培者の掘り起し、先進事例調査等に活用される。業務手順は、①交付申請書の受理、②交付決定通知、③実績報告書の受理、④額の確定通知、⑤請求書の受理、⑥補助金の支払である。	園芸振興を図るため、鏡野町園芸生産組合協議会の構成組織の活動に対し、晴れの国岡山農協(事務局)からの助成要望を受け、補助金交付が開始された。晴れの国岡山農協も同様に、各組織に助成をしている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 特産物の生産拡大	ア 構成組織数	グループ	見込	8	8	8	8	8
イ	イ		実績	8	8	8		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 特産物の生産拡大	ア 構成員数	人	目標	150	150	150	150	150
イ	イ		実績	135	134	136		
			達成率	90.0%	89.3%	90.7%		90.7%
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 活動のための支援	ア 補助金の支払金額	千円	目標	480	480	480	480	480
イ	イ		実績	444	480	480		
			達成率	92.5%	100.0%	100.0%		100.0%
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		28 01 大事業 中事業					事業番号	
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		特産物組織育成対策補助金						
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財									
一般財源	480	480	480	480	480	一般財源	444	480	480	480	40				
合計	480	480	480	480	480	合計(A)	444	480	480	480	40	0			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						15	15	15	15	15				
	人件費計(千円)(B)						51	50	50	50	50	-0			
	最終予算額		480 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		495	530	530	530	90

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	各生産部会の生産者が若干の減少傾向となっている。引き続き生産部会への支援を行い、生産者の増加を図る。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	花のプロムナード推進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02968	政策名	4	係名	農政係	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	43	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	「国民宿舎いつき」裏の田などに花を植えつけ、管理を行う。(一般財団法人上齋原振興公社に業務委託) 上齋原花のプロムナード維持管理業務の見積もりにより管理作業(耕作、除草、苗植え、刈り払い等)発注する。前払金を支出し、実績報告により業務内容を精査し、委託期間終了時に残額を支出する。	平成3年ミルキーウェイパークの完成に合わせ、休耕田を地元住民より借り上げて花を植え、景観整備した。これにより周辺の観光、文化、スポーツ施設の集客増を図る。平成8年度より地元の農業者の生産した花の苗使用している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 花のプロムナードへの見学者	ア 見学者数(推計)	人	見込 実績	1,500 1,500	1,500 1,500	1,500 400	1,500	1,500
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 上齋原地域への観光客の来訪数増加	ア 周辺施設 国民宿舎いつき	人	目標 実績 達成率	20,000 5,428 27.1%	20,000 5,374 26.9%	0 0 -	0	0
イ	イ 周辺施設 クアガーデンこのか	人	目標 実績 達成率	40,000 14,837 37.1%	40,000 18,515 46.3%	40,000 15,558 38.9%	40,000	40,000
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	ア 花の植え付け(草刈り・耕作・苗植え付)	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町民	ア 自然環境保全の意識を高め、保全活動をしてもらう
イ 町内の自然環境と生態系	イ 自然環境や歴史資産と調和した個性ある魅力的な景観を保全する
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		01 款 06		01 項 01		03 目 03		32 01 中事業 大事業					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		花のプロムナード推進事業費					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	1,194	1,194	1,194	1,078	1,078	一般財源	1,194	1,194	1,194	1,078	1,078			
合計	1,194	1,194	1,194	1,078	1,078	合計(A)	1,194	1,194	1,194	1,078	1,078	0		
財源名称						従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	3	3	3	3	3			
						人件費計(千円)(B)	10	10	10	10	10	-0		
	最終予算額	1,194 千円	予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	1,204	1,204	1,204	1,088	1,088	-0		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	国民宿舎いつきが休館のため、見学者が以前のように見込めない。ウォーキングや登山に来る方の立ち寄りコースに含まれるような広報の工夫が必要。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	産業まつり開催事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02973	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	池田亜加理
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	①主催者会議の開催(商工会・森林組合・農協・観光協会) ②イベント内容及び委託業者を選定する企画コンペティションの実施~契約 ③チラシ等の作成、配布 ④出店関係者会議の開催 ⑤警備関係協議 ⑥会場準備	鏡野地域の産業の活性化を目的に平成3年から始まった。果物・野菜等が豊富で、なかでもぶどう作りが盛んであり、農協が中心となって産業のお祭りが始まった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民及び町外者	ア 鏡野町人口	人	見込	12,143	12,143	11,627	11,455	11,280
			実績	12,497	12,358	11,280		
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績	1,190	1,190	1,200		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町特産品のPRを行う	ア 来場者数	人	目標		15,000	15,000	15,000	1,500
			実績		8,000	9,000		
			達成率		53.3%	60.0%		600.0%
イ 多くの人に鏡野町を知ってもらう	イ 観光入込客数	千人	目標	1,100	1,100	1,100	875	900
			実績	790	948	828		
			達成率	71.8%	86.2%	75.3%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 出店店舗を増やす	ア 店舗数	店	目標		35	35	35	35
			実績		22	33		
			達成率		62.9%	94.3%		94.3%
イ チラシの配布	イ チラシ配布数	枚	目標		41,000	41,000	41,000	41,000
			実績		41,000	42,000		
			達成率		100.0%	102.4%		102.4%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		大 37	中 01	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費				産業まつり開催事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	02973			
国庫支出金						国庫支出金										
県支出金						県支出金										
町債						町債										
その他特財						その他特財										
一般財源	5,025	3,352	4,000		-1,673	一般財源	4,934	3,349	4,000			-1,585				
合計	5,025	3,352	4,000		-1,673	合計(A)	4,934	3,349	4,000			-1,585				
財源名称					従事正職員人数			2	2							
					延べ業務事務時間			150	160			10				
					人件費計(千円)(B)			504	534			29				
	最終予算額	3,352 千円	予算執行率	99.9%	トータルコスト(A+B)			5,438	3,883	4,000			-1,556			

1枚目

事業番号	02973	事務事業名	産業まつり開催事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
平成17年の合併以降は全町イベントとして、鏡野ドーム内外で多くの団体が参加。野菜、果物、花の販売の他に原子力の必要性、安全性の知識普及を図るイベントとして開催されてきた。平成24年度からは財源は一般財源のみ。また、参加型イベントとしてかかしコンテスト、丸太切り競争など共催団体からも企画が加わっている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
鏡野町の産業PRという目的のため主催団体(農協、商工会、森林組合、観光局)それぞれの団体PRや、姉妹都市縁組をしている市町村のPRなどを行った。令和5年度は新型コロナウイルス感染症が落ち着いた中での開催ではあったが、ステージイベントを中止して開催をした。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
鏡野町産業の紹介の場として、参加型のイベントを導入し地域民への関心を深めることが鏡野町の産業の活力になるのではとの声も出ている。来年度はステージイベント復活を望む声があった。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	農協、森林組合、商工会及び町内各種団体等による協働イベントを開催し、町内外より多くの来場をいただき、鏡野町の農林業、商工業の振興に寄与している。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	鏡野ドーム周辺に来る多くの来場者に対して、農林業及び商工業、観光業や特産品をPRできていることから、開催目的は十分に果たしている。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	農林業、商工業、観光業と町特産品のPRを目指した事業として妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	会場内のスペースに限りがあり、店舗数をこれ以上増すことは難しい。新たな出店スペースを確保し、販売メニューを充実させることができれば、集客力を高めることも可能。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	事業を廃止した場合、町の農林業、商工業、観光業や特産品をPRする場が少なくなり、関係者の意欲が削がれる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	開催場所、開催方法については、代替案が無く、改善の余地はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	委託費などは最低限の予算で事業を実施しており、削減は難しい。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	駐車場スタッフなどに職員を動員しており、これ以上の人件費削減は難しい。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町内外の多数の人々を対象としており、公平といえる。	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	限られたスペースの中で最大限の店舗数を確保することで、多くの来場者に鏡野町の産業や特産品をPRすることができた。コロナ過での開催となったことからステージイベントを中止したが、鏡野町グルメやぶどうを目当てに来場した幅広い層に楽しんでもらえるイベントとなった。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 ・広告宣伝の効率化 ・ぶどう以外の目玉コンテンツの育成		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
SNSを活用した宣伝活動。新たな販売メニューの拡充。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	地域農業再生事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02995	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	尾崎 颯俊
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	経営所得安定対策等交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	経営所得安定対策の実施に必要な推進活動のうち、鏡野町が行う現場における推進活動や要件確認等に必要となる経費を鏡野町農業再生協議会へ国(県)が助成する事務費	平成22年度の戸別所得補償制度モデル事業から開始。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町農業再生協議会	ア 鏡野町農業再生協議会	団体	見込	1	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	1	1		
			見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 本対策の推進	ア 対象農家数	人	目標	2,724	2,724	2,724	2,724	2,724
			実績	2,657	2,639	2,631		
			達成率	97.5%	96.9%	96.6%		96.6%
イ	イ 経営所得安定対策加入件数	件	目標	500	500	500	500	500
			実績	376	392	328		
			達成率	75.2%	78.4%	65.6%		65.6%

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 本対策を円滑に実施するための事務費	ア 農業再生協議会総会	回	目標	2	2	2	2	2
			実績	2	2	3		
			達成率	100.0%	100.0%	150.0%		150.0%
イ 本対策の加入の推進、手続き処理	イ 営農計画書処理件数	件	目標			2,724	2,724	2,724
			実績			2,830		
			達成率			103.9%		103.9%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		地域農業再生事業費					
3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比		
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込	(千円)	実績	実績	実績	見込	見込			
国庫支出金	2,934	2,794	2,790	2,790	2,790	-4	国庫支出金	2,794	2,790	2,790	2,790	2,790		
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源							一般財源							
合計	2,934	2,794	2,790	2,790	2,790	-4	合計(A)	2,794	2,790	2,790	2,790	2,790		
財源名称	地域農業再生事業補助金					従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300			
						人件費計(千円)(B)	4,447	4,371	4,336	4,336	4,336	-35		
	最終予算額		2,790 千円		予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)	7,241	7,161	7,126	7,126	7,126	-35	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	今後も現状を維持していく。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	人・農地問題解決加速化支援事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02997	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	人・農地問題解決推進事業実施要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	人・農地プラン(地域農業マスタープラン)作成に係る事務費	平成24年度からの国の新規事業を進めるため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の農業従事者	ア 基幹的農業従事者数	人	見込 実績	1,100 719	1,100 719	1,100 719	1,100	
イ 集落	イ 集落数	集落	見込 実績	84 84	84 84	84 84	84	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア プランを作成してもらう	ア プラン作成地区	地区	目標 実績 達成率	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12	
イ プランを実質化する	イ 実質化されたプランの作成地区	地区	目標 実績 達成率	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア プランの実質化業務(アンケート結果の地図化)	ア 地図化を行った地区数	件	目標 実績 達成率	0 0 -	0 0 -	0 0 -	0	
イ プランの実質化業務(更新協議)	イ 協議を行った地区数	地区	目標 実績 達成率	10 10 100.0%	0 0 -	0 0 -	0	

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		人・農地問題解決加速化支援事業					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	1,771	2,328	1,197	1,545		-1,131	一般財源	1,428	1,723	1,191	1,545		-532	
合計	1,771	2,328	1,197	1,545		-1,131	合計(A)	1,428	1,723	1,191	1,545		-532	
財源名称	従事正職員人数						1	1	1					
	延べ業務事務時間						480	240	240					
	人件費計(千円)(B)						1,642	807	800				-6	
	最終予算額		1,197 千円		予算執行率		99.4%		トータルコスト(A+B)		3,070	2,530	1,991	1,545

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	人・農地プランの実質化は令和3年度で完了しており、実質化後の管理、プランの内容変更等を実施。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業次世代人材投資事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
02998	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	新規就農・経営継承総合支援事業実施要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	農家の高齢化が進む中、農業の健全な発展と農村の活性化を図っていくためには、農業経営の担い手となる青年の新規就農者の確保・育成が課題となっている。こうした中、新規就農者の確保対策として青年就農給付金事業を創設し、就農初期段階の経営が不安定な青年就農者に対して補助金を支給する。	平成24年度からの国の新規事業を進めるため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 50歳以下の新規就農者	ア 新規就農者数	人	見込 実績	2 3	2 4	2 3	2	
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 就農計画を達成させ、将来は地域農業発展の中核者として育成し、農業経営を安定させる	ア 事業実施者の農業継続者数	人	目標 実績 達成率	10 10 100.0%	10 10 100.0%	10 10 100.0%	10	10
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 給付期間内の事業実施者に補助金の支払い	ア 支払い対象者数	人	目標 実績 達成率	3 2 66.7%	3 2 66.7%	3 1 33.3%	1	1
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		58 01 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		農業次世代人材投資事業					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金	4,500	4,500	1,500	1,500		-3,000	県支出金	3,000	2,250	1,500	1,500		-750	
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源							一般財源							
合計	4,500	4,500	1,500	1,500		-3,000	合計(A)	3,000	2,250	1,500	1,500		-750	
財源名称	農業次世代人材投資事業						従事正職員人数	1	1	1				
							延べ業務事務時間	300	300	300				
							人件費計(千円)(B)	1,026	1,009	1,001			-8	
	最終予算額	1,500 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	4,026	3,259	2,501	1,500		-758	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	近年、国の要件が厳格化していることもあり、対象者数が減少。令和4年度の制度改正により新規受付は廃止。代替事業である新規就農者育成総合対策(国)の活用を図る。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	園芸総合対策事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03010	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	担当者・シート作成者	尾崎 颯俊
	施策名	21	農業の振興	根拠法令等	岡山県園芸総合対策事業実施要領・鏡野町補助金交付規程	

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・園芸作物の生産拡大や品質向上を図るための条件整備(ハウス、果樹棚等、機械・設備、種苗等の導入)に対し補助金を交付する。JAが事業実施主体で、県補助金に町費を加えて間接交付する。主な対象作物は、リンドウ、アスパラガス、ブドウ ・業務手順は、①事業計画の承認、②補助金割当内示、③補助金交付申請書の受理、④交付決定、⑤実績報告書の受理、⑥現地確認・確定通知、⑦請求書の受理、⑧補助金の支払	平成26年度からの新事業 ・これまでの園芸作物全体を県内一円で広く底上げする方法では、市場や消費者のニーズに十分に対応できなくなっているのが現状である。マーケットインへ視点を移し、「選択と集中」により事業を再構築し、ブランド力の向上や供給力の強化を図る。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 園芸作物の栽培農家	ア 受益農家数(リンドウ、アスパラ、ブドウ)	戸	見込 実績	15 10	15 11	15 7	15	15
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 園芸作物の生産拡大	ア 受益面積(リンドウ、アスパラ、ブドウ)	ha	目標 実績 達成率	2 1 47.5%	2 1 25.0%	2 1 50.0%	2	2 50.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア JAからの実績報告書	ア 受理・審査件数	件	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 4 133.3%	4 3 75.0%	4	4 75.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		園芸総合対策事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金	114	772	730		-42	県支出金	114	772	730			-42		
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	1,459	1,262	2,952		1,690	一般財源	1,459	1,262	2,952			1,690		
合計	1,573	2,034	3,682		1,648	合計(A)	1,573	2,034	3,682			1,648		
財源名称	県支出金:岡山県園芸総合対策事業補助金					従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	50	50	50	50	50			
						人件費計(千円)(B)	171	168	167	167	167	-1		
	最終予算額	3,682 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)	1,744	2,202	3,849	167	167	1,647			

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	県予算の不足により、要望に対応できていない作物もある。 国事業である産地生産基盤パワーアップ事業とあわせて取り組み、更なる面積等の拡大を図る。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農地集積・集約化対策事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03012	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	農地集積・集約化対策事業費補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	農地中間管理機構による担い手への農地集積と集約化へ協力した農家へ補助を行う。 ○経営転換協力金 15,000円/10a (上限50万円/戸) ○地域集積協力金 2割超4割以下1万円/10a・4割超7割以下1.6万円/10a・7割超2.2万円/10a	平成26年度から国の新規事業を推進するため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農家	ア 総農家数	人	見込 実績	1,400 1,418	1,400 1,418	1,400 1,418	1,400	
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 中心経営体への集積を加速させる	ア 中間管理機構による農地集積面積	ha	目標 実績 達成率	10 8 80.0%	10 11 110.0%	10 14 140.0%	10	
イ	イ 補助対象件数	件	目標 実績 達成率	20 9 45.0%	20 0 0.0%	20 0 0.0%	20	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の支払い	ア 実施件数	件	目標 実績 達成率	20 7 35.0%	20 0 0.0%	20 0 0.0%	20	
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		農地集積・集約化対策事業費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金	3,210	1,600	758	14		-842	県支出金	651		11			11	
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源							一般財源	40	135				-135	
合計	3,210	1,600	758	14		-842	合計(A)	691	135	11			-124	
財源名称	農地集積・集約化対策事業費補助金						従事正職員人数	1	1	1				
							延べ業務事務時間	300	20	20				
							人件費計(千円)(B)	1,026	67	67			-1	
	最終予算額		758 千円		予算執行率	1.4%		トータルコスト(A+B)	1,717	202	78			-125

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	制度変更により、中間管理機構が自ら事業を行うことがなくなったため、該当者は減少する見込み。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	産地生産基盤パワーアップ事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03017	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	尾崎 颯俊
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	産地生産基盤パワーアップ事業実施要領		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	水田・畑作・野菜・果樹等の産地について、農業の国際競争力の強化を緊急に実施するため、産地生産基盤パワーアップ事業に取り組む農業者団体等に対し、産地としての高収益化に向けた取組を支援する。JAが取組主体で、国からの補助金を町を通して間接交付する。	令和3年からブドウを対象に実施。町の特産品であるブドウについて、パイプハウスや高度環境管理装置等を導入する事で、販路拡大や新たなニーズに対応できる産地育成を図る。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア ぶどうの栽培農家数	ア 受益農家数	戸	見込	10	10	8	8	8
イ	イ		実績	7	4	4		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 園芸作物の生産拡大	ア 受益面積	ha	目標	1	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	0	1		
			達成率	75.0%	47.0%	100.0%		100.0%
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア JAからの実績報告の受理・審査	ア 受理審査件数	件	目標	1	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	1	1		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		産地生産基盤パワーアップ事業費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金	8,540	3,350	17,824			14,474	国庫支出金							
県支出金							県支出金	8,515	3,350	17,824			14,474	
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源							一般財源							
合計	8,540	3,350	17,824			14,474	合計(A)	8,515	3,350	17,824			14,474	
財源名称	国支出資金:産地生産基盤パワーアップ事業費補助金						従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	300	300	300	300	300		
							人件費計(千円)(B)	1,026	1,009	1,001	1,001	1,001	-8	
	最終予算額	17,824 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)			9,541	4,359	18,825	1,001	1,001	14,466	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	この事業でブドウ栽培資材を導入する事で、栽培面積等増加しており、鏡野町の特産品であるブドウの産地が維持されている。このことから適切な政策と思われる。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	鏡野町特産物応援事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03030	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町新型コロナウイルス感染症経済・生活支援対策事業		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	新型コロナウイルス感染症の影響で販路が減少している町内の農産物出荷者に対し、販路拡大を促進するため、農産物等を大阪のアンテナショップに出荷する際の集荷手数料のうち15%を補助金として出荷者に支払う事業。	令和2年度に新型コロナウイルス感染拡大の影響で販路が減少している町内の農産物出荷者の販路拡大を支援するため、鏡野町新型コロナウイルス感染症経済・生活支援対策事業の一環として行った。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 事業の対象となる農産物等出荷者	ア 大阪アンテナショップ町内出荷者数	人	見込 実績	40 45	45 54	55 52	60	
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 大阪アンテナショップ出荷者への補助金交付	ア 大阪アンテナショップへの出荷総額	千円	目標 実績 達成率	13,000 12,917 99.4%	13,000 13,237 101.8%	13,500 11,628 86.1%	13,500	
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 新規出荷者の確保	ア 新規出荷者	人	目標 実績 達成率	5 6 120.0%	5 3 60.0%	5 3 60.0%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		鏡野町特産物応援事業					
	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金		244				-244	県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	2,350	2,566	1,937			-629	一般財源	2,283	2,572	1,559			-1,013	
合計	2,350	2,810	1,937			-873	合計(A)	2,283	2,572	1,559			-1,013	
財源名称	県:農山村地域資源活用促進事業						従事正職員人数	1	1	1				
							延べ業務事務時間	150	150	150				
							人件費計(千円)(B)	513	504	500			-4	
	最終予算額	1,937 千円		予算執行率	80.4%		トータルコスト(A+B)	2,796	3,076	2,059			-1,017	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	大阪夢広場への出荷者は増加傾向となっている。当事業について更なる周知を図り、町内農家の販路拡大を支援する。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業振興センター事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03025	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	夢アグリが使用する大豆保管用冷蔵庫について、旧JA鏡野支店立ち退きに伴い移転が必要となった。、夢広場敷地内に冷蔵庫、上屋の新設を行った。	鏡野町の主要産業の一つである農業の体制強化のため、農業第三セクター3社を合併し、地域の農業をけん引する組織とするため令和3年度より検討を開始し、実施している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の農業従事者	ア 農業従事者数	人	見込	2,078	2,078	2,078	2,078	2,078
			実績	2,078	2,078	2,078		
イ 農地	イ 経営耕地面積	ha	見込	1,074	1,074	1,074	1,074	1,074
			実績	1,074	1,074	1,074		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業三セクの耕作面積	ア 農業三セクの利用権設定面積(水張)	ha	目標	859	876	900	900	90
			実績	859	876	901		
			達成率	100.0%	100.0%	100.1%		100.1%
イ 農業関連三セクの集約	イ 三セクの団体数	法人	目標	4	4	2	2	2
			実績	4	4	2		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業機械の導入支援	ア 導入した機械の金額	千円	目標			18,000	20,000	20,000
			実績			10,884		
			達成率			60.5%		54.4%
イ			目標					
			実績					
			達成率					
ウ			目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		大 73		中 01		予算上の事業名			事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		73		01		農業振興センター事業費			
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源		5,750	60,044	106,216		54,294	一般財源		6,158	43,766	106,216		37,608			
合計		5,750	60,044	106,216		54,294	合計(A)		6,158	43,766	106,216		37,608			
財源名称			従事正職員人数					2	2	2						
			延べ業務事務時間					200	400	400						
			人件費計(千円)(B)					684	1,345	1,334			-11			
	最終予算額	60,044 千円	予算執行率		72.8%		トータルコスト(A+B)	684	7,503	45,100	106,216		37,597			

1枚目

事業番号	03025	事務事業名	農業振興センター事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
旧JA鏡野支店売却に伴う立ち退き
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
現在の使用の冷蔵庫は古く、移設が困難ため
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
特になし

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	農業の振興のうち、農地の保全を行うため、大豆生産は農業三セクの強化に直結している。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	特になし
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	特になし
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	特になし
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	特になし
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	特になし
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	特になし
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
公平性 評価	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	特になし
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	農地保全は国全体での問題でもあり、公共による投資は必要。	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	合併して1年目であり、運営方法等の各営業所の意思統一を図った。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④ 担当課としての事業の方針																						
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 機械の貸与を進め、稲作だけでなく作物の研究のための助成を行い、県の普及センターやJAなどから助言を得て規模拡大を進める。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持																								
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題			(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																						
農地保全をすすめるためあらゆる方策を検討する必要があるが、損益としては赤字となる可能性が高いため、国県町の支援を継続して行う必要がある。																									

事業番号	事務事業名	経営継承・発展等支援事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03028	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町経営継承・発展等支援事業実施要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	令和3年度からの国の新規事業。 認定農業者などの地域農業の担い手から、経営継承した後継者を支援する。 今年度は利用者なし。 (補助対象となる取組) 引き継いだ農業経営を発展させる取組 (補助対象経費) 上記の取組に必要な経費 (補助金額) 上限100万円(上限までは補助率100%)	農機具購入に対する補助への要望に対応するため、国事業を活用し、導入したものの。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 認定農業者	ア 認定農業者数	人	見込 実績		85 86	85 84		
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 経営面積の維持	ア 利用集積面積	ha	目標 実績 達成率		0 0 -	0 0 -		
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の交付	ア 相談受付件数	人	目標 実績 達成率		0 0 -	0 0 -		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		経営継承・発展等支援事業					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金		1,000				-1,000	国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源		1,000				-1,000	一般財源							
合計		2,000				-2,000	合計(A)						0	
財源名称	経営継承・発展等支援事業補助金					従事正職員人数			1				-1	
						延べ業務事務時間			15				-15	
						人件費計(千円)(B)			50				-50	
	最終予算額		0 千円		予算執行率		トータルコスト(A+B)			50				-50

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	

事業番号	事務事業名	早期経営確立支援事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03031	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町就農促進トータルサポート事業補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	単原事業。 (対象者) 農業実務研修により、就農が確実と見込まれる者。 または、上記研修を修了し、独立自営就農後1年以内の者。 (事業内容) ①農地確保等応援事業 ~農地の賃借料及び土づくり資材費の助成 ②農業施設等整備支援事業 ~中古農機具・施設の修繕費の助成	令和4年度より導入。 就農直後で経営が不安定な新規就農者に対し、初期投資の費用を補助することで経営の安定化を図り、地域農業の担い手として育成を図るもの。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 50歳以下の新規就農者	ア 新規就農者数	人	見込 実績	2 3	2 5	2 3	2	
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 担い手の確保と地域農業の中核者として育成する	ア 認定農業者数	人	目標 実績 達成率	85 81 95.3%	85 86 101.2%	85 84 98.8%	85	
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の支払い	ア 相談受付件数	人	目標 実績 達成率	0 0 -	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		03 目		78 01 中事業 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業振興費		早期経営確立支援事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金		383	83		-300	県支出金		300	83			-217		
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源		192	42	450	-150	一般財源		150	42	450		-108		
合計		575	125	450	-450	合計(A)		450	125	450		-325		
財源名称	就農促進トータルサポート事業補助金					従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	20	20	20					
						人件費計(千円)(B)	68	67	67			-1		
	最終予算額	125 千円	予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	68	517	192	450		-326		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	県の事業要綱に基づく事務であり、改善余地はない。 農業研修等により、一定の技術を身に着けた新規就農者に対する補助となっており、経営状況が不安定となりやすい就農初期段階をサポートすることで安定した農業経営継続に繋がっている。これらのことから適切な政策と思われる。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	畜産業経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03300	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町総合計画、鏡野町肉用牛生産近代化計画、家畜伝染		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・畜産振興を図るための経常経費を支出する。	・畜産業の振興を図るため、H18.6(第1次)、H28.3(第2次)策定の鏡野町総合計画、R4.2策定の鏡野町肉用牛生産近代化計画等に基づき実施している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	→	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 畜産農家	→	ア 畜産農家数(乳用牛、肉用牛、肥育牛)	戸	見込	24	24	23	23	
イ	→			実績	24	24	23		
				見込					
				実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	→	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 飼養頭数の維持	→	ア 飼養頭数(乳用牛、肉用牛、肥育牛)	頭	目標	780	780	780	780	
イ	→			実績	762	715	743		
				達成率	97.7%	91.7%	95.3%		
				目標					
				実績					
				達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	→	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 消毒薬、殺虫剤等の配布	→	ア 配布件数	件	目標	24	24	24	24	
イ	→			実績	24	24	22		
				達成率	100.0%	100.0%	91.7%		
				目標					
				実績					
				達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		04 目		01 01 中事業 大事業					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		畜産業費		畜産業経常管理費					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金		200	1,120			920		
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	1,715	1,904	1,567	1,567	1,567	-337	一般財源	1,294	1,358	306	1,567	1,567	-1,052	
合計	1,715	1,904	1,567	1,567	1,567	-337	合計(A)	1,294	1,558	1,426	1,567	1,567	-132	
財源名称	みんなの牧場へステップアップ事業補助金					従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	500	500	500					
						人件費計(千円)(B)	1,711	1,681	1,668				-14	
	最終予算額	1,567 千円		予算執行率	91.0%		トータルコスト(A+B)	3,005	3,239	3,094	1,567	1,567	-146	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	

事業番号	事務事業名	畜産業臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03301	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者
	施策名	21	農業の振興	根拠法令等		山崎 壽

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	世界的な穀物需要の増加やウクライナ情勢等に伴う飼料価格の高騰により畜産経営に影響を受けている農家等を緊急的に支援し、その経営安定を図るため、鏡野町飼料高騰緊急対策支援金事業を実施する。 町内に住所又は事業所を有し、乳用牛又は肉用牛を飼養する個人または法人に乳用牛に対して、乳用牛にあっては、その飼育頭数全頭に17,300円/1頭、肉用牛の繁殖においては、子牛及び育成牛に16,900円/1頭を交付する。	ウクライナ情勢による影響や生産地での異常気象や中国の需要拡大による輸入飼料の高騰が続くことが予測され、畜産農家の経済的影響が懸念される。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 畜産農家	ア 畜産農家数(乳用牛、肉用牛、肥育牛)	戸	見込 実績	24 24	24 23	23 23	20	21
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 飼養頭数の維持	ア 飼養頭数(乳用牛、肉用牛、肥育牛)	頭	目標 実績 達成率	780 762 97.7%	780 715 91.7%	780 743 95.3%	780	-
イ 受精卵移植の推進	イ 受精卵移植研究会による受精卵採卵数	個	目標 実績 達成率	10 5 50.0%	10 6 60.0%	10 0 0.0%		-
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 1頭当たりの標準的な飼料給与額前年度との差額	ア 和牛子牛1頭当たり給与額の差額		目標 実績 達成率	5,000 15,624 312.5%	34,000 51,819 152.4%	(20,000) (16,215) 81.1%	(15,000)	-
イ	イ		目標 実績 達成率			0		

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 項 01		04 目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		畜産業費		畜産業臨時管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比
国庫支出金		3,604	2,870		-734	国庫支出金		3,604	2,870			-734
県支出金			7,000	710	7,000	県支出金			6,680	710		6,680
町債						町債						
その他特財			171		171	その他特財						
一般財源	3,680	341	3,321	1,300	2,980	一般財源	2,060	341	2,679	1,300		2,338
合計	3,680	3,945	13,362	2,010	9,417	合計(A)	2,060	3,945	12,229	2,010		8,284
財源名称	新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金				従事正職員人数		1	1	1			
	みんなの牧場にステップアップ事業補助金				延べ業務事務時間		80	80	100			20
	配合飼料購入負担額市町村連携型軽減事業補助金				人件費計(千円)(B)		274	269	334			65
	最終予算額		13,362 千円	予算執行率	91.5%	トータルコスト(A+B)		2,334	4,214	12,563	2,010	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	

事業番号	事務事業名	恩原高原公有牧野振興事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03312	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	牧場法、鏡野町恩原高原公有牧野条例、同管理規程鏡野町		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町恩原高原公共育成牧場の維持管理を行う事業 ・業務内容は、①牧場維持管理、②施設管理、③預託牛の放牧	・旧上齋原村のときの昭和59年に公有牧野条例が施行された。現在は鏡野町和牛生産組合に管理を委託している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	→	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内畜産農家	→	ア 利用農家数	戸	見込	6	6	6	6	
イ	→	イ		実績	2	1	1		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	→	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 預託による労働時間の削減、飼料費の軽減	→	ア 預託頭数	頭	目標	14	14	14	14	
イ	→	イ		実績	9	4	2		
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	→	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公共育成牧場の維持管理	→	ア 預託期間	ヵ月	目標	5	5	5	5	
イ 預託牛の放牧管理	→	イ 維持管理面積	ha	実績	4	2	2		
				達成率	80.0%	40.0%	40.0%		
				目標	60	60	60	60	
				実績	60	30	30		
				達成率	100.0%	50.0%	50.0%		

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)			
属する施策の対象		属する施策の意図	
ア	町内の農業従事者	ア	農業を継続してもらう
イ	農地	イ	農地の保全
ウ		ウ	担い手の育成・確保
エ		エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		04 目		03 03 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		畜産業費		恩原高原公有牧野振興事業費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	183	278	2,060	192		1,782	一般財源	5	180	1,879	192		1,699	
合計	183	278	2,060	192		1,782	合計(A)	5	180	1,879	192		1,699	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間	10	10	20	10		10	
							人件費計(千円)(B)	34	34	67	33		33	
	最終予算額	2,060 千円		予算執行率	91.2%		トータルコスト(A+B)	39	214	1,946	225		1,732	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	

事業番号	事務事業名	優良肉用牛保留事業補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03315	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則、鏡野町優良肉用牛保留事業交付要綱ほか		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・津山地域和牛改良組合鏡野支部組合員の優良肉用牛の確保及び改良増殖を推進し、高品質肉用牛の生産振興を図るため、補助金を交付する。 ・業務手順は、①保留申請書の受理、②認定委員会による審査・認定、③交付申請書の受理、④交付決定通知、⑤実績報告書の受理、⑥確定通知、⑦請求書の受理、⑧補助金の支払	・合併前の4町村でそれぞれ保留事業補助金を交付していたが、H17.3.1合併を機に要綱を統合した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	津山地域和牛改良組合鏡野支部	→	ア	人	見込	21	20	19	16	16
					実績	20	19	19		
イ		→	イ		見込					
					実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	優良肉用牛の確保及び改良増殖	→	ア	頭	目標	8	8	8	8	7
					実績	9	8	8		
					達成率	112.5%	100.0%	100.0%		114.3%
イ		→	イ		目標					
					実績					
					達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	認定委員会による審査、認定	→	ア	件	目標	10	10	10	10	10
					実績	15	10	10		
					達成率	150.0%	100.0%	100.0%		100.0%
イ	保留の推進	→	イ	戸	目標	8	8	8	8	7
					実績	9	5	5		
					達成率	112.5%	62.5%	62.5%		71.4%
ウ		→	ウ		目標					
					実績					
					達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 04		大事業 中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		畜産業費		04 01		優良肉用牛保留事業補助金					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	03315		
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,050	一般財源	1,080	1,200	1,200	1,200	1,050				
合計	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200		合計(A)	1,080	1,200	1,200	1,200	1,050	0			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1						
							延べ業務事務時間	40	40	40						
							人件費計(千円)(B)	137	134	133				-1		
	最終予算額	1,200 千円	予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)	1,217	1,334	1,333	1,200	1,050	-1			

1枚目

事業番号	03315	事務事業名	優良肉用牛保留事業補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
畜産農家の高齢化が進むなか、近年飼料価格の高騰や子牛価格の低迷が続く飼養農家の戸数や生産意欲の減少につながっている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
子牛市場で人気(販売価格の高い)のある系統や育種価の高い牛への改良増進を図ってきた。増産意欲の向上を図るため、H26年度から補助金を増額した(9.2万円→15万円)。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
高収入及び安定的な経営を行うためには、飼育技術の改善はもとより、繁殖母牛の改良が必要だが、繁殖母牛の更新に係る保留牛の育成機関は、収入がないのでこの事業により補填できることがありがたいとの意見が多い。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 ・繁殖雌牛の適正な更新や優良牛確保を行うことは、町内肉用牛振興にとって重要な事業である。 ・高値で取引される子牛を生産するためには、優秀な母牛が必要である。	
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明	鏡野町内に2箇所ある公共育成牧場を十分に活用し、町と畜産農家と連携協力しながら、畜産業の活性化を推進する必要がある。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明	現状で適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明	繁殖雌牛の改良・増産には相当の期間がかかるため、地道な取組を続けていくことが成果の向上につながる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明	鏡野町内の畜産業の衰退及び畜産農家の減少につながる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明	④と同じ	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明	肉用牛を1頭増頭した場合の年間購入飼料費の2分の1(5万円)を3年間支給することで品種改良を増進するという趣旨の補助金である。減額することは成果の著しい低下につながる。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方を見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明	必要最小限の業務時間である。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明	畜産関係団体の有識者から成る認定委員会で、一定の審査基準に基づき、審査・認定を行っている。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	・畜産業を取り巻く環境は依然として厳しいが、本事業は畜産農家の経営安定と就農意欲を維持するための有効な制度となっている。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 飼養頭数の少ない農家にも、酪農家の「借り腹」を推進するなどの受精卵移植(ET)を活用しながら、積極的に優良雌牛の保留に取り組んでもらうよう、情報提供等の働きかけを行う。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
JAの畜産部門や県民局と連携しながら、優良な子牛の導入や保留を行い、高値で取引される子牛の生産に繋げ、農家の生産意欲の向上を図ることが重要である。																									

事業番号	事務事業名	肉用牛生産組合組織育成補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03320	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則、鏡野町肉用牛生産近代化計画		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町和牛生産組合員(晴れの国岡山農業協同組合津山地域和牛改良組合鏡野支部)の活動に対し、補助金を交付する。 ・業務手順は、①交付申請書の受理、②交付決定通知、③実績報告書の受理、④確定通知、⑤請求書の受理、⑥補助金の支払(前金払いする場合もあり)	・和牛生産組合は、H17.4.23に鏡野町内の和牛飼育農家を構成員とし、和牛飼育技術の向上、和牛経営の合理化及び農業経済の向上と安定を図ることを目的に設立された。農業協同組合の合併に伴い組織が再編され、令和2年度より晴れの国岡山農業協同組合津山地域和牛改良組合鏡野支部となった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 晴れの国岡山農業協同組合津山地域和牛改良組合鏡野支部	ア 組合の構成員数(4/1時点)	人	見込	21	20	19	16	
			実績	20	19	19		
イ			見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 飼育頭数	ア 町内農家の飼育頭数(繁殖肉用牛、子牛)	頭	目標	260	300	300	300	
			実績	306	294	264		
			達成率	117.7%	98.0%	88.0%		
イ			目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 技術、意向の向上	ア 研修会等参加延べ人数	人	目標	35	35	34	34	
			実績	19	20	17		
			達成率	54.3%	57.1%	50.0%		
イ			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		04 目		08 01 中事業 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		畜産業費		肉用牛生産組合組織育成補助金					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	330	330	330	330	330	一般財源	330	330	330	330	330			
合計	330	330	330	330	330	合計(A)	330	330	330	330	330	0		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1					
	延べ業務事務時間						100	100	100					
	人件費計(千円)(B)						342	336	334			-3		
	最終予算額 330 千円						予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)	672	666	664	330	330

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	

事業番号	事務事業名	受精卵供給事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03325	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	畜産係	担当者・シート作成者	山崎 壽
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町肉用牛生産近代化計画、鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	受精卵移植の推進を図るため、それに供する受精卵を採卵する優良肉用牛の供卵牛の生産育成をすることを目的とし、全国的に優秀な肉用牛の受精卵を購入し、町内酪農家の乳用牛に移植する。生産された子牛は、町で買取り供卵牛に育成するため、農家に飼育を委託する。	新型コロナウイルス感染症拡大による影響を受けた町内の畜産事業者等の事業継続や活性化を支援するため本事業を推進する。 鏡野町受精卵移植研究会で移植事業を行っているが、優良な供卵牛の協力が得られにくい状況にある。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 畜産農家	ア 畜産農家数(乳用牛、肉用牛、肥育牛)	戸	見込	24	24	23	20	21
			実績	24	23	23		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 飼養頭数の維持	ア 飼養頭数(乳用牛、肉用牛、肥育牛)	頭	目標	780	780	780	780	780
			実績	762	715	743		
			達成率	97.7%	91.7%	95.3%		95.3%
イ 受精卵移植の推進	イ 受精卵移植研究会による受精卵採卵数	個	目標	10	10	10	10	
			実績	0	6	0		
			達成率	0.0%	60.0%	0.0%		-
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 受精卵購入	ア 受精卵購入数	件	目標	0	0	0	0	0
			実績	0	0	0		
			達成率	-	-	-		-
イ 乳用牛への移植	イ 上記の内の移植件数	件	目標	7	2	0	0	0
			実績	5	2	0		
			達成率	71.4%	100.0%	-		-
ウ ET産子生産数	ウ 上記の内出生件数	頭	目標	5	2	1	0	0
			実績	2	2	0		
			達成率	40.0%	100.0%	0.0%		-



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 01		目 04		大事業 08		中事業 06		予算上の事業名		事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		畜産業費		08		06		受精卵供給事業		
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	03325	
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財	500	250	500	950	500	250	その他特財	309	231	347	950	500	116		
一般財源	1,715	2,282	1,006	554	550	-1,276	一般財源	487	1,330	941	554	550	-389		
合計	2,215	2,532	1,506	1,504	1,050	-1,026	合計(A)	796	1,561	1,288	1,504	1,050	-273		
財源名称	諸収入(ET産子み払下げ収入)						従事正職員人数		1	1	1				
							延べ業務事務時間		80	80	80				
							人件費計(千円)(B)		274	269	267			-2	
	最終予算額		1,506 千円	予算執行率		85.5%	トータルコスト(A+B)		1,070	1,830	1,555	1,504	1,050	-275	

1枚目

事業番号	03325	事務事業名	受精卵供給事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	---------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
和牛の生産農家の高齢化等により、飼育農家数が減少傾向にある。また、子牛市場は、コロナ禍の影響を受け価格が急落し、その後飼料価格の高騰等による影響を受け価格の低迷が続いている。育種価が高く系統の良い牛の価格とそうでない物との差が大きくなっている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
受精卵移植による枝肉重量や脂肪交雑の優れている系統の良い牛のET産子は、市場でも高価格で推移されており、受精卵移植研究会による事業推進が行われてきた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
高ゲノム育種価供卵牛から採取された受精卵を購入し、移植による産子を供卵牛にするまでには、相当の期間を要すると不満もあるが、達成できた場合の期待も大きい。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 理由説明 農業の振興に繋がるものであり、結び付いている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 理由説明 畜産業の公益性を有するが、試験的な取り組みであることから町で行うことが望ましい。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である 理由説明 試験的な試みであるが、達成できると繁殖牛飼養農家への経済効果もあり、乳用牛の借り腹をすることから酪農家への経済支援にもなる。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している 理由説明 受精卵の移植が成功し、雌牛が生まれる確率は1/4とされているが、実際のところは雌牛0もありうる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある 理由説明 雌牛が生まれた場合は、その後の育成、供卵牛としての見極め等を行うところまでの間は、継続する必要がある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない 理由説明 ET産子の内雄牛は、人口哺乳の経験のある公共育成牧場に払下げ、雌牛は飼育を委託としている。高ゲノム育種価を有することが確認されるまでは、継続する必要がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 目的達成するまでの最低限必要な予算となっている。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 受精卵移植研究会の協力を得ながら、最低限の人数で行っている。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由説明 目的達成後は、鏡野町受精卵移植研究会において公正に運営していただくことから公益性は確保できる。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年度末現在、供卵牛候補牛は2頭となり預託飼育しており、その内1頭が産した。令和6年度においてその牛より採卵をする計画、また、もう一頭については、人工授精し6年度内に産予定となっている。その牛のゲノム評価が出た段階で、事業の成果を見極めたい。																						
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 ET産子を優良受精卵を供給をする供卵牛に育成する。採卵後は、安価で畜産農家に提供し、受精卵移植の普及に努める。																						
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持																						
	低下																						

事業番号	事務事業名	多面的機能支払交付金事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03540	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	池田亜加理
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町多面的機能支払交付金交付要綱、鏡野町補助金等文		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	集落活動組織に対する補助金を支給する事業である。集落活動組織とは、地域の財産である農用地、水路、農道を守るために共同活動を実施する組織である。 業務手順は、①採択申請書の受理、②実施確認、③交付申請書の受理、④補助金の交付、⑤実績報告書の受理である。	農村地域の過疎化、高齢化が進行し、農業に関して後継者、担い手の不足が顕著になり、将来的に農業施設等の管理に対応できなくなると懸念されていた。そこで、農地・農業用水等の資源や農村環境を守り、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、平成19年度より実施された。平成26年度より農地・水保全管理支

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 協定を締結した活動組織	ア 協定締結活動組織数	組織	見込	44	44	44	43	43
イ	イ		実績	44	44	44		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 地域環境の保全活動の活性化	ア 協定締結面積	a	目標	80,014	80,003	79,999	79,000	78,500
			実績	80,003	79,999	80,044		
			達成率	100.0%	100.0%	100.1%		102.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 採択申請書(変更申請書)の受理	ア 協定締結活動組織数	組織	目標	44	44	44	43	43
			実績	44	44	44		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		102.3%
イ 補助金の交付	イ 協定締結活動組織数	組織	目標	44	44	44	43	43
			実績	44	44	44		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		102.3%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		05 目		19 01 事業					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農地費		多面的機能支払交付金事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金	27,051	27,034	25,655	25,000	15,000	-1,379	国庫支出金	27,034		25,413	25,000	25,413		
県支出金	13,525	13,517	12,728	12,500	12,500	-789	県支出金	13,517	39,551	12,707	12,500	-26,844		
町債							町債							
その他特財	78	118	104			-14	その他特財	77		14		14		
一般財源	13,856	13,517	12,748	12,500	12,500	-769	一般財源	13,834	13,116	12,757	12,500	-359		
合計	54,510	54,186	51,235	50,000	40,000	-2,951	合計(A)	54,462	52,667	50,891	50,000	-1,776		
財源名称	多面機能支払交付金事業補助金					従事正職員人数	3	3	33	3	3	30		
	精算返納金					延べ業務事務時間	1,000	200	200	230	210			
						人件費計(千円)(B)	3,421	672	667	767	700	-5		
	最終予算額		51,235 千円	予算執行率	99.3%		トータルコスト(A+B)	57,883	53,339	51,558	50,767	50,700	-1,781	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	この事業に取り組んでいる活動組織に対し、農用地面積、活動内容に応じて交付金を交付している。多くの活動組織で高齢化が進み、担い手不足など、今後、取組組織の減少が考えられる。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	環境保全型農業直接支払交付金事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03560	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	尾崎 颯俊
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	環境保全型農業直接支払交付金要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	化学肥料及び化学合成農薬の使用を5割以上低減する活動と、カバークロープや炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用を組み合わせた取組及び、有機農業の取組を行っている農業者に対して、交付金を交付する事業	平成23年度から環境保全型農業直接支払対策が開始された。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 事業の対象となる農家	ア 対象農家者数	戸	見込	1	1	1	1	
			実績	1	1	1		
イ			見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 環境保全型農業の推進	ア 対象面積	a	目標	875	898	900	900	900
			実績	898	898	965		
			達成率	102.6%	100.0%	107.2%		107.2%
イ			目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 実施者への支援	ア 支援した農家数	件	目標	1	1	1	1	1
			実績	1	1	1		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
イ			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		01 項		05 目		23 01 中事業 大事業					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農地費		環境保全型農業直接支払交付金事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金	270	270	289		19	国庫支出金			289			289		
県支出金	135	135	145		10	県支出金	404	404	145			-259		
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	135	135	145		10	一般財源	135	135	145			10		
合計	540	540	579		39	合計(A)	539	539	579			40		
財源名称	環境保全型農業直接支払交付金					従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	200	200	200	200	200			
						人件費計(千円)(B)	684	672	667	667	667	-5		
	最終予算額		579 千円	予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	1,223	1,211	1,246	667	667	35	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	対象面積は増加傾向となっており、目標達成している。今後の面積拡大についても、対象者の労力増加が懸念されるため、目標は現状維持とする。対象者の労力軽減を図るため、事務手続き等のサポートを引き続き行う。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農業センター経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03608	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町農業センター条例及び同施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・農業センター施設の維持管理のため指定管理者への指定管理料の支払いを行う。	・平成18年4月、地域における農業生産の確保と農地保全のため、農家の生産コストの軽減と農業経営の近代化・活性化を図ることを目的として鏡野町農業センターを整備(鏡野町羽出506-9)。 ・指定管理者は、(株)夢アグリ鏡野

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業機械・車両等	ア 施設料金収入額	千円	見込 実績	21,000 20,894	21,000 20,963	21,000 43,794	21,000	
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業生産の確保	ア 水稲栽培面積	ha	目標 実績 達成率	50 10 20.0%	50 10 20.0%	50 31 62.0%	50	50 62.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 指定管理の支払事務	ア 管理料の支払い	件	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		06		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		農業センター経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	3,589	4,029	3,589	3,759	-440	一般財源	3,589	4,029	3,589	3,759	-440			
合計	3,589	4,029	3,589	3,759	-440	合計(A)	3,589	4,029	3,589	3,759	-440			
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	50	50	50					
						人件費計(千円)(B)	171	168	167			-1		
	最終予算額	3,589 千円	予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	3,760	4,197	3,756	3,759	-441			

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	耕作放棄地の増加を防ぐため、人材、機材とも充実させていく必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	見直し余地がある	

事業番号	事務事業名	農業センター臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03609	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等	鏡野町農業センター条例及び同施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・農業センター施設内の農機具倉庫について、以前まで使用していたものが著しく劣化していたことから、新設工事を行った。維持管理のため指定管理者への指定管理料の支払いを行う。 ・農機具倉庫新設のほか、農業センターの樋修繕を行った。	農業センターの施設として使用していた農機具倉庫の劣化(屋根の破損やそれに伴う雨漏り)を修繕する必要があったため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業機械・車両等	ア 施設料金収入額	千円	見込 実績			21,000 43,794	21,000	21,000
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農業生産の確保	ア 水稲栽培面積	ha	目標 実績 達成率			50 31 62.0%	50	50
イ	イ		目標 実績 達成率					62.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 指定管理施設の修繕、新築工事	ア 修繕、新築工事件数	件	目標 実績 達成率			3 2 66.7%	3	3
イ	イ		目標 実績 達成率					66.7%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01 一般会計		06 款 農林水産業費		01 項 農業費		06 目 農業施設費		01 06 大事業 中事業 予算上の事業名					事業番号
	01 一般会計		06 農林水産業費		01 農業費		06 農業施設費		01 06 大事業 中事業 農業センター臨時管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源			7,700		7,700	一般財源			7,700			7,700		
合計			7,700		7,700	合計(A)			7,700			7,700		
財源名称						従事正職員人数			1			1		
						延べ業務事務時間			100			100		
						人件費計(千円)(B)			334			334		
	最終予算額	7,700 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)				8,034			8,034		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	町内農業の担い手である(夢)アグリ鏡野の耕作面積を今後も増加させられるように施設の新設、修繕を進めていく。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農林水産物直売施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03610	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	片田 篤志
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	道の駅奥津温泉のうちふるさと物産館(指定管理(株)未来奥津)の維持管理及び道の駅駅舎(業務委託(株)未来奥津)の維持管理を行う。令和4年度の特別な支出は急速充電器の修繕料、駅舎トイレの修繕料である。	岡山県との「奥津町道の駅に関する協定(平成9年9月1日)」に基づき、道路利用者に良好な休憩の場、並びに地域及び道路に関する情報提供するため、道の駅を開設した。道の駅の完成により、維持管理が必要となった。平成10年から業務委託を導入。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 特産品を出荷する団体	ア 出荷組合登録人数	人	見込 実績	140 139	140 130	140 124	140	
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 特産品の紹介、販売をして生産の拡大を図る	ア 売店での特産品の売上高	千円	目標 実績 達成率	120,640 73,456 60.9%	120,640 97,533 80.8%	120,640 95,142 78.9%	120,640	
イ 地域の食材を使った食事を提供して、特産品の生産拡大を図る	イ 温泉亭での食事の売上高	千円	目標 実績 達成率	10,740 20,081 187.0%	10,740 28,366 264.1%	10,740 27,364 254.8%	10,740	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の維持管理、委託業務の進行管理	ア 委託業務の巡回回数	回	目標 実績 達成率	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12 12 100.0%	12	
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		01 款 06		01 項 06		06 目 06		06 中事業 01 33					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		農林水産物直売施設経常管理費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財	2,200	2,100				-2,100	その他特財	1,859	3,779				-3,779	
一般財源	6,700	6,502	11,242			4,740	一般財源	6,181	8,690	10,316			1,626	
合計	8,900	8,602	11,242			2,640	合計(A)	8,040	12,469	10,316			-2,153	
財源名称	道の駅奥津温泉雑入(未来奥津からの電気代の1/2)						従事正職員人数	1	1				-1	
							延べ業務事務時間	30	30				-30	
							人件費計(千円)(B)	103	101				-101	
	最終予算額	11,242 千円		予算執行率	91.7%		トータルコスト(A+B)	8,143	12,570	10,316			-2,254	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	

事業番号	事務事業名	農林水産物直売施設臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03611	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	令和6年度の指定管理者交代((株)夢アグリ鏡野→NPO法人てっちりこ)に伴う施設改修と物品の購入を行った。 主なものとして、ガステーブルの更新や厨房の改修を行った。	令和6年度から指定管理者が(株)夢アグリ鏡野からNPO法人てっちりこへ変更となることから、変更に伴う施設の改修や、備品の購入が必要となったため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 特産品を出荷する団体	ア 出荷組合登録人数	人	見込 実績	140 139	140 130	140 124	140	
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 特産品の紹介、販売をして生産の拡大を図る	ア 売店での特産品の売上高	千円	目標 実績 達成率	120,640 — —	120,640 — —	120,640 101,142 83.8%	120,640	
イ 地域の食材を使った食事を提供して、特産品の生産拡大を図る	イ 温泉亭での食事の売上高	千円	目標 実績 達成率	10,740 — —	10,740 — —	10,740 27,364 254.8%	10,740	

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の改修、物品購入	ア 施設の修繕、物品購入回数	回	目標 実績 達成率	3 — —	3 — —	3 2 66.7%	3	
イ 指定管理及び業務委託契約の締結	イ 業務委託契約件数	件	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	100.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		06		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		農林水産物直売施設臨時管理費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			1,343	495		1,343	一般財源			517	495		517	
合計			1,343	495		1,343	合計(A)			517	495		517	
財源名称							従事正職員人数							
							延べ業務事務時間							
							人件費計(千円)(B)						0	
	最終予算額	1,343 千円		予算執行率	38.4%		トータルコスト(A+B)			517	495		517	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	施設の老朽化や、指定管理者の交代に伴う修繕や物品の購入を今後も継続して行う必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農林水産物加工施設臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03613	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	雨漏り、トイレ他の修繕を行った。	経年の老朽箇所の修繕を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設利用者	ア 施設の利用者	社	見込 実績	1 1	1 1	1 1		
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 不具合箇所の改修	ア 改修した個所数	箇所	目標 実績 達成率	1 2 200.0%	0 0 -	3 2 66.7%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 発注件数	ア 修繕等で発注した件数	件	目標 実績 達成率	1 4 400.0%	0 0 -	1 1 100.0%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		06		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		農林水産物加工施設臨時管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	3,318	1,155	10,047		8,892	一般財源	3,317	1,155	10,046			8,891		
合計	3,318	1,155	10,047		8,892	合計(A)	3,317	1,155	10,046			8,891		
財源名称					従事正職員人数		1	1	1					
					延べ業務事務時間		80	20	20					
					人件費計(千円)(B)		274	67	67			-1		
	最終予算額	10,047 千円	予算執行率	99.9%		トータルコスト(A+B)		3,591	1,222	10,113		8,890		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	建築して25年経過しており、老朽箇所の修繕を定期的におこなっていく必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	農産物集出荷貯蔵施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03614	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・農産物集出荷貯蔵施設(周辺を含む)の管理に係る経費 ・具体的な内容は、①施設の維持管理、②設備・備品故障等緊急時の調整、連絡、対応処理、③施設周辺整備、④年度協定による指定管理料の支払等	・地域における花き、野菜等農産物の共同集出荷及び貯蔵を行い、農産物の品質保持と消費市場への安定供給、農家の所得向上及び生産拡大を図り、地場産業の振興及び地域の活性化に資することを目的として設置(井坂523-1) ・指定管理者は、晴れの国岡山農業協同組合

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農産物集出荷貯蔵施設	ア 指定管理者	人	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 花き・野菜等の生産拡大	ア 施設利用収入(指定管理料除く)	千円	目標 実績 達成率	100 80 80.0%	100 106 106.0%	100 90 90.0%	100	
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設利用	ア 花き生産者組合員	人	目標 実績 達成率	13 13 100.0%	13 13 100.0%	13 13 100.0%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		06		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		農産物集出荷貯蔵施設経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	208	208	208	208		一般財源	208	208	208	208				
合計	208	208	208	208		合計(A)	208	208	208	208				
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	10	10	10					
						人件費計(千円)(B)	34	34	33			-0		
	最終予算額		208 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)	242	242	241	208		-0		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	花卉栽培の生産者が高齢化し、減少傾向にあるため、今後は生産者を確保していく必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	富農林水産物処理加工施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03618	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤裕子
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (平成31年度～令和5年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富農林水産物処理加工場の管理運営を指定管理者に委託する。平成31年度から令和5年度までの5年間、(株)未来奥津と基本協定を締結し、毎年4月に年度協定を締結する。毎年度末に事業報告を精査する。	ひらめを中心とした農水産物を加工することにより、特産品のPR及び販路を拡大し、農林水産業の振興を図るため、昭和52年に建設された。このことにより維持管理業務が始まった。当初は直営で運営していた。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 加工場	ア 施設数	施設	見込	1	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	1	1		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 適切な管理・運営	ア 適切な運営・管理がなされた施設	施設	目標	1	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	1	1		
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 委託の管理・監督	ア 委託管理・監督	回	目標	12	12	12	12	12
イ 修繕等工事の調整・協議	イ 修繕等工事の調整・協議	回	実績	12	12	12		

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06		01		06		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		富農林水産物処理加工施設経常管理費					
3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	1,679	1,047	1,668	1,668	621	一般財源	1,678	1,047	1,668	1,668	1,668	621		
合計	1,679	1,047	1,668	1,668	621	合計(A)	1,678	1,047	1,668	1,668	1,668	621		
財源名称					従事正職員人数		1	1	1	1	1			
					延べ業務事務時間		2	2	2	2	2			
					人件費計(千円)(B)		7	7	7	7	7	-0		
	最終予算額	1,668千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)		1,685	1,054	1,675	1,675	1,675	621		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	5年間の指定管理基本協定が満了。令和5年度に指定管理者を(株)未来奥津から(株)夢アグリ鏡野に変更。R6製造法改正に対応するための加工室改修の検討した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	富農林水産物処理加工施設臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03619	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	
	施策名	21 農業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	老朽化により不具合が生じた大型冷凍庫の更新	不具合により、ひらめの保存ができなくなる恐れが生じたため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	→	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設利用者	→	ア 施設利用者数	団体	見込 実績		1 1	1 1		
イ	→	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	→	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 冷凍庫の更新	→	ア 更新した冷凍庫の台数	台	目標 実績 達成率		1 1 100.0%	1 1 -		
イ	→	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	→	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 発注件数	→	ア 更新で発注した件数	件	目標 実績 達成率		1 1 100.0%	1 1 -		
イ	→	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の農業従事者	ア 農業を継続してもらう
イ 農地	イ 農地の保全
ウ	ウ 担い手の育成・確保
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		01 款 06		01 項 06		06 目 06		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		農業費		農業施設費		富農林水産物処理加工施設臨時管理費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源		4,059	1,870	5,131		-2,189	一般財源		4,059	1,870	5,131		-2,189	
合計		4,059	1,870	5,131		-2,189	合計(A)		4,059	1,870	5,131		-2,189	
財源名称							従事正職員人数		1				-1	
							延べ業務事務時間		16				-16	
							人件費計(千円)(B)		54				-54	
	最終予算額	1,870 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)		4,113	1,870	5,131		-2,243	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	5年間の指定管理基本協定が満了。 令和5年度に指定管理者を㈱未来奥津から㈱夢アグリ鏡野に変更。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	林業総務経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03731-1	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	林業行政推進に係る経常的な経費(郵送料、消耗品費、出張経費等)	林業行政を推進するため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林面積	ア 町内人工林面積	ha	見込 実績	21,633 21,667	21,667 21,754	21,754 21,741	21,700	21,700
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な保全を行う	ア 間伐実施面積	ha	目標 実績 達成率	400 327 81.8%	425 206 48.5%	350 353 100.9%	350	350
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 優良材の生産拡大	ア 素材生産高	m	目標 実績 達成率	190 223 117.4%	230 231 100.4%	250 303 121.2%	280	280
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		01 目		01 02 予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業総務費		林業総務経常管理費						
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町 債						町 債									
その他特財						その他特財									
一般財源	221	188	163	178	178	-25	一般財源	197	164	161	178	178	-3		
合計	221	188	163	178	178	-25	合計(A)	197	164	161	178	178	-3		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						40	40	40	40	40				
	人件費計(千円)(B)						137	134	133	133	133	-1			
	最終予算額		163 千円		予算執行率		98.7%		トータルコスト(A+B)		334	298	294	311	311

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	林業行政の事務経費であることから、コスト削減を図り円滑な事務を行うことが出来た。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	ぬくもりの木で家づくり推進事業補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
03734	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	嶋田 麦
	施策名	22	林業の振興	根拠法令等	鏡野町ぬくもりの木で家づくり推進事業補助金要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	木造住宅の普及促進と県産乾燥材及び町産乾燥材の積極的な使用を推進するため、鏡野町内に県産材もしくは町産材を用いて建設される一戸建て住宅に対して、一戸当たり最大200万円を補助する。交付の対象となるのは、自ら居住するために町内に一戸建て木造住宅を新築する者で、町税等の滞納がない者とする。	木材価格の低迷を受けて、森林の荒廃が問題になっている中、地元産(岡山県産材)の木材の普及啓発を目的として、平成21年度から補助金の交付を決定。先駆けて岡山県の補助金制度が新設されたのを受け、県内市町村ではほぼ横並びで実施。当初は県事業への上乗せ補助だったが、平成28年度から単独補助となり、現在は鏡野町産材の使用量に応じて補助金の加算ができるよう要綱が改正されている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内に木造新築一戸建て住宅を建築する者	ア 新築戸数	戸	見込	40	40	40	40	40
			実績	46	38	34		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 地域材の利用を拡大する	ア 県産材使用量	m ³	目標	200	200	200	200	200
			実績	279	220	114		
			達成率	139.5%	110.0%	57.0%		57.0%
イ	イ 町産材使用量	m ³	目標	150	150	150	150	200
			実績	155	160	80		
			達成率	103.3%	106.7%	53.3%		40.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金交付申請書の受領から補助金交付までの一連業務	ア 申請件数	件	目標	20	20	20	20	20
			実績	23	20	9		
			達成率	115.0%	100.0%	45.0%		45.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 01		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業総務費		01	05	ぬくもりの木で家づくり推進事業補助金					03734
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	19,700	17,859	11,178	10,080	10,080	-6,681	一般財源	18,682	17,859	8,906	10,080	10,080	-8,953			
合計	19,700	17,859	11,178	10,080	10,080	-6,681	合計(A)	18,682	17,859	8,906	10,080	10,080	-8,953			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	50	50	50	50	50				
							人件費計(千円)(B)	171	168	167	167	167	-1			
	最終予算額	11,178 千円	予算執行率	79.6%			トータルコスト(A+B)	18,853	18,027	9,073	10,247	10,247	-8,954			

1枚目

事業番号	03734	事務事業名	ぬくもりの木で家づくり推進事業補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
県補助はR5年度から補助の条件として認証材の使用が必要になった。県の要件変更や全国的な新築住宅の着工数減少を受けてか、令和5年度は申請件数がここ数年に比べて減少した。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成28年に県の上乗せ補助ではなく町単独の補助事業となり、補助金額の増額や工務店への補助の追加を行っている。令和4年度には、住宅の面積要件を廃止し、対象となる住宅の拡大を行った。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
主要構造部材以外の木材についても補助対象としてほしいという意見が寄せられており、令和6年度から非構造部材についても補助対象とする。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 町産材の使用量に応じて補助額を増額することにより、町産材の需要拡大につながっている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 木材の需要拡大だけでなく移住・定住にも一定の効果が期待できる事業であり、町が行うことは妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 県産材や町産材の需要拡大及び移住・定住につながっており、適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 制度の認知度は高まっており、町産材の需要拡大に一定の成果をあげている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 事業を廃止した場合、町産材の需要が低下するほか、住宅を建築しようとする者の負担が大きくなり、町内に新たに住宅を新築して定住する者が減少することも考えられる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 町産材の証明方法については、もっと簡易な方法を検討する余地がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 事業費は補助金のみであり、削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 補助金の交付事務による最小限の人数のみであり、削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町内に自ら居住するために新築される木造一戸建て住宅を対象としており、面積や前住所を問わないため、公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年度は全国的な住宅着工数の減少の影響を受けたものの、町産材の需要拡大につながっているといえる。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 主要構造部材以外も補助対象とするよう改正を進めている。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
主要構造部材以外を補助対象とする場合、棟上げ時に施工がすべて完了しない事例も考えられる。実績報告の時期や添付書類について見直しが必要になる。																									

事業番号	事務事業名	緑のふるさと協力隊推進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03736	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	担当者・シート作成者	嶋田 麦
	施策名	22	林業の振興	根拠法令等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	NPO法人地球緑化センターが主催する都市と田舎の交流事業で、活力を取り戻そうとする地方自治体に1年間住民として暮らしながら、ボランティアで地域の農作業や特産加工、各施設やイベントの手伝いなど、地域に密着した活動に取り組むプログラム。市町村合併により一時休止していたが、平成21年度から榎未来奥津が受け入れを再開。平成26年度より鏡野町が事業主体となった。事業の運営については榎夢アグリ鏡野へ委託。	平成7年度より、旧奥津町が実施していた事業。その当時、岡山市在住の方から奥津町で農業をしたいと新規就農の相談を受けており、外部の力を借りて農村過疎地域の活性化が出来ないかと模索していた時でもあり、偶然、林野庁の後援団体のPR広告、受け入れ先自治体の募集広告(新聞掲載)を見つけたことがこの事業に取り組むきっかけとなる。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農山村の現状や暮らしに関心を持つ若者	ア 緑のふるさと協力隊隊員募集数	人	見込	30	30	30	30	30
			実績	15	14	10		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 都市と農山村の交流促進	ア 町民人口	人	目標	11,970	11,800	11,627	11,455	11,280
			実績	12,497	12,358	12,116		
			達成率	104.4%	104.7%	104.2%		107.4%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 農作業、観光施設手伝い、イベント補助等	ア 活動日数	日	目標	250	250	250	240	240
			実績	245	260	246		
			達成率	98.0%	104.0%	98.4%		102.5%
イ 町内温浴施設への提案当	イ 町内温浴施設訪問回数	回	目標	240	240	240	240	240
			実績	187	358	383		
			達成率	77.9%	149.2%	159.6%		159.6%
ウ 派遣(受け入れ)人数	ウ 派遣人数	人	目標	2	2	2	2	2
			実績	2	2	2		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 01		大 01		中 07		予算上の事業名		事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業総務費		01		07		緑のふるさと協力隊推進事業費		
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	03736	
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	7,921	7,977	8,931	8,989	8,989	954	一般財源	7,642	7,619	7,287	8,989	8,989	-332		
合計	7,921	7,977	8,931	8,989	8,989	954	合計(A)	7,642	7,619	7,287	8,989	8,989	-332		
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	50	50	50	50	50	50		
							人件費計(千円)(B)	171	168	167	167	167	167	-1	
最終予算額	8,931 千円		予算執行率	81.5%		トータルコスト(A+B)	7,813	7,787	7,454	9,156	9,156	-333			

1枚目

事業番号	03736	事務事業名	緑のふるさと協力隊推進事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	----------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
ピーク時の隊員数は全国で50名を超えていたが、近年は隊員数が減少傾向にある。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成26年より鏡野町が受け入れを行っている。令和5年度はこれまで事業の委託を行ってきた(株)未来奥津の合併により、(株)夢アグリ鏡野に委託を行うこととなった。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
受け入れ地域では隊員が来るのを楽しみにしているという声がある一方、地域おこし協力隊と混同されるなど制度の趣旨が認知されきっていない事例もみられる。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 活動内容は林業だけに限らないが、都市部の若者が農山村を訪れ交流を行うことは新たな視点からの発見や地域の活性化につながり、地域経済を支える里づくりという政策体系と結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 この事業は若者の力で地域を活性化させるという地域全体のための協力活動であるため、自治体が受け入れることは妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 「地方創生」や「関係人口の増加」が叫ばれている昨今、外部人材の受け入れについて様々な取り組みがなされる中、この事業もその役割を担うことが期待されており、妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 隊員の活動は新たな視点からの発見や地域の活性化につながっているほか、隊員としての活動を終えた後も鏡野町に定住し活躍している者もあり、目標水準に達している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 町が事業を廃止した場合、都市と農山村の交流の場が失われることとなり、影響がある。
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 緑のふるさと協力隊の事業としては一定の成果は得られており改善の余地はない。しかし活動後に総務省の地域おこし協力隊につなげることができれば、さらに長期的な活動を計画でき、より地域の活性化につながれる可能性がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 (株)夢アグリ鏡野に業務を委託しており、経費内訳も妥当であり削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 隊員のスケジュール管理、活動先の確保などの業務は委託をしており、最小限の業務を職員1名で行っているため、削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 隊員の活動範囲は町全体であり、受益機会は公平である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年度は2名の隊員を受け入れ、活動拠点を隊員の居住地である富地域および上齋原地域に置いたが、町全体を活動範囲として町民と積極的な交流が図られていた。広報誌の協力隊便りを楽しみに読んで下さる町民もおり、協力隊の活動を知ってもらい良いきっかけとなっている。これまでの活動のほか、鏡野町有線テレビの放送も功を奏し、事業についての認知度は段々と進んできている。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 現在は毎年2名の隊員を受け入れているが、隊員の人数の見直しは検討する余地がある。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
費用面であれば隊員を1名にすると事業費は抑えられるが、広い町内を1人で担当することとなり活動先の要望に応えられなくなる可能性がある。また2名体制とすることで隊員同士で困りごとを相談できるといったメリットもあるため、慎重に判断する必要がある。																									

事業番号	事務事業名	林業振興経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03750-1	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	林業振興に関する各種団体負担金・会費等の支払及び事務的経費及び個別事業によらない全般的な経費(GISシステム運用保守料等)	合併以前より、各町村単独活動では困難な事象に対応するため、協議会等の設置や負担を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林面積	ア 町内人工林面積	ha	見込	21,633	21,667	21,754	21,700	21,700
イ	イ		実績	21,667	21,754	21,741		
			見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な保全を行う	ア 間伐実施面積	ha	目標	400	425	350	350	350
イ	イ		実績	327	206	353		
			達成率	81.8%	48.5%	100.9%		100.9%
			目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 優良材の生産拡大	ア 素材生産高	m	目標	190	230	250	250	250
イ	イ		実績	223	231	303		
			達成率	117.4%	100.4%	121.2%		121.2%
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		02 目		01 01 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		林業振興経常管理費					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財	1	18	18	18	18	その他特財	1,816		18	18	18	18		
一般財源	1,957	692	1,349	499	499	一般財源	142	668	1,308	499	499	640		
合計	1,958	710	1,367	517	517	合計(A)	1,958	668	1,326	517	517	658		
財源名称	林業費雑入					従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	40	40	40	40	40			
						人件費計(千円)(B)	137	134	133	133	133	-1		
	最終予算額		1,367 千円	予算執行率	97.0%		トータルコスト(A+B)	2,095	802	1,459	650	650	657	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	森林管理の一環として、森林GISを以前から使用しており、樹種、分布、領域を判断し業務に利用している。その森林GISの保守等を行い業務遂行に効果があった。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	地域林業担い手サポート事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03752	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・鏡野町森林づくり協議会の開催、協議会委員への報酬支払。 ・令和4年度は移住・定住フェアは人数制限化のため不参加。林業ガイダンス(勝央町)へ参加。7名の相談があった。	人口減少や高齢化により林業の担い手確保が困難な状況であり、1ターン等のサポートを実施し、地方創生や中山間地域の振興に向けた対策と連携し取り組むため、平成28年度より開始。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 林業に関心のある者	ア 林業担い手募集人数	人	見込	1	1	1	1	1
			実績	0	0	0		
イ	イ 研修参加者数	人	見込	10	10	10	10	10
			実績	0	7	8		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 林業に従事する	ア 林業新規従事者数	人	目標	1	1	1	1	1
			実績	1	2	1		
			達成率	100.0%	200.0%	100.0%		100.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 移住・定住相談会への参加	ア 相談会参加回数	回	目標	2	1	1	1	1
			実績	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%
イ 林業ガイダンスへの参加	イ ガイダンス参加回数	回	目標	2	1	1	1	1
			実績	0	1	1		
			達成率	0.0%	100.0%	100.0%		100.0%
ウ 林業体験の実施	ウ 林業体験実施回数	回	目標	2	1	1	1	1
			実績	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大 01	中 03	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		01	03	地域林業担い手サポート事業					03752
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財		99					-99		
一般財源	289	1,188	668	700	700	-520	一般財源	174	645	550	700	700	-95			
合計	289	1,188	668	700	700	-520	合計(A)	174	744	550	700	700	-194			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	11	11	14	14	14	3			
							人件費計(千円)(B)	38	37	47	47	47	10			
	最終予算額	668 千円		予算執行率	82.3%		トータルコスト(A+B)	212	781	597	747	747	-184			

1枚目

事業番号	03752	事務事業名	地域林業担い手サポート事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	---------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
新型コロナウイルスにより関東、関西方面で行っていた移住、定住フェアは実施されていなかったが、少しずつ実施されるようになってきた。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
近隣で行われるイベントへの参加を行っていた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
町内に事業所を有する事業者からは、現場作業員もだが現場管理できる事務員の要望も多い。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	1名でも多くの方が事業者への就業することにより、町の林業の向上に繋がっていると考えるため政策体系に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	フェアやガイダンスは町に対して案内が為されるため町が行うべきである。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	見直す余地はない。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	定期的な参加、随時相談を行い数当たっていくことが最も有効であるとする。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	微々たる影響ではあるが、廃止・休止の影響はある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	現状のフェアやガイダンスに参加することが一番良い方法だと思う。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	現状では削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	現状では削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	公平・公正となっている。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年度においても、就労へ結びついたケースはなかったが、引き続きフェアやガイダンスへ参加していく。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 就労については、家族の総意や条件の一致などが重要であるため、要望などに耳を傾け最善の方法を考えていく。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
R5においては就業相談は相談会以外ではなかった。引き続きPRを行っていく。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	鏡野町森林づくりセンター経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03754	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	森林経営管理制度に関する事務や公益的森林づくり、木材生産・利用の拡大を図るため民有林に関する総合的な窓口として開設した森林づくりセンターの運営に係る経常的な経費	森林経営管理制度の施行により、令和元年8月より森林づくりセンターを開設した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林	ア 町内人工林	ha	見込	21,633	21,677	21,677	21,519	21,519
			実績	21,667	21,754	21,754		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な保全を行う	ア 間伐実施面積	ha	目標	400	425	450	450	450
			実績	327	206	353		
			達成率	81.8%	48.5%	78.5%		78.5%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 優良材の生産拡大	ア 素材生産高	m	目標	190	230	230	230	230
			実績	223	231	303		
			達成率	117.4%	100.4%	131.9%		131.9%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		02 目		01 大事業	05 中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費				鏡野町森林づくりセンター経常管理費					03754
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	1,497	2,147	1,784	2,008	2,008	-363	一般財源	1,433	1,903	1,711	2,008	2,008	-192			
合計	1,497	2,147	1,784	2,008	2,008	-363	合計(A)	1,433	1,903	1,711	2,008	2,008	-192			
財源名称	森林環境譲与税(一般財源)						従事正職員人数	2	2	2	2	2				
							延べ業務事務時間	40	40	40	40	40				
							人件費計(千円)(B)	137	134	133	133	133	-1			
	最終予算額		1,784 千円		予算執行率	95.9%		トータルコスト(A+B)	1,570	2,037	1,844	2,141	2,141	-193		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	森林環境譲与税を活用し林業行政の主体となるセンターの運営を円滑に行うことができた。令和6年度も引き続き、円滑な運営を推進する。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	木材需要拡大推進事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03759	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	鏡野中学校に導入する町産材を使用した木の学習機の作成及び新入生(小学6年生)の組み立てワークショップを継続開催している。また令和3年度3月より乳幼児玩具の配布を進め、公共施設導入を視野に木製品導入を進めている。	木材の良さを身近に感じふるさとへの愛着を育み、豊富な町産材の利用拡大を図るため、令和元年8月より開始

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林	ア 蓄積資源量	m	見込	6,292,510	6,369,295	6,447,524	6,501,815	6,501,815
			実績	6,369,295	6,447,524	6,501,815		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町産材の利用拡大	ア 町産材を利用した製品開発	種類	目標	4	2	2	2	2
			実績	13	8	7		
			達成率	325.0%	400.0%	350.0%		350.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 木の学習機の導入	ア 木の学習機の組立人数	人	目標	123	97	100	107	100
			実績	123	97	96		
			達成率	100.0%	100.0%	96.0%		96.0%
イ 施設等への木製品の導入	イ 町産材を利用した備品	種類	目標	0	1	1	1	1
			実績	0	2	1		
			達成率	—	200.0%	100.0%		100.0%
ウ ファーストイの利用	ウ ファーストイ利用人数	人	目標	100	100	100	100	100
			実績	12	79	60		
			達成率	12.0%	79.0%	60.0%		60.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大 01	中 06	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		01	06	木材需要拡大推進事業					03759
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	5,406	5,134	4,113	6,534	6,534	-1,021	一般財源	5,092	4,573	4,112	6,534	6,534	-461			
合計	5,406	5,134	4,113	6,534	6,534	-1,021	合計(A)	5,092	4,573	4,112	6,534	6,534	-461			
財源名称	森林環境譲与税(一般財源)						従事正職員人数	2	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	80	120	80	80	80				
							人件費計(千円)(B)	274	403	267	267	267				
	最終予算額		4,113 千円	予算執行率	99.9%	トータルコスト(A+B)		5,366	4,976	4,379	6,801	6,801				

1枚目

事業番号	03759	事務事業名	木材需要拡大推進事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	令和3年10月の法律改正により、一般建築物への木材利用のさらなる推進が期待されている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	令和元年度に森林づくりセンターを設立し、教育局と連携を図り木材利用を推進。町の木材利用の方針を一般建築物まで拡大。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?	町産材を利用した木の学習机、公共施設に導入した木製品、幼児用玩具を通じて保育へのさらなる取組を推進してほしいとの声の関係者より寄せられている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 これまでは建築利用以外に町産材利用拡大を図る手段がなかったが、本事業により新たな利用方法の推進及び新たな需要を生み出している。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 町産材の利用促進の為に、丸太生産だけでなくその後の木材利用を喚起する必要があり、町が率先して公共施設の木質化を推進する事で、民間への木材利用の後押しやPRを推進できるため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 対象を限定しておらず、妥当である。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 今後とも木工事業者を含む林業事業者との連携を進め、木材需要拡大に努める。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 森林資源の有効活用し、森林整備を推進するためには住宅用途以外の木材利用促進を図る必要があり、本事業を廃止した場合に影響がでる。
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 事業の継続しながら、より成果を上げる方法を検討する。幼児用玩具の配布数向上の方法を模索する。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 本事業を通じ、他部署や木工事業者等の自発性を高め、町負担を削減しつつ、成果を向上させることは可能と考えられる。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 本事業を通じ、他部署や木工事業者等の自発性を高め、町負担を削減しつつ、成果を向上させることは可能と考えられる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 対象を限定しておらず、妥当である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	木材需要拡大、林業の活性化、普及啓発には本事業を通じた既存製品の木質化や木材による新たな価値の創出が不可欠と考えられる。今後も目的達成のための取組、改善を図る。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 町備品等への木材の有効利用法の模索、試作の推進																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
木材の利用方法のPR																									

事業番号	事務事業名	林業就業者支援事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03761	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	林業就業者支援事業補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	新規林業就業者に対して、引越、家賃補助を行うとともに、雇用主に対して、該当者に支払われる給与、育成指導費の補助、新規就業者募集のための林業体験に関する費用の補助をおこなうもの。令和3年度新設。	鏡野町の林業従事者は、毎年減少しており、林業の担い手不足や担い手の育成は林業事業者にとって急務の課題となっている。この問題を解決するため、新規の担い手の確保や育成・定着に向け、鏡野町の林業就業者及び事業者を経済・技術支援することを目的とした林業就業者支援事業令和3年度より行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 労働力人口(全国)	ア 労働力人口(全国)	千人	見込	61,523	68,600	68,600	67,500	67,500
			実績	61,523	68,600	67,470		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内林業従事者	ア 町内林業従事者数	人	目標	37	38	39	40	40
			実績	39	45	46		
			達成率	105.4%	118.4%	117.9%		115.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 新規林業就業者の確保	ア 制度利用者	人	目標	1	1	1	1	1
			実績	1	2	1		
			達成率	100.0%	200.0%	100.0%		100.0%
イ 林業体験の実施	イ 開催数(事前体験)	回	目標	1	1	1	0	0
			実績	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%		-
ウ 事前視察体験ツアー	ウ 受入事業者数		目標	1	1	1	0	0
			実績	0	0	0		
			達成率	0.0%	0.0%	0.0%		-



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		01	09	林業就業者支援事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	03761			
国庫支出金						国庫支出金										
県支出金						県支出金										
町債						町債										
その他特財						その他特財										
一般財源	2,301	5,731	1,896	3,160	1,896	-3,835	一般財源	1,425	5,724	1,896	3,160	1,896	-3,828			
合計	2,301	5,731	1,896	300	1,896	-3,835	合計(A)	1,425	5,724	1,896	300	1,896	-3,828			
財源名称	森林環境譲与税(一般財源)				従事正職員人数			1	1	1	1	1				
					延べ業務事務時間			30	31	29	29	29	-2			
					人件費計(千円)(B)			103	104	97	97	97	-8			
	最終予算額	1,896 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)			1,528	5,828	1,993	397	1,993	-3,836			

1枚目

事業番号	03761	事務事業名	林業就業者支援事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
年々就業者数が減少しており、厳しい状態が続いている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
当初より現状維持を行っている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
この事業を利用した新規就業者、雇用している事業者からは「大変手厚い事業でありたい」という意見をもらっている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 昨今の林業における離職者の増加、新規就業者の減少は全国的に問題となっており、町の重要な資源の一つである林業の振興促進、政策体系に結びついていると考える。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 林業の振興促進は、町の重要政策と位置付けているため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	理由説明 現在、現場作業員のみへの対応としているが、事務職員(プランナーや計画担当)への拡大を考えていく。
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 成果を上げるためには雇用がないと上がらないことから目標水準に達していると考え。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 この事業があることで、新規就業者のやる気、継続の意識に影響があるなら大きな影響を持っている。
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 やり方として現状改善の余地はない。
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 公平・公正となっている。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	事業内容として好評であり、作業人員の確保に繋がっている。 要協議だが、現場作業員だけの補助ではなく、プランナー等も対応できればと考えている。																						
B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p>今後の改革改善案</p> <p>現場作業員と併せてプランナー等(事務職員)への対応。 岡山県に登録している意欲ある林業事業者の町内事務所の対応。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																							
現状の就業状況などを参考にし、課内での協議等を行い、対応の必要性が見いだせれば進めていく。	(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																						

事業番号	事務事業名	林業振興促進対策事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03760	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	鏡野町林業振興促進対策補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	森林整備(新植、下刈、枝打、除伐、間伐等)をするために自然災害等により被災し、車両の通行ができない作業道の修繕に対しての費用を補助する。	近年、豪雨等の影響により既設作業道が被災し、車両が通行できないことから、森林整備のために、受益者単独では経費が多くかかるため、修繕が出来ない状況であった。そのため、作業道修繕の補助要望が多いこと、森林整備を進めることを目的として、令和2年度に補助制度を創設した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 森林作業道	ア 修繕延長	m	見込	4,000	4,000	2,000	2,000	2,000
			実績	0	840	3,000		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 森林整備のため修繕	ア 修繕延長	m	目標	4,000	4,000	2,000	2,000	2,000
			実績	0	840	3,000		
			達成率	0.0%	21.0%	150.0%		150.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 作業道修繕に対する補助	ア 修繕作業道路線数	路線	目標	2	2	2	2	2
			実績	0	3	2		
			達成率	0.0%	150.0%	100.0%		100.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大事業 03	中事業 01	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費				林業振興促進対策事業					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	1,000	1,000	800	800	800	-200	一般財源		450	620	800	800	170			
合計	1,000	1,000	800	800	800	-200	合計(A)		450	620	800	800	170			
財源名称	森林環境譲与税(一般財源)						従事正職員人数		1	1	1					
							延べ業務事務時間		20	20	20					
							人件費計(千円)(B)		68	67	67		-1			
	最終予算額		800 千円	予算執行率		77.5%	トータルコスト(A+B)		68	517	687	800	800	169		

1枚目

事業番号	03760	事務事業名	林業振興促進対策事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
近年、豪雨等の影響により、既設作業道が被災し、車両の通行が出来ないことから、森林整備の推進に影響がある。
②この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
森林整備促進の為、令和2年度より開始している。
③この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
森林所有者、森林組合など受益者から作業修繕費用の支援に対して強い要望がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか?意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 森林整備の推進には、被災した既設作業道の修繕も必要であり、町の林業振興の政策体系に結びついている。
	②町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか?税金を投入して行うべき事業か?住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 既設作業道の修繕は、受益者だけでは負担が大きいことから、森林整備を推進するためにも町が支援する必要がある。	
③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 放置森林の防止、森林所有者等の経営意欲向上、森林整備の推進のためであり、妥当である。	
有効性 評価	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか?成果を向上させる有効な手段はないか?何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 作業道修繕を進めることにより、森林整備を推進させ、森林所有者等の経営意欲を向上させる。
	⑤廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は?目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 作業道修繕が出来なくなり、森林整備が進まず、森林所有者等の意欲が低下する。	
⑥方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 森林整備の推進のための作業道修繕の補助であり、改善余地はない。	
効率性 評価	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 作業道修繕費用の上限を設定した補助であり、補助単価等を下げると作業道修繕が出来なくなり、森林整備の推進に大きな影響がある。
⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 交付事務のみであり、人件費の削減は難しい。	
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか?受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 作業道修繕の補助対象は、森林所有者等の受益者を対象としており、上限を設定した補助であり、受益者負担は公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

①上記の評価結果		②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	これまで豪雨等で被災した既設作業道の修繕費用がかかるため、修繕できず森林整備が出来なかったところが、作業道修繕の補助を行うことにより、作業道が修繕され、森林整備が行われることになった。さらなる森林整備の推進が期待できる。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④担当課としての事業の方針																							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 補助事業の拡充の検討		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上		○																						
	維持																								
	低下																								
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
拡充内容の検討																									

事業番号	事務事業名	緑化推進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03890	政策名	4	係名		担当者・シート作成者	嶋田 麦
	施策名	43	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	4~5月の春の緑の月間で行う町内での「緑の募金」を基にした事業であり、その実績額に応じて(社)岡山県緑化推進協会から町内植樹の助成が行われる。また、実績とは別に一定の補助を受け、町内の巨樹・老樹の治療補助を行う。①緑の募金活動(4~5月) ②募金の金額により、苗木植樹の計画を策定(6月) ③交付申請(9月) ④事業実施(10~12月) ⑤実績報告(1~2月)	平成17年の町村合併により、緑の募金法に基づき緑の募金を礎に県土の緑化や緑化思想の普及等に努めるために開始した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公共施設	ア 対象公共施設数	箇所	見込 実績	2 1	2 1	2 1	2	2
イ 巨樹・老樹	イ 植樹数	本	見込 実績	50 65	50 50	50 20	10	50
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公共施設の緑化	ア 植樹施設数	箇所	目標 実績 達成率	2 1 50.0%	2 1 50.0%	2 1 50.0%	2	2
イ 巨樹・老樹の保存	イ 保存対策をした巨樹・老樹の本数	本	目標 実績 達成率	1 0 0.0%	1 0 0.0%	1 0 0.0%	1	1
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 緑の募金活動	ア 募金金額	千円	目標 実績 達成率	90 61 67.8%	90 58 64.4%	90 80 88.9%	90	90
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町民	ア 自然環境保全の意識を高め、保全活動をしてもらう
イ 町内の自然環境と生態系	イ 自然環境や歴史資産と調和した個性ある魅力的な景観を保全する
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		02 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		緑化推進事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財	63	90	90	90	90	その他特財	130	28	5	90	90	-23		
一般財源	67	40	40	40	40	一般財源				40	40			
合計	130	130	130	130	130	合計(A)	130	28	5	130	130	-23		
財源名称	岡山県緑化推進協会緑化助成金					従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	50	50	50	50	50			
						人件費計(千円)(B)	171	168	167	167	167	-1		
	最終予算額	130 千円	予算執行率	3.8%		トータルコスト(A+B)	301	196	172	297	297	-24		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	令和5年度はトチノキ20本の植樹を行った。当初は獣害対策資材を含め計画していたが、獣害対策資材が不要となり未執行の額が大きくなってしまったため、今後は計画に変更がある場合は植樹箇所を増やす等の対応も検討したい。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	間伐促進等特別対策事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03910	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法	鏡野町林業振興促進対策補助金交付要綱	

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	森林施業の効率化を図り、活発な協業活動を推進するため、除伐及び間伐、枝打ち実施者に対して補助金を支出する	岡山県の実施する緊急間伐3か年対策により開始(町上乗せを前提として岡山県が補助を行う)

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内森林面積	ア 町内森林面積	ha	見込	36,284	36,284	36,274	36,274	36,274
			実績	36,284	36,274	36,279		
イ 町内人工林面積	イ 町内民有林人工林面積	ha	見込	21,633	21,677	21,754	21,519	21,519
			実績	21,677	21,754	21,519		

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 優良な人工林を形成する	ア 間伐実績面積	ha	目標	400	425	450	450	450
			実績	327	206	353		
			達成率	81.8%	48.5%	78.5%		78.5%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 間伐等の実施	ア 補助対象施業実施面積	ha	目標	190	190	190	190	190
			実績	123	125	106		
			達成率	64.7%	65.8%	55.9%		55.9%
イ 間伐等の実施	イ 補助対象防護柵実施距離	m	目標		2,000	2,000	3,000	3,000
			実績		4,150	7,689		
			達成率		207.5%	384.4%		256.3%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		20	01	間伐促進等特別対策事業費					03910
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	8,500	7,500	4,722	8,500	8,500	-2,778	一般財源	4,131	4,913	4,722	8,500	8,500	-191			
合計	8,500	7,500	4,722	8,500	8,500	-2,778	合計(A)	4,131	4,913	4,722	8,500	8,500	-191			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間	35	35	35	35	35	35			
							人件費計(千円)(B)	120	118	117	117	117	-1			
	最終予算額		4,722 千円	予算執行率		99.9%	トータルコスト(A+B)	4,251	5,031	4,839	8,617	8,617	-192			

1枚目

事業番号	03910	事務事業名	間伐促進等特別対策事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
搬出間伐が施業の中心の施業から主伐がメインに移行しつつあるが、伐採後の再造林が進んでいない。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成29年度に除伐枝打の補助を追加。令和4年度に獣害防護柵の補助を追加しており、補助事業の充実を進めている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
他の自治体と比べ手厚い補助であるとの意見が多い。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 本事業により、山主の負担が減り、森林施業の実施が促進されている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 森林整備意欲が希薄となる中で、森林の公益的機能の発揮のためには、町の関与が必要である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 施業量の上限が労務により決まってしまうため、林業従事者が増加すれば、施業量も増加する。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 廃止した場合、山主の施業意欲のさらなる低下につながり、山林荒廃の一因となりうる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 最小限の事務のため、改善余地はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 補助単価を下げると、森林整備意欲の低下につながるため削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 最低限の補助金申請事務であり、削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町内人工林を対象としており、公平である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	山主の森林整備意欲を喚起することにつながっており、森林の公益的機能の発揮のためにも継続する必要がある。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 補助金内容の精査	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
補助金内容の精査		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	間伐材運搬費補助事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03911	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法 鏡野町林業振興促進対策補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	搬出間伐の促進のため、間伐材の搬出にかかる経費の一部を補助する。	近年の林業生産活動の停滞や高齢化等を背景として、適時適切な森林施業が行われない森林が増加しており、また木材価格の低迷により収益性が悪化しているため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の森林	ア 町内の森林面積	ha	見込	36,284	36,284	36,274	36,274	36,274
			実績	36,284	36,274	36,279		
イ 町内人工林	イ 民有林人工林	ha	見込	21,633	21,677	21,756	21,519	21,519
			実績	21,677	21,756	21,519		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 優良な人工林の形成する	ア 間伐実績面積	ha	目標	400	425	500	500	500
			実績	327	206	353		
			達成率	81.8%	48.5%	70.7%		70.7%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 搬出間伐の実施	ア 搬出間伐材積	m ³	目標	11,000	12,000	12,000	12,000	12,000
			実績	12,055	10,505	9,046.6		
			達成率	109.6%	87.5%	75.4%		75.4%
イ 搬出間伐の実施	イ 貯木場搬入材積	m ³	目標			10,000	10,000	10,000
			実績			18,589		
			達成率			185.9%		185.9%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大事業 20		中事業 02		予算上の事業名			事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費						間伐材運搬費補助事業			
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	03911		
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	21,267	19,404	16,070	18,860	18,860	-3,334	一般財源	21,266	18,532	15,958	18,860	18,860	-2,574			
合計	21,267	19,404	16,070	18,860	18,860	-3,334	合計(A)	21,266	18,532	15,958	18,860	18,860	-2,574			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間						20	20	20	20	20	20	20			
	人件費計(千円)(B)						68	67	67	67	67	67	67	-1		
	最終予算額		16,070 千円		予算執行率		99.3%	トータルコスト(A+B)		21,334	18,599	16,025	18,927	18,927	-2,574	

1枚目

事業番号	03911	事務事業名	間伐材運搬費補助事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	高性能林業機械の導入や林齢の高齢化によりヘクタール当たりの搬出材積は増加傾向にある。山主の山林への関心の低下
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	平成29年度に補助金単価を増額している。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?	他の市町村と比較し、充実しているとの意見が出ている。スギ材の運搬に対する助成の要望が出ている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 本事業により森林所有者の施業意欲が向上し、間伐が行われることにより、森林整備の推進・林業の振興へ結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 間伐を行うことは、木材生産だけではなく、水源涵養や土砂流出の防止などにつながり、公益的機能の発揮のためにも町の関与が妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 本事業により一定の間伐が行われており、適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 間伐面積は目標値を下回っているものの、齢級の高い森林が増え、ha当たりの搬出材積が多くなっていることにより、搬出材積は概ね目標水準に近い値を維持している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 事業を廃止した場合は、施業意欲の低下による放置森林の増加が懸念される
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 補助金交付事務であり最小限の事務のため、改善余地はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 事業費を削減するには、補助単価を減額するしかく、施業意欲の低下につながりかねない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 最小限の事務のため、削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町内に森林を所有するものを対象としており、偏りはない。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	森林所有者の経営意欲を喚起する事業であり、本事業により間伐が促進されている。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 材価が低迷しているスギ材に対する補助の検討																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
材価が低迷しているスギ材への対処																									

事業番号	事務事業名	作業道補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
03925-0	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22	林業の振興	根拠法令等	森林法 間伐等特措法 林業振興促進対策補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	森林施業の効率化を図り、活発な林業活動を推進するため、間伐作業道設置者に対して補助金を交付する。	令和4年度実績が想定以下であったことから、令和5年度にかけて繰越を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 森林作業道	ア 開設延長		見込			10,000		
			実績			5,446		
イ	イ		見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 計画的に整備する	ア 開設延長		目標			10,000		
			実績			5,446		
			達成率			54.5%		
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 作業道開設に対する補助	ア 開設延長	m	目標			10,000		
			実績			5,446		
			達成率			54.5%		
イ	イ	件	目標			20		
			実績			21		
			達成率			105.0%		

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		作業道補助金						
	23	01													03925-0
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金			1,826			1,826	国庫支出金			1,826			1,826		
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源			1,825			1,825	一般財源			1,825			1,825		
合計			3,651			3,651	合計(A)			3,651			3,651		
財源名称	美しい森林づくり基盤交付金事業(国庫支出金)						従事正職員人数			1			1		
							延べ業務事務時間			30			30		
							人件費計(千円)(B)			100			100		
	最終予算額	3,651 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)			3,751			3,751		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	R4年度繰越分について、全額補助金交付を行った。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	作業道補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
03925	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22	林業の振興	根拠法令等	森林法、間伐等特措法、鏡野町林業振興促進対策補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	森林施業の効率化を図り活発な協業活動を推進するため間伐作業道設置者に対して補助金を支出する。	合併以前から、国県補助事業より簡易で取り組みやすい事業として開始。 旧鏡野町、奥津町にて実施。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 森林作業道	ア 開設延長	m	見込	10,000	10,000	10,000	6,000	6,000
			実績	8,709	3,139	1,758		
イ			見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 計画的に整備する	ア 開設延長	m	目標	10,000	10,000	10,000	6,000	6,000
			実績	8,709	3,139	1,758		
			達成率	87.1%	31.4%	17.6%		29.3%
イ			目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 作業道開設に対する補助	ア 開設延長	m	目標	10,000	10,000	10,000	6,000	6,000
			実績	8,709	3,139	1,758		
			達成率	87.1%	31.4%	17.6%		29.3%
イ			目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		作業道補助金					
	23	01												03925
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金	3,000	3,000	3,000		3,000		国庫支出金	3,000	1,174	976		3,000	-198	
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	3,000	3,000	3,000		3,000		一般財源	2,557	1,175	976		3,000	-199	
合計	6,000	6,000	6,000		6,000		合計(A)	5,557	2,349	1,952		6,000	-397	
財源名称	美しい森林づくり基盤整備交付金						従事正職員人数	1	1	1				
							延べ業務事務時間	40	40	40				
							人件費計(千円)(B)	137	134	133			-1	
	最終予算額	6,000 千円		予算執行率	32.5%		トータルコスト(A+B)	5,694	2,483	2,085		6,000	-398	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	R5年度実績が想定よりも少なく、令和6年度に繰越をしている。令和6年度についてはR5繰越予算にて補助金を交付する。 繰越額 2024千円、2024千円 合計4048千円
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	林業研究クラブ補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
03955	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	鏡野町林業グループ連絡協議会に対する助成金を支給する。 構成団体:みどり会、奥津林業研究会、望春会、すずのこ会、明日絵会 計5団体が該当する。	合併前、旧苫北地区(3力町村)においては林業改良普及協議会による助成制度があり運営、情報交換の場を設けてお互い切磋琢磨しており、鏡野地区においては町独自の補助制度により運営補助をおこなっていた。 平成18年度7団体が協議会を設けたため全体に対しての助成制度を開始、旧町村単位で実施していた補助金を一本化し縮減して実施。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 林業研究グループ	ア 林業研究グループ団体数	団体	見込	6	6	6	6	6
			実績	6	6	5		
イ	イ 会員数		見込	150	130	130	125	125
			実績	123	125	125		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア グループが相互に協力し、森林林業に関する情報を収集	ア 研修会、情報交換会等の開催数	回	目標	6	6	6	6	6
			実績	3	3	4		
			達成率	50.0%	50.0%	66.7%		66.7%
イ 林業経営の合理化・地域林業の発展を図る	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 研修会、情報交換会の開催	ア 研修会、情報交換会等の開催数	回	目標	6	6	6	6	6
			実績	3	3	4		
			達成率	50.0%	50.0%	66.7%		66.7%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大事業 26	中事業 01	予算上の事業名					事業番号 03955
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費				林業研究クラブ補助金					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	400	400	400	400	400		一般財源	400	400	400	400	400				
合計	400	400	400	400	400		合計(A)	400	400	400	400	400	0			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	20	20	20	20	20				
							人件費計(千円)(B)	68	67	67	67	67	-1			
	最終予算額	400 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)		468	467	467	467	467	467	-1			

1枚目

事業番号	03955	事務事業名	林業研究クラブ補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
一部の団体を除き、林業研究グループ会員の高齢化が進み、新規加入者も少ないため、後継者の育成が必要である。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成21年度当初予算編成において、補助金単価の減額が行われ、その後同額で推移している。(H24年度1団体解散、R3年度1団体解散)
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
事業の存続、活動に対する十分な助成の要望がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 林業振興のためには、林業事業体だけではなく、林家の育成も図る必要があり、各グループの活動により林家の技術向上が図られている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明	木材価格の低迷により、立木販売収入だけでは各グループの活動経費が賅えず、公的な助成を行う必要がある。
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明	対象は町内全域の林業研究グループの組織する団体であり、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 若年層の参加を期待するが、いずれの団体も高齢者が主であり向上余地は乏しい。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明	事業としては補助金の交付のみであり、改善余地はない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明	補助金の交付、研修会への参加等、必要最低限の業務である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	林業の低迷を反映して、会員は固定化・高齢化の傾向にあり、活力ある活動のためには新規会員の勧誘が望まれる。																							
B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p>今後の改革改善案</p> <p>後世に伝えていくべき技術等を伝承する手段を、新規会員の勧誘方法等模索しながら検討する必要がある。</p>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	技術の伝承方法、後継者の育成																							

事業番号	事務事業名	ナラ枯対策事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04022	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	町内のナラ枯れ被害は年々増加傾向にあり、駆除しても追いつかない現状にある。このことから町内観光地及び景勝地の景観および町民の生命財産を守ることを最優先として駆除を行っている。令和5年度は神社、グラウンド、景勝地、キャンプ場にて駆除を行った。	平成22年度、全国的に被害拡大が進んでいるナラ枯れの被害が町内で発見された。早期な駆除が望まれ、放置若しくは対応が遅れた場合拡大し、鳥取県のように早期に適切な対応ができなかった場合、年間3千万円以上の費用をかけても効果が望めなくなる。津山市阿波方面と共に、町内へは鳥取県境から上齋原地域を西南進で被害木が確認されている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア ナラ枯れ枯死木	ア ナラ枯れ枯死木数	本	見込 実績	400 541	250 254	20 16	20	20
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 被害の拡大を防ぐ	ア 枯死木の確認本数	本	目標 実績 達成率	400 541 135.3%	200 254 127.0%	16 16 100.0%	20	20 80.0%
イ 被害の拡大を防ぐ	イ 伐倒及び立木くん蒸処理本数	本	目標 実績 達成率	400 541 135.3%	200 254 127.0%	16 16 100.0%	20	20 80.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 被害木探査	ア 被害木探査回数	回	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 2 200.0%	1	1 200.0%
イ 伐倒及び立木くん蒸処理	イ 伐倒及び立木くん蒸処理本数	本	目標 実績 達成率	400 541 135.3%	200 254 127.0%	16 16 100.0%	200	—

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		02 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費		ナラ枯対策事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金	6,586	5,963	576	2,009	2,009	-5,387	6,586	5,519	576	2,009	2,009	-4,943		
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	52	246	1			-245	52	690	1			-689		
合計	6,638	6,209	577	2,009	2,009	-5,632	合計(A)	6,638	6,209	577	2,009	2,009	-5,632	
財源名称	ナラ枯れ被害拡大防止総合対策事業費補助金					従事正職員人数	1	1	1	1	1			
						延べ業務事務時間	32	32	34	37	35	2		
						人件費計(千円)(B)	109	108	113	123	117	6		
	最終予算額		577 千円	予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	6,747	6,317	690	2,132	2,126	-5,626	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	全量駆除から選定したものに対し駆除を行う方法に変更した。ピンポイントでの施業、調査で効果的に働くものの、処理数という点で見れば取組が弱いと取られることも想定されるが、調査等にかかる時間は増加している。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	森林経営管理制度推進事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04029	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林経営管理法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	森林経営管理制度の推進を進め、奥津・羽出地区の意向調査及び、実施済地区における経営管理権集積計画を21.18ha作成し、令和4年度計画策定箇所の森林整備を達成した。また経営管理権配分計画樹立に不可欠な選定委員会要綱を制定し、次年度への基盤を形成した。	林業経営の効率化及び森林の管理の適正化の一體的な促進を図り、林業の持続的発展及び森林の有する多面的機能の発揮に資することを目的として、平成31年4月より森林経営管理法が施行されたことによる。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林	ア 民有林人工林面積	ha	見込	21,633	21,677	21,754	21,519	21,519
			実績	21,677	21,754	21,519		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 林業経営の効率化及び森林の管理の適正化	ア 経営管理集積計画作成面積	ha	目標	5	5	10	10	10
			実績	0	5.90	21.18		
			達成率	0.0%	118.0%	211.8%		211.8%
イ 林業経営の効率化及び森林の管理の適正化	イ 市町村森林経営管理事業実施面積	ha	目標	5	5	6	10	10
			実績	0	0	5.54		
			達成率	0.0%	0.0%	92.3%		55.4%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 意向調査の実施	ア 意向調査実施面積	ha	目標	2,044	2,500	2,000	2,000	2,000
			実績	1,873	4	1,409.26		
			達成率	91.6%	0.2%	70.5%		70.5%
イ 町へ委託等希望箇所現地調査	イ 現地調査筆数	筆	目標	541	1,000	500	250	250
			実績	166	394	150		
			達成率	30.7%	39.4%	30.0%		60.0%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大事業 46	中事業 01	予算上の事業名					事業番号 04029
	一般会計	農林水産業費	林業費	林業振興費	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度			7 年度	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	
予算(千円)	実績	実績	実績	見込	見込	前年比	決算(千円)	実績	実績	実績	見込	見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	11,360	5,962	14,306	19,083	19,083	8,344	一般財源	5,606	5,149	13,418	19,083	19,083	8,269			
合計	11,360	5,962	14,306	19,083	19,083	8,344	合計(A)	5,606	5,149	13,418	19,083	19,083	8,269			
財源名称	一般財源及び森林環境譲与税(一般財源)						従事正職員人数	2	2	2	2	2	2			
							延べ業務事務時間	96	150	150	150	150	150			
							人件費計(千円)(B)	328	504	500	500	500	-4			
	最終予算額		14,306 千円		予算執行率		93.7%		トータルコスト(A+B)		5,934	5,653	13,918	19,583	19,583	8,265

1枚目

事業番号	04029	事務事業名	森林経営管理制度推進事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	---------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? 森林経営管理法の開始時と大きな変化はなく、引き続き森林所有者の森林管理への意欲減退が進んでおり、放置森林の増加が懸念されている。意向調査の回答を通して多数の森林が希望委託森林としてアンケート結果に表れている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯 鏡野町経営管理制度の取組方針の改定、意向調査票の改良、経営管理集積計画作成取組方針の策定を行った。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか? 管理ができない山林について、遠方に住んでいない為代わりに管理をしていただけるのはとてもありがたいと森林所有者からの意見が寄せられている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	本事業により、今まで管理が行われていなかった山林の森林整備が促進され、林業の振興並びに森林の公益的機能の増進へ結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	森林経営管理制度上、市町村が主体となり森林環境譲与税を活用した森林整備を推進する必要があるため、町が行う必要がある。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	本事業により、町内の森林資源の把握、今まで管理が行われていなかった山林の森林整備が推進できるため適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	事業内容の精査、効率化により今後向上する余地はある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	管理不能の山林が増加し、森林の多面的機能の減退や、土砂災害の危険性が高まることから影響は大きい	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	資源解析データの活用やGNSS測量機器等の導入による現地調査の効率化、現地調査簿等の改良を通して、業務改善の余地はある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	今後本格的な事業の拡大推進を進めるにあたり、削減の余地はない
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	今後本格的な事業の拡大推進を進めるにあたり、削減の余地はない	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	手入れが必要な人工林の中で、町内全体の整備が必要な民有地人工林を対象としており、公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	放置森林の解消及び林業の振興には、本事業を通じた荒廃森林の整備推進が不可欠と考えられる。今後も目的達成のための取組、改善を図る。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 市町村森林経営管理事業の推進(切捨間伐による荒廃森林の整備) 資源解析データを活用した、精査指標の確立 経営管理権集積計画樹立のさらなる推進																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上			○																					
	維持																								
	低下																								
解析データの基準反映の検討、集積計画策定対象地の精査・樹立協議の推進		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	森林資源解析事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04031	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (3 年度~ 5 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	森林資源解析で得られる立木本数、樹高などの森林資源の管理に必要なデータをGISなどの森林管理システムに取り組むことにより、森林経営管理制度による事業運営や森林整備計画策定等を円滑に進める。令和5年度については解析データをGISに搭載し今後の森林管理に役立てる。	町内の森林資源データの把握には、現在岡山県作成の森林簿や森林計画図面を使用している状況だが、地番ごとに整理されている状況ではなく、データについても当初より更新がされておらず、今後地番ごとに管理を行う森林経営管理制度をはじめとした各種事業に直接利用しにくい状況にある。そのため津山圏域定住自立圏で行われる、森林解析事業に参加し、得られる詳細な森林資源データから、森林経営管理制度等の各種事業を円滑に行えるよう、森林資源解析システムの構築を行う。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内森林面積	→ ア 町内森林面積	ha	見込	36,284	36,278	36,274	36,279	36,279
			実績	36,278	36,274	36,279		
イ	→ イ		見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内森林面積の把握	→ ア 町内森林面積	ha	目標	36,284	36,278	36,274	36,279	36,279
			実績	36,278	36,274	36,279		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
イ	→ イ		目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 資源解析事業導入協議	→ ア 協議数	件	目標	3	2	2	0	0
			実績	3	2	2		
			達成率	100.0%	100.0%	100.0%		
イ	→ イ		目標					
			実績					
			達成率					
ウ	→ ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 02		大 48	中 01	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業振興費				森林資源解析事業					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	4,503	45,558	14,705			-30,853	一般財源	4,503	41,567	14,705			-26,862			
合計	4,503	45,558	14,705			-30,853	合計(A)	4,503	41,567	14,705			-26,862			
財源名称	一般財源(森林環境譲与税)						従事正職員人数		1	1	1					
							延べ業務事務時間		20	20	20					
							人件費計(千円)(B)		68	67	67		-1			
	最終予算額		14,705 千円	予算執行率		100.0%	トータルコスト(A+B)		4,571	41,634	14,772			-26,863		

1枚目

事業番号	04031	事務事業名	森林資源解析事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
森林経営管理制度や森林環境譲与税の導入など、森林を中心とした制度の拡充、見直しが行われている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
単独で解析事業を実施すると高額になることから、1市4町(R4に1町追加)合同で実施することとしている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
資源解析データを有効利用し、森林現況の把握がしたいとの要望が寄せられている。

5. 事業評価

目的妥当性評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 町が実施する森林経営管理制度などに深く結びついていくため施策体系と繋がっている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
有効性評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 上記と同様で町が行わなければならない。
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 見直す余地はない。
効率性評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 現段階の市町との合同実施が合理的である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 現段階でレーザー計測を用いたデータ解析が一番有能であるため廃止・休止は影響が大きい
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 現段階の市町との合同実施が合理的であり、改善の余地はない
公平性評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 現段階の市町との合同実施が合理的であり、改善の余地はない
公平性評価	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 現状のやり方で削減余地はない
公平性評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 公平・公正になっている

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠	
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年度において事業完了し森林GISに導入済。今後町有林整備事業、森林経営管理制度推進事業への活用を予定している。	
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり		
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり		
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり		
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④ 担当課としての事業の方針
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事業完了			今後の改革改善案
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題			(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)

事業番号	事務事業名	山村広場交流センター経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04115	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤裕子
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	山村広場交流センター(富ふれあいセンター)は、屋内ゲートボール場・広間・調理室等の設備があり、ゲートボールや地域交流などに利用されている。	平成4年度に建設されて以降維持管理業務が行われている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 地域住民	ア 富地域の住民	人	見込 実績	560 545	560 528	512 497	500	500
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 住民相互の交流・活動を提供する	ア 施設数	軒	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 利用申請受付	ア 利用日数	日	目標 実績 達成率	50 41 82.0%	50 40 80.0%	50 45 90.0%	50	90.0%
イ 利用申請受付	イ 利用者数	人	目標 実績 達成率	900 436 48.4%	200 338 169.0%	400 629 157.3%	400	157.3%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		03 目		01 07 中事業 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業施設費		山村広場交流センター経常管理費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	460	464	914	671	671	450	一般財源	388	386	792	671	671	406	
合計	460	464	914	671	671	450	合計(A)	388	386	792	671	671	406	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	2	2	2	2	2		
							人件費計(千円)(B)	7	7	7	7	7	-0	
	最終予算額		914 千円		予算執行率	86.6%		トータルコスト(A+B)	395	393	799	678	678	406

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	利用方法が変化しており、利用者数は回復しなかった。 消防施設の点検時に、消耗部品の交換等細かな整備を行っている。 トレーニングルームのカーテンを新調しレール等修理した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	貯木場経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04117	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22	林業の振興	根拠法令等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	令和5年4月3日より運営開始しており、作州かがみの森林組合が運営委託業者として業務を請け負っている。 森林組合は材の搬入、受付、調整、スギの合板会社への販売を行っている。また貯木場は、岡山県森林組合連合会 津山共販所のサテライトとしており、県森連がヒノキの販売を担う。県森連は材の種類、長さ、大きさの選別、出荷の業務を行っている。 町は県森連が出荷者から費用として徴収する極積み料(はいづみりょう)850円/m ³ (税抜き)を負担し、運送費用の軽減と併せ出荷者の負担の軽減の取組を行っている。	町産材の利用拡大、流通強化を図るべく、鏡野町森林づくり協議会で協議され、木材価格の変動、町産材の安定供給に対応するには木材集積基地(貯木場)の整備が必要との提言をうけ整備を開始した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の林業事業者	ア 岡山県認定林業事業者	社	見込 実績	5 5	5 5	6 6	7	7
イ 町内の林業従事者数(国税調査)	イ 林業従事者数	人	見込 実績	72 90	72 89	72 89		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林	ア 町内人工林面積	千円	目標 実績 達成率	21,633 21,667 100.2%	21,667 21,754 100.4%	21,754 21,741 99.9%	21,741	21,741 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 委託契約	ア 委託契約	件	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		06 款		02 項		03 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業施設費		貯木場経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町 債						町 債								
その他特財						その他特財								
一般財源		31,828	24,537	24,537	31,828	一般財源		27,671	24,537	24,537	27,671			
合計		31,828	24,537	24,537	31,828	合計(A)		27,671	24,537	24,537	27,671			
財源名称	森林環境譲与税					従事正職員人数			2	2	2	2		
						延べ業務事務時間			45	45	45	45		
						人件費計(千円)(B)			150	150	150	150		
	最終予算額	31,828 千円	予算執行率	86.9%		トータルコスト(A+B)			27,821	24,687	24,687	27,821		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	令和5年度より運営を開始した貯木場で、計画当初の見込みより多くの材の搬入があり、たくさんの方の山元への還元等が行えている。 引き続き愛される貯木場作りを行ってきたい。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	特用林産物生産事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04121	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	嶋田 麦
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	上齋原地域特産の原木なめこ、きくらげの安定した生産、供給を行うため、生産施設を活用して最適な生産体制の確立を目指す。販売についても販路の拡大や新商品の開発を行い、産業の振興を図る。	これまで生産に取り組んでいた作州かがみの森林組合が原木なめこ事業からの撤退を表明したことを受け、上齋原地域で古くから生産されてきた地域特産品が消滅することに危機感を抱いた町が、H28年度より地方創生交付金を活用して生産施設の整備・商品開発等のテコ入れを図ったことがきっかけ。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 原木なめこ生産量	ア 原木伏せ込み本数	本	見込	18,700	18,700	21,700	24,700	27,700
			実績	17,679	20,268	22,428		
イ きくらげ生産量	イ 収穫量	kg	見込	900	900	900	900	900
			実績	684	773	837		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 生産量の拡大	ア 原木伏せ込み本数	本	目標	18,700	18,700	21,700	24,700	27,700
			実績	17,679	20,268	22,428		
			達成率	94.5%	108.4%	103.4%		81.0%
イ 生産量の拡大	イ 収穫量	kg	目標	900	900	900	900	900
			実績	684	773	837		
			達成率	76.0%	85.9%	93.0%		93.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 生産委託	ア きくらげ収穫加工	人	目標	100	100	100	100	100
			実績	119	133	116		
			達成率	119.0%	133.0%	116.0%		116.0%
イ 生産委託	イ なめこ収穫加工	人	目標	200	200	200	200	200
			実績	177	125	178		
			達成率	88.5%	62.5%	89.0%		89.0%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 03		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業施設費		51	03	特用林産物生産事業					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	04121		
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財	2,500	2,000	2,000	2,000	2,000		その他特財	1,958	3,177	1,062	2,000	2,000	-2,115			
一般財源	7,585	8,059	8,058	8,049	8,049	-1	一般財源	8,125	6,859	8,974	8,049	8,049	2,115			
合計	10,085	10,059	10,058	10,049	10,049	-1	合計(A)	10,083	10,036	10,036	10,049	10,049	0			
財源名称	特用林産物販売収入						従事正職員人数		1	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間		200	200	50	50	50	-150		
							人件費計(千円)(B)		684	672	167	167	167	-506		
	最終予算額		10,058 千円	予算執行率		99.7%	トータルコスト(A+B)		10,767	10,708	10,203	10,216	10,216	-506		

1枚目

事業番号	04121	事務事業名	特用林産物生産事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
上齋原地域の特産品である原木なめこは高齢化により、生産者数・生産量の減少が深刻である。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成28年度に地方創生交付金を活用した生産施設を整備し、平成29年度より商品開発を行ってきた。現在は安定した生産を図るため、最適な生産体制を模索している。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
新たな特産品の開発による産業振興を期待する声がある。また、天候・気候による生産量の増減が激しく、さらに通年収穫できるものでないため活用が難しいという声もある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 地元住民の雇用や原木の切り出しによる広葉樹の活用につながっており、林業の活性化に寄与している。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 衰退しつつある特産品の再興を図ることを目的としており、町が事業を行わなければ古くからの地域特産品が消滅することにもつながりかねないため、妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 衰退しつつある特産品の再興を図ることを目的としており、町が事業を行わなければ古くからの地域特産品が消滅することにもつながりかねないため、妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 天候等の影響で生産量が安定しないため生産コストが大きくかかっており、特産品の販売事業としては採算が合っていない。収穫量も目標を下回っているため、湿度・温度・日照など、生育に最適な伏せ込み場の環境を模索し、収穫量増と安定した商品生産を目指す。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 町が事業を廃止すると町で古くから生産されてきた地域特産品が消滅する可能性がある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 収穫量が目標を下回っているほか、生産量が安定せず商品化にも影響が出ていることから、伏せ込み場の湿度、温度、日照時間等の調査を行い、生産に適した発生条件を模索していく必要がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 駒打ち、収穫時期に限り地元住民を雇用するなど人件費の削減を行っており、削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 業務の委託を行い、担当職員1名で事務を行っているため削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 事業内容は特定の地域が主であるが、衰退しつつある特産品の再興と産業振興を目的としており、長期的にみれば町全体の活力の向上につながるから公平であると考え。	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	今年度は気候の影響で原木なめこが昨年ほどの収穫量にならなかった。現状では生産コストに販売収入が見合っておらず、特産品の販売事業としては採算が取れていない。安定して生産を行い、生産コストを下げるのが今後の課題といえる。																							
B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 収穫量の向上と生産を安定化させるため、伏せ込み場の湿度、温度、日照時間等、生育環境の調査を今後も続けていく。収穫量が向上し安定した生産を行うことができるようになれば、生産コストの低下にもつながる。	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																								
現在の生産コストと販売収入による採算を考えると収穫量の向上と生産の安定化は喫緊の課題であるが、生育環境の調査には伏せ込み場内の内部環境だけでなく年ごとの気温などの外部要因など様々な要因があり、どうしても時間がかかってしまう。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																						

事業番号	事務事業名	貯木場整備事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04122	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	担当者・シート作成者	平田 誠
	施策名	22	林業の振興	根拠法令等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	令和4年度は管理棟の建設、場内舗装を行った。管理体制として岡山県森林組合連合会のサテライト市場としての機能開始、作州かがみの森林組合への委託管理とした。	町産材の利用拡大を図るべく、鏡野町森林づくり協議会で協議され、木材価格の変動等に対応し、町産材の安定供給を行うには木材集積基地(貯木場)の整備が必要であるとの提言があり、貯木場整備事業を開始。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の林業事業者	ア 岡山県認定林業事業者	社	見込 実績	5 5	5 5	6 6	7	7
イ 町内の林業従事者数(国勢調査)	イ 林業従事者数	人	見込 実績	72 90	72 89	76 89	76	76

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内人工林	ア 町内人工林面積	千円	目標 実績 達成率	21,633 21,667 100.2%	21,667 21,754 100.4%	21,754 21,741 99.9%	21,700	21,700 100.2%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 委託契約	ア 委託契約数	件	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	0
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		林業施設費		貯木場整備事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町 債	59,000	70,600	14,000		-56,600	町 債	38,000	70,600	14,000			-56,600		
その他特財						その他特財								
一般財源	73,572	30,783	10,517		-20,266	一般財源	30,700	27,580	10,517			-17,063		
合計	132,572	101,383	24,517		-76,866	合計(A)	68,700	98,180	24,517			-73,663		
財源名称	過疎債					従事正職員人数	2	2	2					
	森林環境譲与税					延べ業務事務時間	60	120	70			-50		
						人件費計(千円)(B)	205	403	233			-170		
	最終予算額 24,517 千円					予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)		68,905	98,583	24,750	-73,833	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	前年度より納期が遅くなった貯木場の重機および鉄製のタテリ。前年からの繰越明許で対応した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	町有林整備事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04155	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	森林づくりセンター	担当者・シート作成者	田中 惇也
	施策名	22 林業の振興	根拠法令等	森林法		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	町有林整備事業の実施。 ①町有林台帳 ②現地確認 ③設計書作成 ④見積もり提出依頼 ⑤見積受領 ⑥契約締結 ⑦事業実施 ⑧完了届受領 ⑨現地確認検査 ⑩請求書受領 ⑪代金の支払 ⑫台帳整備	町政施行以来、町有林として取得し造林開始(町行造林を含む)

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町有林	ア 施業面積	ha	見込	50	50	50	20	20
			実績	8	9	4.8		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 財産価値を上げる	ア 町有林材積(直営)	m ³	目標	393,000	450,000	424,636	427,963	427,963
			実績	420,609	424,636	427,963		
			達成率	107.0%	94.4%	100.8%		100.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適正な管理	ア 施業内容 間伐	ha	目標	20	20	20	20	20
			実績	2	6	2.8		
			達成率	10.0%	30.0%	14.0%		14.0%
イ	イ 除伐	ha	目標	5	5	5	5	5
			実績	4	2	0		
			達成率	80.0%	40.0%	0.0%		0.0%
ウ	ウ 下刈り	ha	目標	10	10	10	10	
			実績	2	4	2		
			達成率	17.0%	42.0%	20.0%		-



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の林業従事者	ア 担い手の確保と森林の保全
イ 町内の森林面積	イ 優良材の生産
ウ	
エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 02		目 04		大 04	中 01	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		林業費		町有林管理費		02	01	町有林整備事業費					04155
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金	5,060	16,985	3,337	7,147	7,147	-13,648	県支出金	6,485	2,290	3,337	7,147	7,147	1,047			
町債							町債									
その他特財	1,410	2,010	2,693	1,606	1,606	683	その他特財	315	1,827	2,693	1,606	1,606	867			
一般財源	1,868	10,037	3,993	9,551	9,551	-6,044	一般財源		1,147	1,993	9,551	9,551	846			
合計	8,338	29,032	10,024	18,304	18,304	-19,008	合計(A)	6,800	5,264	8,023	18,304	18,304	2,759			
財源名称	林業費県補助金 造林事業補助金						従事正職員人数		1	1	1	1	1	1		
	立木売却収入						延べ業務事務時間		60	60	60	60	60	60		
							人件費計(千円)(B)		205	202	200	200	200	-2		
	最終予算額		10,024 千円	予算執行率		80.0%	トータルコスト(A+B)		7,005	5,466	8,224	18,504	18,504	2,757		

1枚目

事業番号	04155	事務事業名	町有林整備事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
災害防止等森林の持つ公益的機能にも関心が高まる中、林業成長産業化が森林・林業基本計画に明記される等、木材生産とのバランスが求められている。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
多面的機能のいずれに重点を置かかを森林毎に精査し、木材生産を行う場合は隣接する森林整備公社等と共同で作業道の開設を行う等コスト削減に努めた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
主要道路に近接した森林では保育間伐等を通じた機能向上を求める声や、受益範囲に含まれる森林所有者は森林作業道の共同整備を求める声がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 当事業を通じ、町有林の公益的機能の向上が図られているとともに、業務発注を通じて林業事業体の技術向上や雇用の確保にも結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 町の財産管理であり、収益化が望めない森林も多く、面積の90%を森林が占める当町において、まずは私有林と公有林、それぞれの所有者による適切な管理が必要であり、公費の投入は妥当と思われる。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 町有林整備による公益的機能の向上は災害から住民生活や町資産を守るためにも妥当であり、町有林を通じた雇用の確保にも貢献している。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 費用面においては収益を見込めない森林が多数であるため予算上の問題、収益化が見込める森林であっても林業事業体の育成を同時に進めているため現状での目標水準に達している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 林業事業体の育成、町として森林管理の方向性を示すためにも当事業が必須となる。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 整備を要する森林に関して補助金を最大限活用しつつ施業を行うためには現在の方法が最適と思われる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 事業費削減のための集約化や企業との協定による森林整備は既に取り組んでおり今以上の削減は望めない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 施業に関しては民間委託を行っており、森林ICT活用のためには国県補助金の制約もあることから今以上の人件費削減は望めない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 大規模事業発注においては入札方法を含め公平に行っており、制限を課しているものの再委託も認めており小規模事業体の参入機会も確保している。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	各多面的機能の発揮に向け、航空レーザ解析等を用いた山地災害危険地区分析によるゾーニングや微地形表現図を基にした災害に強い作業道の開設、利用可能な路網や森林施業、過去施業履歴の森林GISへの集約化等今後も林業の技術革新や国の森林基本計画等に応じた適切な森林管理に努めたい。																						
B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																							
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p style="text-align: center;">今後の改革改善案</p> <p>請負事業体の受注能力や森林整備の予算が限られる中、森林経営管理制度による森林整備も並行し実施する必要があることから、優先順位の判断は適切に行っていきたい。</p>																						
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>kei (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
林業事業体数の増加、林業事業体の作業班数の増加、経営計画樹立事業体の増加																							

事業番号	事務事業名	ひらめ種苗センター経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04200	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤裕子
	施策名	23 水産業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 <small>(平成31年度～令和5年度)</small> <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域にあるひらめの稚魚生産を行う施設の管理を、指定管理者である(株)未来奥津に委託する。	昭和51年に富地域の特産であるひらめの養殖が始まり、旧富村内に7カ所の養殖施設が生産組合により運営されていた。養殖から加工までの一貫経営を目指し、技術を要する稚魚生産部分を旧富村が受け持ち、養殖農家の需要量をまかなうため、昭和54年に当該施設を設置したことにより、事

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 富ひらめ種苗センター	ア 適切に運営・管理された施設数	施設	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	1
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 適切な運営・管理	ア 適切に運営・管理された施設数	施設	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 委託の管理・監督	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	100.0%
イ 修繕工事の管理・監督	イ 協議回数	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	100.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の水産業者	ア 担い手の確保
イ	イ 生産高を維持してもらう
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 03		目 02		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		水産業費		水産業振興費		ひらめ種苗センター経常管理費					
3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	2,705	2,060	3,282	3,282	3,282	1,222	一般財源	2,705	2,060	3,282	3,282	3,282	1,222	
合計	2,705	2,060	3,282	3,282	3,282	1,222	合計(A)	2,705	2,060	3,282	3,282	3,282	1,222	
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間						2	2	2	2	2			
	人件費計(千円)(B)						7	7	7	7	7	-0		
	最終予算額	3,282千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	2,712	2,067	3,289	3,289	3,289	1,222	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	5年間の指定管理基本協定が満了。 令和5年度に指定管理者を(株)未来奥津から(株)夢アグリ鏡野に変更した。 予定通りの運営ができています。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	淡水魚養殖施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04202	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤裕子
	施策名	23 水産業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 <small>(平成31年度～令和5年度)</small> <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域にあるひらめの成魚生産を行う施設の管理を、指定管理者である(株)未来奥津に委託する。	昭和51年に富地域の特産であるひらめの養殖が始まり、旧富村内に7カ所の養殖施設が生産組合により運営されていた。養殖から加工までの一貫経営を目指し、技術を要する稚魚生産部分を旧富村が受け持ち、養殖農家の需要量をまかなうため、昭和54年に当該施設を設置したことにより、事業が始まった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 淡水魚養殖施設	ア 施設数	施設	見込 実績	1 1	1 1	1 1	1	1
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 適切な管理・運営	ア 適切に管理運営された施設数	施設	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 委託の管理・監督	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の水産業者	ア 担い手の確保
イ	イ 生産高を維持してもらう
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 06		項 03		目 02		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		農林水産業費		水産業費		水産業振興費		淡水魚養殖施設経常管理費					
	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	2,705	1,885	3,003	3,003	3,003	1,118	一般財源	2,705	1,885	3,003	3,003	3,003	1,118	
合計	2,705	1,885	3,003	3,003	3,003	1,118	合計(A)	2,705	1,885	3,003	3,003	3,003	1,118	
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1		
	延べ業務事務時間						2	2	2	2	2	2		
	人件費計(千円)(B)						7	7	7	7	7	7	-0	
	最終予算額	3,003千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	2,712	1,892	3,010	3,010	3,010	1,118	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	5年間の指定管理基本協定が満了。 令和5年度に指定管理者を(株)未来奥津から(株)夢アグリ鏡野に変更。 予定どおりの生産ができています。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	商工振興経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04310	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	24 商工業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	鏡野町商工会の通常総会において永年勤続優良従業員表彰を行う場合の鏡野町長表彰記念品代金。 1名あたり15,000円を限度とし総額83,000円を上限とする。 通常執行残については、コピー代金等に使用する。	平成15年度より町と商工会にて協議し決定。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	鏡野町商工会に属する従業員	→	ア	人	見込	330	330	330	330	330
					実績	342	343	337		
イ	鏡野町商工会長賞を既に受賞	→	イ		見込					
					実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	意欲をもって働いてもらう	→	ア	人	目標	330	330	330	330	
					実績	342	343	337		
					達成率	103.6%	103.9%	102.1%		
イ		→	イ		目標					
					実績					
					達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	表彰	→	ア	人	目標	4	4	4	3	3
					実績	2	0	0		
					達成率	50.0%	0.0%	0.0%		0.0%
イ		→	イ		目標					
					実績					
					達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)			
属する施策の対象		属する施策の意図	
ア	町内の商工業事業者	ア	販売、出荷を増やしてもらう
イ	町民	イ	法人住民税を多く納めてもらう
ウ		ウ	町内で便利に買い物をしてもらう
エ		エ	

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01 一般会計		款 07 商工費		項 01 商工費		目 02 商工振興費		予算上の事業名 商工振興経常管理費					事業番号 04310	
	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	243	238	243	83	83	5	一般財源	217			83	83			
合計	243	238	243	83	83	5	合計(A)	217			83	83	0		
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間	1	1	1	1	1			
							人件費計(千円)(B)	3	3	3	3	3	-0		
	最終予算額		243 千円		予算執行率		0.0%		トータルコスト(A+B)		220	3	3	86	86

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	商工会鏡野町長表彰者の該当者がいなかったため、事業費の支出がなかった。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	町商工会補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04315	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	24	商工業の振興	根拠法令等	鏡野町補助金交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	商工会事業補助金として助成する。 ①補助金等交付申請書の受理 ②補助金等交付決定通知 ③補助金の確定 ④補助金の支払 ⑤実績報告書の検査	商工会は、地域活性化を担う地域経済団体であり、地域になくはならない。国・県・町の施策や事業を最大限に活用した支援に努め、商工会員及び事業所の相談役になり基盤強化を継承する。また、地域振興策においても関係諸団体との連携を図りながら地域経済団体として役割を果たしている。そのため、町より補助金として助成する。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町商工会(団体)	ア 鏡野町商工会	団体	見込	1	1	1	1	1
イ	イ		実績	1	1	1		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 活性化し安定した団体運営を行う	ア 鏡野町商工会加入事業者数	組織	目標	330	330	330	330	330
イ	イ		実績	342	343	337		
			達成率	103.6%	103.9%	102.1%		102.1%
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の支払(概算・精算)事務	ア 補助金の支払回数	回	目標	3	3	3	3	3
イ	イ		実績	3	4	3		
			達成率	100.0%	133.3%	100.0%		100.0%
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の商工業事業者	ア 販売、出荷を増やしてもらう
イ 町民	イ 法人住民税を多く納めてもらう
ウ	ウ 町内で便利に買い物をしてもらう
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 02		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費		町商工会補助金					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	10,988	11,000	11,000	11,000		一般財源	10,987	11,000	10,500	11,000	11,000	-500		
合計	10,988	11,000	11,000	11,000		合計(A)	10,987	11,000	10,500	11,000	11,000	-500		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間						10	10	10	10	10			
	人件費計(千円)(B)						34	34	33	33	33	-0		
	最終予算額	11,000 千円	予算執行率	95.4%	トータルコスト(A+B)		11,021	11,034	10,533	11,033	11,033	-500		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	鏡野町商工会会員は微減したが、新規加入者は14名あり、一定の成果は出ている。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	中小企業特別対策事業補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04335	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	24 商工業の振興	根拠法令等	鏡野町中小企業特別対策資金保証料補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	信用保証協会、金融機関による補助金等交付申請書の受理→補助金等交付決定通知→請求の受理→補助金の支払	旧鏡野町、奥津町にて平成14年度岡山県制度要綱の制定に伴い町内商工業者の要望を受け要綱制定。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町内の中小企業者	ア 鏡野町商工会会員数	人	見込	330	330	330	330	330
イ	イ		実績	342	343	337		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 経営を安定させる	ア 融資利用で経営が安定した件数	件	目標	15	15	15	15	15
イ	イ		実績	2	1	0		
			達成率	13.3%	6.7%	0.0%		0.0%
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 金融機関への補助金の支払	ア 補助金支払件数(融資利用企業数)	件	目標	15	15	15	15	15
イ 融資制度利用促進	イ		実績	2	1	0		
			達成率	13.3%	6.7%	0.0%		0.0%
			目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の商工業事業者	ア 販売、出荷を増やしてもらう
イ 町民	イ 法人住民税を多く納めてもらう
ウ	ウ 町内で便利に買い物をしてもらう
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 02		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費		中小企業特別対策事業補助金						
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財									
一般財源	200	200	50	200	200	-150	一般財源	3	1		20	20	-1		
合計	200	200	50	200	200	-150	合計(A)	3	1		20	20	-1		
財源名称	従事正職員人数							1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間							10	10	10	10	10			
	人件費計(千円)(B)							34	34	33	33	33	-0		
	最終予算額		50 千円		予算執行率		0.0%		トータルコスト(A+B)		37	35	33	53	53

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	現制度を利用しての融資件数は減少しているが、コロナ禍での別制度があったための減少であり、今後も必要な制度である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	工業設備資金利子補給事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04339	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	24 商工業の振興	根拠法令等	鏡野町工業設備資金利子補給制度要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	【認定】中小企業者からの申請により制度要綱と紹介し、その利用が適格であると判断された場合その中小企業者の認定を行う。 【補助金支払】導入設備を確認後、申請年ごとの対象利子を年末に補填、補助を行う。	平成18年に町内中小企業者の要望を受け、町内工業技術の向上と新しい産業の育成及び振興に寄与することを目的として開始された。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内中小工業事業所	ア 町内中小工業事業所	社	見込	24	24	24	24	24
イ	イ		実績	24	24	21		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 経営を安定させる	ア 利用者数(経営安定者)	社	目標	3	3	10	10	10
イ	イ		実績	9	13	12		
			達成率	300.0%	433.3%	120.0%		120.0%
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 利子補給(実績)	ア 支払件数(制度利用企業数)	件	目標	3	3	10	10	10
イ	イ		実績	9	13	12		
			達成率	300.0%	433.3%	120.0%		120.0%
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の商工業事業者	ア 販売、出荷を増やしてもらう
イ 町民	イ 法人住民税を多く納めてもらう
ウ	ウ 町内で便利に買い物をしてもらう
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 02		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費		工業設備資金利子補給事業						
								08	01						
3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比			
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込	(千円)	実績	実績	実績	見込	見込				
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財									
一般財源	1,507	1,778	3,088	2,663	2,663	1,310	一般財源	1,507	1,776	3,087	2,663	2,663	1,311		
合計	1,507	1,778	3,088	2,663	2,663	1,310	合計(A)	1,507	1,776	3,087	2,663	2,663	1,311		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						10	15	15	15	15				
	人件費計(千円)(B)						34	50	50	50	50	-0			
	最終予算額		3,088 千円		予算執行率		99.9%		トータルコスト(A+B)		1,541	1,826	3,137	2,713	2,713

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	中小工業事業者が工業設備を導入するに当たり利用することができる制度であり、今後も必要な制度である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	住宅リフォーム事業補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04344	政策名	4	係名	商工係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	45	根拠法令等	鏡野町住宅リフォーム事業補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	町内の建築業者により、既存住宅本体の維持又は機能の向上を目的とする改築や、改修を行った場合の経費の一部を補助することにより、町民の住環境の改善の推進はもとより、地域経済の活性化を図り、中小企業者の振興に資することを目的とする。 町内の施工業者が行う20万円以上の改修工事に対し、補助率を補助対象経費の20%とし、限度額を20万円までとする。鏡野町産木材を使用した場合、材積に応じて最大10万円を加算する。	以前から岡山県建設労働組合苫田西支部より、建築業者、中小零細業者の経済環境の底上げに住宅改修補助金制度を町が導入するよう要望がなされており、平成26年、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定され、地方消費喚起・生活支援型交付金が導入のきっかけとなり、平成27年度から開始。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 既存住宅を所有している者	ア 住宅数(世帯数を参照)	件	見込	5,600	5,600	5,600	5,600	5,600
			実績	5,580	5,577	5,519		
イ 町内建築業者	イ 建設労働組合員数	人	見込	74	68	68	68	68
			実績	74	68	67		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内業者による施工の推進	ア 申請戸数	件	目標	30	30	30	30	30
			実績	51	58	68		
			達成率	170.0%	193.3%	226.7%		226.7%
イ	イ 施工業者数		目標	16	17	18	18	18
			実績	16	19	20		
			達成率	100.0%	111.8%	111.1%		111.1%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金交付	ア 啓発(広報紙、町ホームページ)	件	目標	2	2	2	2	2
			実績	2	1	1		
			達成率	100.0%	50.0%	50.0%		50.0%
イ	イ 補助金交付金額	円	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
			実績	8,324	10,432	12,225		
			達成率	138.7%	173.9%	203.8%		203.8%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町民	ア 住み続けてもらう
イ 町外の住民	イ 転入してもらう
ウ	ウ 雇用の場を創出する
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 02		大 12	中 01	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費				住宅リフォーム事業補助金					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	11,000	11,000	13,000	8,000	8,000	2,000	一般財源	8,324	10,432	12,225	8,000	8,000	1,793			
合計	11,000	11,000	13,000	8,000	8,000	2,000	合計(A)	8,324	10,432	12,225	8,000	8,000	1,793			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						120	120	120	120	120	120				
	人件費計(千円)(B)						411	403	400	400	400	400	-3			
最終予算額	13,000 千円		予算執行率	94.0%		トータルコスト(A+B)	8,735	10,835	12,625	8,400	8,400	1,790				

1枚目

事業番号	04344	事務事業名	住宅リフォーム事業補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
利用者数は年々増加しており、毎年補正予算で対応している。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
町産材使用による補助金の加算を実施。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
助成率の引き上げと助成限度額の引き上げにより制度拡充を行ってほしい。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	施策・政策によりみたま、 「町内事業者のみ」の要件を撤廃したほうが申請件数は増加するとみられる。従来通り要件を「町内事業者のみ」とする場合は現在の施策・政策に商工業の振興を加えることも検討できる。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	本事業は町民の生活環境が改善・向上し定住化促進につながると考えられるため、町が税金を投入して実施することは妥当。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	本町に住民登録若しくは外国人登録を有する方を補助対象としていることから適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	年々住宅リフォーム事業補助金の申請件数が増加していることから目標水準に達していると考ええる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	本事業を申請してリフォームを実施している件数が増加していることからリフォームを検討するにおいて重要な事業となっている。
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	申請に関する事務手続きのみであり、職員1名で行っているため、改善余地はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	申請件数の増加、また助成率・助成限度額引き上げの要望が出ている状況により削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方を見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	申請に関する事務手続きのみであり、職員1名で行っているため、改善余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町民が申請の対象であることから公平である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	年々申請件数は増加しており、本事業の必要性は大いにある。年度に1回の申請ということから、毎年度同一の方の申請が行われるケースもみられることから一部要綱の見直しを検討する必要がある。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 要綱上の要件の見直しの検討	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
財源の確保		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	起業者支援事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04345	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	24 商工業の振興	根拠法令等	鏡野町起業支援事業補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	鏡野町産業の振興及び地域経済の活性化を図るため新規創業者に対し予算の範囲内で経費の一部を助成する。新規創業相談会の開催。 ①補助金等交付申請書の受理 ②補助金等交付決定通知 ③補助金の確定 ④補助金の支払 ⑤実績報告書の検査	鏡野町創業支援事業計画に基づき、地域経済の活性化を図るべく認定連携創業支援事業者である鏡野町商工会、日本政策金融公庫等と連携し、創業支援を推進すべく補助金創設を行った。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 新規創業を検討している者	ア 新規創業相談件数	者(社)	見込	30	30	30	30	30
			実績	36	36	27		
イ	イ		見込					
			実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内で多くの方に創業してもらう	ア 新規創業者数	者(社)	目標	8	8	8	8	8
			実績	9	9	4		
			達成率	112.5%	112.5%	50.0%		50.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 事業のPR	ア 啓発(広報、HP、雑誌掲載)		目標	3	3	5	5	5
			実績	3	4	4		
			達成率	100.0%	133.3%	80.0%		80.0%
イ 補助金の支払	イ 交付金額	千円	目標	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
			実績	8,277	8,088	2,849		
			達成率	103.5%	101.1%	35.6%		35.6%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の商工業事業者	ア 販売、出荷を増やしてもらう
イ 町民	イ 法人住民税を多く納めてもらう
ウ	ウ 町内で便利に買い物をしてもらう
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 02		大 13	中 01	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費				起業者支援事業					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	04345			
国庫支出金	6,443				-6,443	国庫支出金		6,443				-6,443				
県支出金						県支出金										
町債						町債										
その他特財						その他特財										
一般財源	14,130	3,687	3,630	4,130	4,130	-57	一般財源	8,385	1,750	2,974	4,130	4,130	1,224			
合計	14,130	10,130	3,630	4,130	4,130	-6,500	合計(A)	8,385	8,193	2,974	4,130	4,130	-5,219			
財源名称					従事正職員人数		1	1	1	1	1					
					延べ業務事務時間		10	10	10	10	10					
					人件費計(千円)(B)		34	34	33	33	33	-0				
最終予算額	3,630 千円	予算執行率	81.9%	トータルコスト(A+B)		8,419	8,227	3,007	4,163	4,163	-5,219					

1枚目

事業番号	04345	事務事業名	起業支援事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
昨年度創業した方については例年と比較して少なかったが、創業を検討する方は多くみられた。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
鏡野町創業支援事業計画に基づき、相談窓口(鏡野町商工会)を設置し個別相談等を実施してきた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
鏡野町商工会を通じて町内での創業にあたる補助制度要望を聞いていた。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 理由説明 鏡野町創業支援事業計画に基づいて制度が行われていることより結びついている
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 理由説明 創業にあたっての経費は多くがかなりの金額になることから、町内での創業を促進するために補助金により町が関与することは妥当である	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である 理由説明 鏡野町内にて新規に創業するものに対する助成になるため、対象は妥当である	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している 理由説明 制度説明会・個別相談会実施により参加者からの制度利用相談件数増加、また制度導入後に廃業した事業者はないことから一定の成果は出ている
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある 理由説明 制度を利用して起業・創業支援を行う方が毎年一定数いることから廃止することより影響がある	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない 理由説明 補助金交付を手段としており改善余地は見当たらない	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 創業時にかかる経費はかなりの額になることから、その部分に対する補助金を扱うことで町内での創業の推進となるため削減余地はない。制度導入後5年以上経過していることより今後検討の余地はある。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 補助金支払事務と個別相談会開催業務のみであるため削減余地はない	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由説明 広報誌、町ホームページ、チラシでの周知であるため公正・公平である

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	鏡野町創業支援事業計画に基づき実施されている当事業について創業支援説明会、個別相談会を行い相談件数も多く制度について説明する場面をしっかりと用意することができた。申請件数については減少となっているが、令和5年度中に創業で計画していたものが次年度に持ち越しとなったケースが数件あったことに起因している。																						
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 相談があった際や窓口・電話にて問い合わせがあった際に、それ以降で迅速に把握や対応ができるようにより一層鏡野町商工会との情報共有を綿密に行う。																						
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
動画配信業などの最先端の業種での創業が相談に上がってきていることから、制度が対応できるよう鏡野町商工会と協議も行いながら改正も検討することが必要である。																							

事業番号	事務事業名	小規模事業者経営改善資金利子補給事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04346	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	24 商工業の振興	根拠法令等	鏡野町小規模事業者経営改善資金利子補給補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	経済環境の変化に対して町内中小企業者を支援し、もって本町商工業の活性化を図るため、株式会社日本政策金融公庫(以下「公庫」という。)の小規模事業者経営改善資金(以下「マル経融資」という。)の融資を受けた者に対し、予算の範囲内でその利子の一部を補助する。交付申請 → 審査 → 補助金の支払	平成27年度、中小企業者の代表である鏡野町商工会、日本政策金融公庫からの要望、趣旨説明を受け鏡野町においても制度施行することに決定。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町中小企業者数	ア 鏡野町商工会会員数	人	見込	330	330	330	330	330
イ	イ		実績	342	343	337		
			見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 経営を安定させる	ア 鏡野町商工会会員数	件	目標	330	330	330	330	330
イ	イ		実績	330	343	337		
			達成率	100.0%	103.9%	102.1%		102.1%
			目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 融資申請件数(補助金申請件数)	ア 補助金申請件数	件	目標	45	45	45	45	45
イ	イ		実績	36	34	38		
			達成率	80.0%	75.6%	84.4%		84.4%
			目標					
			実績					
			達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の商工業事業者	ア 販売、出荷を増やしてもらう
イ 町民	イ 法人住民税を多く納めてもらう
ウ	ウ 町内で便利に買い物をしてもらう
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 02		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費		小規模事業者経営改善資金利子補給事業						
								14	01						04346
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	2,400	2,000	1,500	1,500	1,500	-500	一般財源	1,452	983	1,193	1,500	1,500	210		
合計	2,400	2,000	1,500	1,500	1,500	-500	合計(A)	1,452	983	1,193	1,500	1,500	210		
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間	20	20	20	20	20			
							人件費計(千円)(B)	68	67	67	67	67	-1		
	最終予算額	1,500 千円	予算執行率			79.5%	トータルコスト(A+B)	1,520	1,050	1,260	1,567	1,567	209		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	本制度の新規申請が増加していることから今後も必要な制度である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	鏡野町特別利子補給事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04347	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	森腰 怜佳
	施策名	24 商工業の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大で売上高の急減により借入れを行った事業者に対して、利子補給することで事業活動の継続を図る。借入れ開始から4年目以降10年以内を補助の対象とし、令和5年度から補助金の支払いを開始する。	令和2年度に新型コロナウイルス感染症経済対策の一環として制定した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の商工業事業者	ア 町内の商工業事業者数(鏡野町商工会会員数)	者(社)	見込 実績			343 337	337	337
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 経営を安定させる	ア 申請者数	者(社)	目標 実績 達成率			145 115 79.3%	144	144
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の支払い	ア 補助金の支払い件数	件	目標 実績 達成率			145 115 79.3%	144	144
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 町内の商工業事業者	ア 販売、出荷を増やしてもらう
イ 町民	イ 法人住民税を多く納めてもらう
ウ	ウ 町内で便利に買い物をしてもらう
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		01 款 07		01 項		02 目		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		商工振興費		鏡野町特別利子補給事業					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			7,101	15,903	12,971	7,101	一般財源			6,558	15,903	12,971	6,558	
合計			7,101	15,903	12,971	7,101	合計(A)			6,558	15,903	12,971	6,558	
財源名称							従事正職員人数			1	1	1	1	
							延べ業務事務時間			30	30	30	30	
							人件費計(千円)(B)			100	100	100	100	
	最終予算額	7,101 千円		予算執行率	92.3%		トータルコスト(A+B)			6,658	16,003	13,071	6,658	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	令和2年度の要綱制定から事業実施まで3年間期間があったため、事業者に対し周知を徹底する必要がある。また、完済や返済条件等の変更が生じている事例があり、事業者及び関係機関との密な連携が必要である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	観光経営管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04350	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	鏡野町観光全般に係る事務的経常経費 (観光宣伝等出張旅費・需用費・委託料・各種協議会等負担金)	観光行政の基本であり、町が観光行政を担っている限り必要な経費である。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 都市部観光客	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの人に来てもらう	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 宿泊者数	千人	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	21 24 114.3%	22 17 77.3%	23	24 70.8%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 観光パンフレットの配布	ア パンフレットラック・広告契約件数	件	目標 実績 達成率	5 5 100.0%	5 5 100.0%	5 5 100.0%	5	5 100.0%
イ マスコットキャラクターを活用したPR	イ 鏡野町公式マスコットキャラクターみずりん、おゆりん着ぐるみの活用	回	目標 実績 達成率	15 5 33.3%	15 4 26.7%	15 5 33.3%	15	15 33.3%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		観光費		観光経営管理費						
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財	2,082					-2,082			
一般財源	10,015	9,478	6,857	6,115	6,115	-2,621	一般財源	9,177	7,094	5,238	6,115	6,115	-1,856		
合計	10,015	9,478	6,857	6,115	6,115	-2,621	合計(A)	9,177	9,176	5,238	6,115	6,115	-3,938		
財源名称	従事正職員人数						3	3	3	3	3				
	延べ業務事務時間						100	100	100	100	100				
	人件費計(千円)(B)						342	336	334	334	334	-3			
	最終予算額		6,857 千円		予算執行率		76.3%		トータルコスト(A+B)		9,519	9,512	5,572	6,449	6,449

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	観光看板の維持管理や町外への観光パンフレットの設置などを行う他、各種協議会等への負担金を支払っている。負担金については費用対効果により検討の必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	観光臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04351	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	小谷 英
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (3 年度~ 5 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	岡山デスティネーションキャンペーン(DC)事業の実施(7月~3月) ・受入対策事業(モニターツアー)の受け入れ ・DC素材の企画・造成 ・DC素材の広報・宣伝 高清水トレイル駐車場連絡便「送迎タクシー」の実施等	JR、岡山県、地元自治体や観光事業者等が連携した大型観光キャンペーン「岡山デスティネーションキャンペーン」事業の実施。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 都市部観光客	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの人に来てもらう	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 宿泊者数	千人	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	21 24 114.3%	22 17 77.3%	23	24 70.8%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 県外プロモーション	ア 大都市圏観光プレゼンテーション・商談会への参加	回	目標 実績 達成率	3 1 33.3%	3 1 33.3%	3 1 33.3%	3	3 33.3%
イ 観光キャンペーン事業の実施	イ 観光キャンペーン独自事業の実施	件	目標 実績 達成率	1 2 200.0%	1 3 300.0%	1 2 200.0%	1	1 200.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		07 款		01 項		03 目		01 02 予算上の事業名					04351 事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		観光臨時管理費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金			502			502	
町債							町債							
その他特財							その他特財			75			75	
一般財源	1,537	3,630	12,099	12,741	3,700	8,469	一般財源	1,105	2,565	9,179	12,741	3,700	6,614	
合計	1,537	3,630	12,099	12,741	3,700	8,469	合計(A)	1,105	2,565	9,756	12,741	3,700	7,191	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	2	1		
							延べ業務事務時間	128	208	200	400	200	-8	
							人件費計(千円)(B)	438	699	667	1,334	667	-32	
	最終予算額	12,099 千円	予算執行率	80.6%	トータルコスト(A+B)		1,543	3,264	10,423	14,075	4,367	7,159		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	岡山DC事業では、奥津湖でに自然アクティビティ体験イベントを行ったが、8月の台風7号の影響により、日程変更などを行ったため、予定どおりの集客が出来なかった。高清水トレイル駐車場連絡便「送迎タクシー」も台風7号の被災により利用者が減少した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	見直し余地がある	

事業番号	事務事業名	インバウンド推進費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04353	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	小谷 英
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・外国人観光客に向けた情報発信の強化 ・案内看板等の多言語化(主要箇所)	インバウンドに対応した観光経常管理費であり、町が観光行政を担っている限り必要な経費である。外国人旅行者の受入環境の更なる充実による滞在型観光の推進を図る。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 観光客	ア 外国人観光客入込客数	千人	見込 実績	200 0	500 0	1,000 800	1,000	1,000
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの人に来町してもらう	ア 外国人観光客入込客数	千人	目標 実績 達成率	200 0 0.0%	500 0 0.0%	1,000 800 80.0%	1,000	1,000
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 外国人向け観光パンフレットによる情報発信	ア かがみのトリップ外国語版の作成・印刷	回	目標 実績 達成率	1 0 0.0%	0 0 -	1 0 0.0%	1	1
イ 外国人向け観光ウェブコンテンツの作成による情報発信	イ かがみの旅とくらし(英語・中国語サイト)へのコンテンツ整備	回	目標 実績 達成率	2 0 0.0%	0 0 -	2 1 50.0%	2	2

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		インバウンド推進費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	1,000	725	340		-385	一般財源	550	484	340			-144		
合計	1,000	725	340		-385	合計(A)	550	484	340			-144		
財源名称						従事正職員人数	1	1	1					
						延べ業務事務時間	60	40	40					
						人件費計(千円)(B)	205	134	133			-1		
	最終予算額		340 千円	予算執行率		100.0%	トータルコスト(A+B)	755	618	473			-145	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	台湾等、中国語圏に向けた広告や自然アクティビティ英語版コンテンツページの作成を行ったが、今後は観光局が観光地域づくり法人(DMO)の役割として、受入環境づくりと効率的かつ効果的なコンテンツ造成等に取り組んでいく必要がある
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	大納涼祭事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04361	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	①花火協賛実行委員会の設立(協賛金活動)／商工会・農協・森林組合他 ②イベント委託、警備委託先を選定、契約、実施、撤去 ③チラシ作成～新聞折込 ④警察・消防・出店関係者との協議 ⑤会場準備、実施計画の検討、実施	平成17年4町村の合併を機に新生鏡野町をPRするイベントとして開始した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標									
ア	町民及び町内外者	→	ア	鏡野町人口	人	見込	12,143	12,143	11,627	11,455	11,280
						実績	12,497	12,358	12,116		
イ		→	イ	県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
						実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)									
ア	イベントを通じて鏡野町に来てもらう	→	ア	大納涼祭来場者数	人	目標		0	43,000	43,000	43,000
						実績		0	45,000		
						達成率		-	104.7%		104.7%
イ	多くの人に鏡野町を知ってもらう	→	イ	観光入込客数	千人	目標	800	825	850	875	900
						実績	790	948	828		
						達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標									
ア	イベント実行委員会	→	ア	実行委員会の開催	回	目標		0	3	3	3
						実績		0	3		
						達成率		-	100.0%		100.0%
イ	イベント内容の充実	→	イ	出展者数	件	目標		0	15	15	15
						実績		0	19		
						達成率		-	126.7%		126.7%
ウ	花火協賛社の勧誘	→	ウ	協賛事業者数	件	目標		0	250	250	250
						実績		0	273		
						達成率		-	109.2%		109.2%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業		中事業		予算上の事業名		事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		03		02		大納涼祭事業費		
予算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源		83	16,351		17,000	16,268	一般財源		14	16,349		17,000	16,335		
合計		83	16,351		17,000	16,268	合計(A)		14	16,349		17,000	16,335		
財源名称							従事正職員人数			1		1	1		
							延べ業務事務時間			80		80	80		
							人件費計(千円)(B)			267		267	267		
	最終予算額		16,351千円	予算執行率	99.9%	トータルコスト(A+B)			14	16,616		17,267	16,602		

事業番号	04361	事務事業名	大納涼祭事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	---------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
令和4年度まで開催中止となっていたが令和5年度に4年ぶりの開催となった。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
奥津湖を活かした体験アトラクションの充実や花火の独自性の確立、渋滞緩和を旨とした交通計画の整備。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
4年ぶりの開催となり、町内外の方から待ち望んでいた声を受け、また記者等からも取材が多くあった。想定以上の集客であったことから帰りの渋滞について苦情があった。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	地元消防団や花火協賛など町民に協力をいただき開催を行っているため、町民への浸透率も高く鏡野町の観光振興となっていることから政策体系と結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	花火協賛実行委員会は民間が主となり、事業実施に対し主体性をもって活動が行えており、町については開催に伴う最低限の関係機関への調整や委託などを実施している。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	4年ぶりの開催で過去最大の誘客となったが宿泊などを含む観光施設への波及はできていないが、町内の事業者が祭り当日の出店をして多くの集客がある。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	納涼祭と花火の打上のみではなく奥津湖を舞台として体験アクティビティを実施することや新しく町内への誘客につながる取り組みを実施していくことが必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	中止・廃止をすることで45,000人の観光入込が無くなってしまい他の町内施設や観光スポットに立ち寄る機会を失ってしまう。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	4年前の開催とは異なる実施形態を模索し、アトラクションや出店に関する新しい取り組みの導入をすることからより多くの誘客を図ることができるため改善余地がある。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	物価高騰により今後よりイベント業務や警備業務にかかる委託費は増加していくことが想定され、削減できるところについては削減して現在の状況であるため、削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	他課や花火協賛実行委員会の協力を大いに受けて実施を行っているため削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	鏡野町民に近隣市町村と来場を広く伝えていることから受益機会については適正。	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	4年ぶりの開催であったが、広報掲載やプレス発表を実施し想定以上の誘客となった。また、実施するにあたりキッチンカーの導入や喫煙所ブースの作成など前回開催時にはなかった新しい取り組みを実行することができた。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 事業費を抑えるよう各事業について精査をしながら実施を目指す。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
昨今の情勢により今後より物価高騰や警備やイベント業務、バス等の費用が増加する見込みのため、今一度費用について見直す必要がある。																									

事業番号	事務事業名	山村都市交流事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04365	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	町外からの鏡野町来客数の上位を占める岡山市、倉敷市、及び大阪府、兵庫県内を中心とした県外における単町や県等他団体、北おおさか信用金庫と連携した観光物産展の開催等を通じて、鏡野町の魅力をPRする。	旧町村単位で行っていた都市部との交流事業を合併後統合し、町としてのPR戦略の元、大阪府内摂津水都信用金庫(現北おおさか信用金庫)での物産展や茨木市にある鏡野町アンテナショップでのPRイベント等を実施してきた。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 都市部観光客	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ 都市部観光客	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町内への観光客数の増加	ア 近畿地方からの観光客数(県全体)	千人	目標 実績 達成率	2,800 2,069 73.9%	3,200 2,076 64.9%	3,200 2,414 75.4%	3,200	3,200
イ 多くの人に鏡野町を知ってもらう	イ 観光客入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 物産展への参加	ア 物産展参加回数	回	目標 実績 達成率	5 4 80.0%	10 9 90.0%	8 7 87.5%	8	8
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		03	06	山村都市交流事業費					04365
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	1,302	1,011	451	746	746	-560	一般財源	1,247	672	448	746	746	-224			
合計	1,302	1,011	451	746	746	-560	合計(A)	1,247	672	448	746	746	-224			
財源名称			従事正職員人数					1	1	1	1	1				
			延べ業務事務時間					60	60	30	30	30	-30			
			人件費計(千円)(B)					205	202	100	100	100	-102			
	最終予算額		451 千円	予算執行率		99.3%	トータルコスト(A+B)		1,452	874	548	846	846	-326		

1枚目

事業番号	04365	事務事業名	山村都市交流事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
コロナ禍が過ぎ、イベントを4年度から再開し、令和5年度より鏡野観光局に業務を委託することとし、主体的に活動することになった。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
越畑ふるさと村、アンテナショップ、物産展における北おおさか信用金庫と、そこに係る鏡野観光局との調整。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
関西圏におけるイベント会場からは各イベントの開催を望む声を多数聞く。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	都市部に対する対外的な観光PRを実施し、鏡野町への誘客を図るため政策体系に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	関西圏でのPRブース開催において鏡野町が北おおさか信用金庫と調整することは以前より必要であるため、町が等事業に関与することは妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	当該事業では関西圏や県南部の方をターゲットに置き、誘客に注力していることから対象・意図は適切である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	鏡野町で実施している観光PRをより広く域外の方に伝えることができるよう鏡野観光局と協議を行い、町への誘客に繋げる必要があることから、成果の向上余地はまだであると判断。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	町外に対する鏡野町のPR活動の場が失われてしまうため、廃止・休止を行うことは大いに影響がある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	以前より行ってきた観光PRのほか、鏡野観光局による新規のプロモーションを行うことで成果を向上させることができると考える。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	物品やそれに伴う経費の見直しを行うことで削減の余地はある。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	鏡野観光局が実施主体となる転換期であり、移行に伴い人件費が発生している状況ではあるが、今後移行となった場合に人件費に削減余地はある。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	町外でのより良い集客を勧誘しながらの実施をしていることから受益機械は公平である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	コロナ禍が過ぎ、対外的なPRを鏡野観光局と共同で再開させ、物産展やアンテナショップ等を完遂させることができた。今後鏡野町としては鏡野観光局を主体とし、町は必要最低限のサポートをもって実施を行っていくことが必要。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 観光PRイベントを対外的に実施していくにあたり、そのほか鏡野町で行われている魅力的なイベントの周知を併せて行い、町内誘客を目指していく。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
対外的な観光PRイベントを実施するが一過性になってしまうことを避けるため、鏡野観光局による連携したプロモーションを行っていくことが必要。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	越畑紅葉祭事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04370	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	5年ぶりに名称を越畑ミニもみじまつりに変更し開催 実施主体が 香北地区地域づくり協議会 産業観光課がサポートするかたちへ変更 実施時期 11月3日及び11月町の土日 ①企画立案②出展依頼③チラシ作成④前日までに会場準備等は実施主体 ⑤3日のみ役場職員参加⑥期間中は仮設トイレを設置	昭和54年に、越畑ふるさと村のPRと地域の活性化を図る目的で開始された事業である。(平成30年度で第40回)

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民及び県内外者	ア 鏡野町人口	人	見込	12,143	12,143	11,627	11,455	11,280
			実績	12,497	12,358	12,116		
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 越畑紅葉祭を通じて鏡野町に来てもらう	ア 越畑ミニもみじまつり来場者数	人	目標		2,200	2,200	2,200	2,200
			実績		2,500	2,000		
			達成率		113.6%	90.9%		90.9%
イ 多くの人に鏡野町を知ってもらう	イ 観光入込客数	千人	目標	800	825	850	875	900
			実績	790	948	828		
			達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 越畑ミニもみじ祭り	ア 開催日数	日	目標		5	5	5	5
			実績		7	5		
			達成率		140.0%	100.0%		100.0%
イ	イ 出店社数	店	目標		1	1	1	1
			実績		4	1		
			達成率		400.0%	100.0%		100.0%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業 中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		03	11	越畑紅葉祭事業費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	前年比			
国庫支出金						国庫支出金										
県支出金						県支出金										
町債						町債										
その他特財						その他特財										
一般財源	503	219	320	320	-284	一般財源	330	218	320	320	-112					
合計	503	219	320	320	-284	合計(A)	330	218	320	320	-112					
財源名称	従事正職員人数							2	2	2	2					
	延べ業務事務時間							20	20	20	20					
	人件費計(千円)(B)							67	67	67	67	-1				
	最終予算額	219 千円	予算執行率	99.5%	トータルコスト(A+B)			397	285	387	387	-113				

1枚目

事業番号	04370	事務事業名	越畑紅葉祭事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
香北地区地域づくり協議会が主催として昨年に続き開催。産業観光課としては祭りが開催できるようサポートをするかたちで関わる。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
30年までは越畑地区と鏡野町が主催であったが高齢化により主催を香北地区地域づくり協議会へ変更。期間についても第1第2土日に変更
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
会場となる越畑ふるさと村一帯は30年以上観光資源として地元を中心に整備が続けられたところであることから昨年度に続き開催を楽しみにする声はあった。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 観光地として対外的なPR効果があり、また地域の活性化が図れる。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 当事業は旧鏡野町時代から続く事業であり、上記の政策体系の観点からも評価できる事業である。昨年度より香北地区地域づくり協議会が中心に実施し町はサポートする体系であるため関与することは妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 香北越畑地区という観光資源のPRや集客等より適切と考えられる。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 第1第2の土日に期間を設定、仮設トイレを設置することより受入環境を整えていることより向上の余地なし。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 廃止・休止をすることにより越畑地区の衰退が加速する可能性がある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 行政は主催の香北地区地域づくり協議会の開催におけるサポートで仮設トイレの設置等受入体制の協力を最低限の事業費で行うことができている。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 事業費を考慮したうえで可能な部分については香北地区地域づくり協議会にお願いをしているため削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 事務として最低限の人数で行っていることから削減の余地なし。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 最低限の協力にて行っていることから適切である。	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	昨年度開催から変更しイベント当日と第1第2土日に期間を設定し実施。行政は仮設トイレと机等の備品の設置を実施し開催をすることができ越畑地区への観光客の動員を遂行することができた。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 昨年度、今年度に続き今後も主催を香北地区地域づくり協議会とし、行政として最低限の協力を行って協力して実施していきたい。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
今後も主催の香北地区地域づくり協議会と鏡野町が協力をして実施をしていく必要がある。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	奥津紅葉祭開催事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04371	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町補助金等交付規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	年間を通じて最大の集客時期である紅葉の時期に合わせ、奥津地域の風土、自然、物産、伝統等隠れた良さを観光客にアピールするとともに、観光客の誘致によって鏡野町全体の活性化を促進する。 具体的には、紅葉期間中、奥津渓谷一帯でのライトアップを実施するとともに(昼間は交通規制を実施)、オープニングイベントとして「奥津もみじ祭り」を実施している。	オープニングイベントについては、合併以前より旧奥津地域のイベントとして定着実施していたことから、現在も継続している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民及び町内外者	ア 鏡野町人口	人	見込	12,143	12,143	11,627	11,455	11,280
			実績	12,497	12,358	12,116		
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)		見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 紅葉祭来場者数	ア オープニングイベント来場者数	千人	目標	3	3	3	3	3
			実績	0	3	3		
			達成率	0.0%	100.0%	100.0%		100.0%
イ 多くの人に鏡野町を知ってもらおう	イ 観光入込客数	千人	目標	800	825	850	875	900
			実績	790	948	828		
			達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア イベント開催回数	ア オープニングイベント開催数	回	目標	1	1	1	1	1
			実績	0	1	1		
			達成率	0.0%	100.0%	100.0%		100.0%
イ イベント出店者数	イ オープニングイベント出店者数	店	目標		8	8	10	10
			実績	0	9	14		
			達成率		112.5%	175.0%		140.0%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大 03		中 12		予算上の事業名			事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		03		12		奥津紅葉祭開催事業費			
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財	3,666								
一般財源	4,990	5,491	5,804	5,862	5,862	313	一般財源	829	5,398	5,803	5,862	5,862	405			
合計	4,990	5,491	5,804	5,862	5,862	313	合計(A)	4,495	5,398	5,803	5,862	5,862	405			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	50	100	100	100	100				
							人件費計(千円)(B)	171	336	334	334	334	-3			
最終予算額		5,804 千円		予算執行率		99.9%		トータルコスト(A+B)		4,666	5,734	6,137	6,196	6,196	402	

1枚目

事業番号	04371	事務事業名	奥津紅葉祭開催事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
新型コロナウイルスが5類に移行し規制がなくなったことから、観光客数はほぼ以前の状態まで回復してきた。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
2012年(平成24年)度より「奥津温泉もみじ祭り」「奥津もみじ祭り」を統合し、奥津振興センターでオープニングイベントとしての位置づけとして開催している。全体を通して鏡野観光局が主体となり運営を行っているが、振興センターを会場にするため事務の軽減には繋がっていない。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
鏡野町のPRでもあり盛大に開催してほしいといった意見がある一方で、オープニングイベント参加者の大半が地元住民であり、他地域からの観光客招致にはあまり関係していないという声もある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 奥津溪の紅葉については、宣伝をしなくても秋の紅葉シーズンはかなりの来客がある。ただ、オープニングイベントについては、町外者の来場状況を見ると、来客効果に役立っているとは思えず、オープニングイベントと紅葉に対する対応は切り離して考えた方がよい。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 多くの観光客が訪れることでの地元経済効果からすれば、奥津溪のライトアップや、交通渋滞による混乱を避けるためのガードマン配置等について、町が関与することには妥当性があると考えられるが、オープニングイベントについては、町が関与するのではなく民間主体へと移行すべきである。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 適切である	理由説明 紅葉シーズンについては、既にPRもなく多くの観光客が見込まれる。そうした状況からオープニングイベント等にかかる経費については閑散期に使用するなど、有効な経費支出のあり方について、もう少し考えるべきである。現在まで実施してきたことを開催理由とすることは好ましくない。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 全体を見渡した中での経費配分を考えて行けば、向上余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 オープニングイベントについては廃止しても影響がないと考えるが、紅葉を見に来られる方の状況から、交通規制やガードマンの配置を止めてしまうと、大渋滞等起こりかねない状況であるので、影響がある部分と、ない部分がある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 一般社団法人 鏡野観光局が発足したことから、今後は鏡野観光局の考え方や、補助金支出のあり方などを考察することで、改善余地が出てくるものとする。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 物価高騰により、諸々の経費やガードマンの委託料が増加している状況の中、これらの経費を削減していくことは難しいが、オープニングイベントである「奥津もみじ祭り」を廃止することで、経費削減を図る余地は残されている。場合によっては、ライトアップの廃止も視野に入れるべきと考える。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 鏡野観光局へ事務移管された形になっているが、オープニングイベントを実施するにしても、事務の大半をセンター職員が行っている実情を再度見直すことで、削減余地があるものとする。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 オープニングイベントの実施等を含め、対象が一部地域の住民に偏っている部分もある。紅葉を多くの方に楽しんでいただくことは必要であるが、これについての事業選別は必要ではないかと考える。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり	今後もオープニングイベントを継続して実施していくかどうかを検討・判断していく必要がある。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 特に大掛かりなイベント等実施しなくても、観光集客が見込める時期については、更なる経費投下を行う必要は無いと考える。ただし、住民の安全上の問題にかかわるような事案については速やかに対処していくことが必要である。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	○				低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持	○																							
	低下																								
一般社団法人 鏡野観光局が発足したことから、町として、こうしたイベントも含めた今後の関わり方等について考察する必要がある。その上で、人件費を含めた経費削減を図って行くべきである。																									

事業番号	事務事業名	ひらめ祭実行委員会補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04391	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	新田直樹
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域の特産品である「ひらめ」をPRする夏最後のイベントで、町の五大イベントとして他の特産品とともに鏡野町及び富地域をPRする。 感染症の拡大防止のため、令和2年度から3年間開催していない。	富地域の特産である「ひらめ」の生産を拡大するために、昭和48年から人工養殖を開始し、併せて村外にPRするために、昭和55年から旧富村最大の観光イベントとして開始した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	町民・観光客	→	ア	人	見込	11,970	11,800	11,627	11,455	11,280
					実績	12,497	12,358	12,116		
イ		→	イ	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	12,000
					実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	来場者・協賛団体の増加	→	ア	人	目標	4,000	4,000	4,000	6,000	6,000
					実績	0	0	10,000		
					達成率	0.0%	0.0%	250.0%		166.7%
イ	多くの方に鏡野町を知ってもらおう	→	イ	千人	目標	800	825	850	875	900
					実績	790	948	828		
					達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	ひらめ祭	→	ア	店	目標	15	15	15	15	15
					実績	0	0	15		
					達成率	0.0%	0.0%	100.0%		100.0%
イ	広報活動	→	イ	回	目標	5	0	5	5	5
					実績	0	0	5		
					達成率	0.0%	—	100.0%		100.0%
ウ		→	ウ		目標					
					実績					
					達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業 中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		04	02	ひらめ祭実行委員会補助金					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財	2,100	2,100	2,400	2,400	2,400	300	その他特財									
一般財源		800				-800	一般財源		800	2,400	2,400	2,400	1,600			
合計	2,100	2,900	2,400	2,400	2,400	-500	合計(A)		800	2,400	2,400	2,400	1,600			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	4	4	50	30	30	46			
							人件費計(千円)(B)	14	13	167	100	100	153			
	最終予算額	2,400 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)		14	813	2,567	2,500	2,500	1,753				

事業番号	04391	事務事業名	ひらめ祭実行委員会補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	--------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
4年振りの開催となったが、天候にも恵まれ、多数の来場者があり盛大に開催できた。高齢化の進展に伴い地元からの出店が減少傾向である反面、ひらめの塩焼きやつかみどり等は人気が高く、「ひらめ」というイメージが定着している。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
鏡野観光局への事務事業移管により、事務効率化ならびに職員の事務従事負担を減少させている。イベントでは地域づくり協議会実施の写真コンテスト会場を五葉邸に移して見学者が増加した。公民館実施のみわりコンテストの表彰を行うなど、地域全体でひらめ祭を盛り上げている。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
協賛団体の一部から、参加者の高齢化に伴い祭自体への出店が困難であるとの申し出が寄せられるようになったため、富地域外の団体への出店要請や、職員の配置などを行っている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 理由説明 町の5大イベントである「富ひらめ祭」の開催は、産業・観光振興にも寄与しており、妥当である。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 理由説明 合併前より町内外に認知されていた催しであり、合併後も鏡野町の知名度、イメージアップ及び特産品販売の拡大に寄与している。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である 理由説明 富地域の特産品である「ひらめ」を中心に、富地域ならびに鏡野町をPRする催しであり、地域の特産振興や交流に大きく寄与している。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している 理由説明 体験型のイベント(ひらめのかみどりなど)や、ステージ参加イベントを実施している。引き続き来場者が参加できるイベントを検討する必要があり、向上の余地がある。また、それを周知させるための広報手段の多様化も検討が必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある 理由説明 特産品である「ひらめ」に関わる産業振興を図れなくなるとともに、地域の活性化が失われる。このため、廃止・休止することは地域に大きな影響を及ぼす。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない 理由説明 鏡野観光局への事務移管により、広報周知などについては他イベントと連携した宣伝活動を行っている。その事務について効果的な運営が見込まれる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 資材などについて、物価高騰の影響を受けており、削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない 理由説明 鏡野観光局への事務移管により、事務従事時間が効果的に減少している。祭当日の町職員の従事者を鏡野観光局会員にシフトさせるなどを検討すれば、更なる効率化が見込まれる。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由説明 開催にあたっては町内外にかかわらず広く広報周知を行っており、参加者・来場者すべての人に受益の機会があり、公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	ひらめ祭開催により、ひらめを含めた各種特産品の知名度・販売実績の拡大に寄与している。事務局の移管などにより効率化を図っており、今後もその効果が拡大すると見込まれる。																							
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 事務従事負担は減少しているものの、事前準備・当日運営などの人的負担は減少していないため、担当課及び富関係職員の負担となるところは大きい。富関係職員が減少していく中で今後は人員確保が大きな問題となる。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="2">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)			コスト				削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							
鏡野観光局関係者や出店団体に準備・運営スタッフ要請などを行っているが、十分な数には至っていない。運営方法について検討していく必要がある。また、ひらめ生産者の減少及び高齢化が進んでいる。祭りの名称として掲げ、地域特産品としての「ひらめ」生産者の確保・育成が課題となっている。																								

事業番号	事務事業名	奥津温泉足踏み洗濯保存会補助金			所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04392	政策名	2	地域経済を支える里づくり		係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25	観光の振興		根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	奥津温泉足踏み洗濯保存会に対し、年間100,000円の補助金を支払う。 (保存会の活動:日曜日、祝日を中心とした指定日に、奥津橋下の洗濯場で観光用の足踏み洗濯を実演している。) ①奥津温泉足踏み洗濯保存会に補助金の支払業務。	古くから奥津温泉に伝わる奇習足踏み洗濯をいつまでも保存しながら、奥津温泉の活性化につなげていくため、奥津温泉足踏み洗濯保存会を設立し、活動を続け今日に至っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 奥津温泉足踏み洗濯保存会	ア 実演者数	人	見込 実績	12 8	12 5	12 5	12	12
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 会の保存	ア 実演者数	人	目標 実績 達成率	12 8 66.7%	12 5 41.7%	12 5 41.7%	12	12
イ 奥津温泉観光客数の増加	イ 奥津温泉宿泊者数	人	目標 実績 達成率	8,800 5,509 62.6%	8,800 7,804 88.7%	8,800 5,795 65.9%	8,800	8,800
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金の支払	ア 補助金額	千円	目標 実績 達成率	100 100 100.0%	100 100 100.0%	100 100 100.0%	100	100
イ 実演のPR	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		観光費		奥津温泉足踏み洗濯保存会補助金						
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財									
一般財源	100	100	100	100	100	一般財源	100	100	100	100	100				
合計	100	100	100	100	100	合計(A)	100	100	100	100	100	0			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1						
	延べ業務事務時間						7	5	5						
	人件費計(千円)(B)						24	17	17			-0			
	最終予算額		100 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		124	117	117	100	100

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	人員不足により、保存会の存続が年々厳しくなっている。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	水紋まつり開催事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04400	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	中江 柗人
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	①イベント代表者会議の開催(上齋原振興公社・町) ②イベント企画コンペによる業者を選定~契約 ③チラシ作成~新聞折込④警察・警備・出店関係者との協議 ⑤年度は雪不足により開催中止 ⑥大雪像づくり⑥企画~開催~片付け~会計	平成4年旧上齋原村で企画されたもので、恩原高原スキー場を広く紹介することを目的として冬の祭りを3日間開催した。翌年からは1日のイベントとなった。冬イベントは県下でも少なく、じわじわと人気が出た。平成7年からは、岡山駅に雪像をつくり恩原高原スキー場PRに一役買っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民及び県内外者	ア 鏡野町人口	人	見込	12,143	12,143	11,627	11,455	11,280
			実績	12,497	12,358	12,116		
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 水紋まつりを通じて鏡野町に来てもらう	ア 水紋まつり来場者数	人	目標	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
			実績	0	15,000	0		
			達成率	0.0%	115.4%	0.0%		0.0%
イ	イ		目標					
			実績					
			達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 開催に伴う打合せ会議	ア 会議の開催回数	回	目標	10	10	5	5	5
			実績	3	5	6		
			達成率	30.0%	50.0%	120.0%		120.0%
イ イベント内容の充実	イ 出展者数	回	目標	15	15	15	15	15
			実績	0	18	15		
			達成率	0.0%	120.0%	100.0%		100.0%
ウ 雪像づくり	ウ 製作日数	日	目標	5	5	5	5	5
			実績	0	3	0		
			達成率	0.0%	60.0%	0.0%		0.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業	中事業	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		05	01	水紋まつり開催事業費					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	3,953	11,306	1,868			-9,438	一般財源	3,370	11,141	1,867			-9,274			
合計	3,953	11,306	1,868			-9,438	合計(A)	3,370	11,141	1,867			-9,274			
財源名称							従事正職員人数	1	2	2	2	2				
							延べ業務事務時間	50	80	50	80	80	-30			
							人件費計(千円)(B)	171	269	167	267	267	-102			
	最終予算額	1,868 千円	予算執行率	99.9%	トータルコスト(A+B)		3,541	11,410	2,034	267	267	-9,376				

1枚目

事業番号	04400	事務事業名	氷紋まつり開催事業費	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
スキー利用客、観光客、町民を対象とし、目的は開始時期より変化していないが、温暖化により例年雪不足への開催中止の懸念がある。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
スキー場との一体感のため、会場をゲレンデに設定し、上齋原振興公社協力のもと観光資源を用いた体験アトラクションを実施し魅力的PRを努めた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
雪まつりに関する関心は高まってきており、また、花火とあわせて実施されるレーザーショーについては全国的に珍しく関心を引いている。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 鏡野町の5大イベントの一つであり、会場の恩原高原の魅力を町内、町外にPRするイベントであるため政策体系に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 鏡野町の5大イベントであり、町内の活性化と町外からの誘客を目的としているため町の関与は妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 鏡野町の恩原高原にある観光資源の雪を町内のみならず周辺地域にも広報を行っていることから対象・意図は妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 既存のものでない新たな雪を用いた観光プロモーションと、鏡野観光局と協力してその他各種催しを実施することで成果の向上が見込める。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 鏡野町の冬を代表するイベントであり、開催することで町内外において多くの来場があるため廃止・休止は大いに影響がある。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 鏡野観光局と観光資源にまつわる多様なPR活動を実施することで成果をより向上させることが見込める。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 鏡野町が主体となり、上齋原振興公社に協力をいただき事業を実施しているほか、昨今の物価高騰による委託料や調達費用の増加があり、事業費について削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 各課や関係機関に協力を募り実施していることから人件費の削減余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町内のみならず町外広くPR活動を実施していることから受益機会については公正・公平である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	今年度は記録的な暖冬となり、開催中止となってしまった。そのため、中止に伴うキャンセル料のみの支出となってしまった。しかし、町内外から惜しむ声を問い合わせにいただいたことから次回開催に向けて、より適正な事業費精査などを実施したい。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 物価高騰の影響が強く全体的に費用が大きくなっているため、開催を目指す際は事業費の精査を今一度実施する。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
上齋原振興公社や鏡野観光局と協議を行い、安価で満足できるイベントを計画し実施する必要がある。																									

事業番号	事務事業名	恩原高原緑化事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04405	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	森腰 怜佳
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	恩原高原スキー場のシーズンオフの観光資源としての活用と、環境保全を目的にニッコウキスゲの群集を作り、夏場の観光客の集客を図ることを目的として整備するもの。 業務は一般財団法人上齋原振興公社へ委託する。	以前からシーズンオフの誘客の検討を行っていたが、国の地域住民生活等緊急支援のための交付金が後押しとなり、平成27年度から事業に着手する。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町民及び県内外者	ア 鏡野町人口	人	見込	11,970	11,800	11,627	11,455	11,280
			実績	12,497	12,358	12,116		
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
			実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア リピーター、新規観光客を確保できる状態になっている	ア ニッコウキスゲを目的に恩原高原に訪れる人の数	人	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
			実績	500	2,000	2,500		
			達成率	50.0%	200.0%	250.0%		250.0%
イ 多くの方に鏡野町を知ってもらおう	イ 観光入込客数		目標	800	825	850	875	900
			実績	790	948	828		
			達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア ニッコウキスゲの植栽・管理、PR活動	ア 植付・草取・電気柵の設置等	件数	目標	12	12	12	12	12
			実績	10	10	10		
			達成率	83.3%	83.3%	83.3%		83.3%
イ	イ 啓発(広報紙、ホームページ、ダイレクトメール、有線TV・新聞社の取材)	回	目標	10	10	10	10	10
			実績	1	1	1		
			達成率	10.0%	10.0%	10.0%		10.0%
ウ	ウ		目標					
			実績					
			達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		06	05	恩原高原緑化事業					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	04405		
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	2,380	1,928	2,000	2,243	2,243	72	一般財源	2,294	1,928	1,991	2,243	2,243	63			
合計	2,380	1,928	2,000	2,243	2,243	72	合計(A)	2,294	1,928	1,991	2,243	2,243	63			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						1	1	1	1	1	1				
	人件費計(千円)(B)						3	3	3	3	3	3	-0			
	最終予算額		2,000 千円	予算執行率		99.5%	トータルコスト(A+B)		2,297	1,931	1,994	2,246	2,246	63		

事業番号	04405	事務事業名	恩原高原緑化事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	----------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
鏡野町観光協会(現:(一社)鏡野観光局)開催のイベント及びリゾートカフェ(クリスタルパレス)の営業により観光客が増加した。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
5カ年の事業計画は完了したが、スキー場の夏場の有効利用の一つとして事業継続している。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
植栽範囲の拡大をしてはどうか。現地にたどり着きやすいように看板を設置してはどうか。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 結びついている	理由 説明	ニッコウキスゲの観覧に料金は徴収しておらず、町財政への収益はない。周辺の観光施設の活性化は多少期待できる。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由 説明	観光客の増加を目的としており、観光振興のために町が税金を投入することは妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)			
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由 説明	観光客を対象としており、妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由 説明	令和3年度実施の土壌改良により開花状況は良好で、観光客から高い評価を得られた。植栽範囲の拡大は検討できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)		
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由 説明	毎年開花時期には問い合わせが多数あり、観光客の減少が懸念される。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)			
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由 説明	全国的にもニッコウキスゲの観光地は珍しい。(一社)鏡野観光局と連携し、さらなる周知を実施できる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	さらなる開花のため毎年必要な作業を行っており、削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)			
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 説明	現地作業の事業は一般財団法人上齋原振興公社に委託しており、本事業に係る職員は1名で行っているため削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 説明	観光客全体を対象としているので、受益者負担は公平・公正である。

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年度は、本業務の委託先である(一財)上齋原振興公社が恩原高原スキー場内のクリスタルパレスをリゾートカフェとして営業したため、恩原高原での滞在時間、観光客数が増加した。キスゲの開花状況も例年並みであり、安定した観光資源となった。																							
B 有効性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 本来、恩原高原はニッコウキスゲが開花しにくい土地・環境であるため、植栽範囲の拡大は慎重に検討する必要がある。土壌改良により開花状況がよくなったので、引き続き必要な作業を実施しながら観光素材としたい。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
関係機関との連携により広報を強化すること。		(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)																							

事業番号	事務事業名	鏡野町文化・スポーツ合宿補助金	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04407	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	森腰 怜佳
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町文化・スポーツ合宿誘致補助金交付要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	①合宿の補助金対象認定 ②認定団体の合宿実施 ③合宿の実績検査 ④補助金の支払い	本町における文化・スポーツ合宿の誘致を推進することを目的とし開始。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内の合宿受入施設	ア 合宿受入宿泊施設数	箇所	見込	9	8	8	8	8
			実績	4	3	1		
イ	イ		見込					
			実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 合宿受入数の増加	ア 申請件数	件	目標	20	20	20	10	10
			実績	3	8	2		
			達成率	15.0%	40.0%	10.0%		20.0%
イ 多くの方に鏡野町を知ってもらう	イ 観光入込客数		目標	800	825	850	875	900
			実績	790	948	828		
			達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 補助金交付申請書の受領から補助金交付までの一連業務	ア 啓発(プロモーション活動)	回	目標	4	4	4	2	2
			実績	2	2	2		
			達成率	50.0%	50.0%	50.0%		100.0%
イ	イ 補助金交付金額	千円	目標	1,510	760	300	300	300
			実績	222	486	48		
			達成率	14.7%	63.9%	16.0%		16.0%
ウ 合宿受入宿泊施設数を拡充する	ウ 合宿受入宿泊施設数	箇所	目標	9	8	8	8	8
			実績	4	3	1		
			達成率	44.4%	37.5%	12.5%		12.5%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大 06	中 07	予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費				鏡野町文化・スポーツ合宿補助金					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	1,510	760	300	300	300	-460	一般財源	222	486	48	300	300	-438			
合計	1,510	760	300	300	300	-460	合計(A)	222	486	48	300	300	-438			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						10	20	1	5	5	-19				
	人件費計(千円)(B)						34	67	3	17	17	-64				
	最終予算額	300 千円	予算執行率	16.0%	トータルコスト(A+B)		256	553	51	317	317	-502				

1枚目

事業番号	04407	事務事業名	鏡野町文化・スポーツ合宿補助金	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
国民宿舎いつきの閉館があり、大人数を収容できる宿泊施設がなく、申請数が激減した。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
関西・四国方面の旅行会社へ町職員がプロモーション活動に出向いていた。(令和5年度は(一社)鏡野観光局に依頼)
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
申請の簡素化、大人数を収容できる宿泊施設の整備

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 町内の宿泊・スポーツ施設の利用により、施設管理者の収入増を図っている。交流人口が増加する。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 鏡野町を訪れるきっかけとなり得る事業であり、観光客の増加が期待できるため妥当である。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 町内施設利用者に対する助成であり、対象は妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 周知に関して、外部に委託しているガイドブック及びウェブサイトへの掲載にとどまっておき、認知度が低い。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 町内の宿泊・スポーツ施設の利用減少に繋がるため、地域経済に影響が及ぶ。合宿をきっかけとした本町への来訪機会減少が懸念される。
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 申請に関して、添付資料等必要最低限に留めており、改善の余地はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 昨年度実績に基づき予算額を決定しており、削減の余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 必要最低限の人員で行っているおり、削減の余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町内の宿泊施設等に合宿受け入れの希望調査を行っており、受益機会は公平である。補助金の制度案内についても鏡野町ホームページ等で広く周知しており、公平である。	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	大人数を収容できる宿泊施設がなく、申請数が激減した。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④ 担当課としての事業の方針																						
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 プロモーション対象の見直しを行うこと。 (例: 少人数制のスポーツ等)		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
受け入れ環境、宿泊施設の整備																									

事業番号	事務事業名	鏡野町観光総合システム運営事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04434	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	小谷 英
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	一般社団法人鏡野観光局が構築する観光公式Webサイトを核として、デジタルから紙媒体まで一貫したコンセプトによる効果的な情報発信や会員制ファンクラブ会員証等のデジタル化、旅行商品や特産品等の管理や販売など、一元的に運用が可能な観光総合システムを構築し町の観光宣伝・観光誘客に繋げるための費用負担を行うもの	アフターコロナにより、トレッキングやサイクリング、カヌー体験、サップ体験などのアウトドアアクティビティの人気が高まり新たな需要が生まれた。このことで、アドベンチャーツーリズム等を通じて、オンリーワンの体験ができる独自性の高い滞在型観光が楽しめる町を目指している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績			16,881 16,881	16,881	16,881
イ 町民	イ 人口	人	見込 実績			11,627 12,116	11,455	11,280
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率			850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 延べ宿泊客数	千人	目標 実績 達成率			22 17 77.3%	23	24 70.8%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 観光Webサイトの構築	ア 会員数	人	目標 実績 達成率			5,500 6,020 109.5%	6,000	6,500 92.6%
イ	イ パンフレット作成	部	目標 実績 達成率			15,000 15,000 100.0%	15,000	15,000 100.0%
ウ	ウ		目標 実績 達成率					



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		中事業 06		14 事業名		事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		観光費		06		鏡野町観光総合システム運営事業			
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金			4,950	4,290	3,575	4,950	国庫支出金			4,950	4,290	3,575	4,950	
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			4,950	4,290	3,575	4,950	一般財源			4,950	4,290	3,575	4,950	
合計			9,900	8,580	7,150	9,900	合計(A)			9,900	8,580	7,150	9,900	
財源名称	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)						従事正職員人数				1		1	
							延べ業務事務時間				200		200	
							人件費計(千円)(B)				667		667	
	最終予算額		9,900 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)			10,567	8,580	7,150

事業番号	04434	事務事業名	鏡野町観光総合システム運営事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
紙媒体での観光案内などは一定数はあるもののWebサイトやSNSなどでの情報発信が主となってきている
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
モバイルファーストの観光総合サイトを構築し各種コンテンツの充実とSNS等に活用により効果的な情報発信を実施している
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
期待をしているのご意見をいただいた

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 観光総合Webサイトを中心とした情報発信を行うことは多くの観光客に町に訪れてるきっかけとなっている
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 町の観光等の情報発信を一元的に担っているおり適切である	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 観光総合システムの構築運営費の負担となっており適切である	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 最低限の費用負担となっている
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 廃止すれば、観光情報等に発信力の低下につながる	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がある <input type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 鏡野観光局と共同で業務を行っているため観光局が組織強化することで改善ができる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 削減すれば観光業等に支障をきたす可能性がある
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 最低限の人員で対応している	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 本システムの運用等は町の観光情報などの発信であり全体の利益に繋がるため適正である

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	観光公式webサイトの管理運営、パンフレットの作成などは多くの方に鏡野町へ訪れていただくきっかけとして今後も必要でより一層の充実が必要である。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 引き続きシステムの運営管理費用を負担する																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
鏡野観光局の組織強化が必要である。																									

事業番号	事務事業名	町観光団体事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04435	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	小谷 英
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	DMO法人専門人材負担金 観光局運営補助金 総合観光パンフレット作成	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)の交付に伴いDMO法人専門人材やDMO運営補助金など負担することとなった

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 鏡野町観光局	ア 鏡野町観光局	団体	見込 実績			1 1	1	1
イ 町への来訪者(観光客)	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績			16,881 16,881	16,881	16,881
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 活性化し安定した団体運営を行う	ア 鏡野観光局加入事業者数	千人	目標 実績 達成率			80 60 75.0%	90	100 60.0%
イ 多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	イ 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率			850 828 97.4%	875	900 92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 専門人材	ア 人数	人	目標 実績 達成率			5 5 100.0%	6	6 83.3%
イ 観光パンフレットの発行	イ 観光総合パンフレットの発行	件	目標 実績 達成率			2 1 50.0%	2	2 50.0%
ウ 観光PR	ウ 鏡野町観光&移住定住サイト閲覧数	千件	目標 実績 達成率			140 169 120.7%	170	170 99.4%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		大事業	中事業	予算上の事業名			事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		06	15	町観光団体事業			
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金		10,345	14,000	14,000	10,345	国庫支出金			10,345	14,000	14,000	10,345		
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源		17,127	19,422	19,422	17,127	一般財源			17,036	19,422	19,422	17,036		
合計		27,472	33,422	33,422	27,472	合計(A)			27,381	33,422	33,422	27,381		
財源名称	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)						従事正職員人数			1	1	1	1	
							延べ業務事務時間			500	500	500	500	
							人件費計(千円)(B)			1,668	1,668	1,668	1,668	
	最終予算額		27,472 千円	予算執行率	99.6%	トータルコスト(A+B)				29,049	35,090	35,090	29,049	

1枚目

事業番号	04435	事務事業名	町観光団体事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	---------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
令和5年7月に鏡野町観光局会が中心となり(一社)鏡野観光局を設立し、観光地域づくり(DMO)法人制度によるDMO候補法人への登録を行った。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
平成23年に鏡野町観光協会設立。令和3年度より観光地域づくり法人の設立に向けて協議を進めた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
観光振興を目指す組織として期待をしているとの意見がある。

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 各地域の活性化を目的に、多くの集客が得られるよう観光振興に努めている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 町内観光振興の充実と連携を図り、町へ訪れる観光の受入を一元的に担っており適切である	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 主な内容は鏡野観光局の運営費用等の負担をすることにより観光の振興に繋がっている	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 町内の総合的な観光の魅力向上を図るため、観光地域づくり法人(DMO)の設立となった。今後、新法人として持続可能な組織体制を確立し、成果をあげていく必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 廃止等を行えば町の観光振興に影響がでる	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 負担金、補助金により、支援することで観光局自らの活動に使用でき、効果を上げることに期待できる。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 令和5年度に設立した法人であり、成果を求められる時期であり事業費の削減余地はない。
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 観光事業を観光局に委託するよう進めており、組織として支援することで、今後の削減に期待できるが、今すぐには難しい。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町の観光の受け皿となっているため適正である

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和5年7月に設立した鏡野観光局の組織強化のため補助金、負担金の交付を行った。今後についても、観光振興のため鏡野観光局が成果を出せるよう後方支援を行うことが必要である。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了		今後の改革改善案 現状を維持しながら、会員数の増加を図り、鏡野観光局の体制の強化をすることが必要である。																							
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題		<table border="1" style="text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○			低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○																						
	低下																								
鏡野観光局の組織体制を強化するためには独自事業により、収益を上げる必要がある。																									

事業番号	事務事業名	登山道・観光施設等管理事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04410	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	作州かがみの森林組合へ事業を委託 登山道及び観光施設の安全管理、除草、簡易な修繕を行う。 見積り入札により契約→事業実施→完了→検査→支払	平成23年度まで緊急雇用創出事業で実施していたが、平成25年度より町の最重要課題となり、登山道・観光施設等管理事業として開始する。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	→	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内及び町内外者		ア 鏡野町人口	人	見込	12,143	12,143	11,627	11,455	11,280
				実績	12,497	12,358	12,116		
イ		イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
				実績	1,190	1,190	1,190		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	→	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な維持管理を行う		ア 整備路線延長(面積)	m	目標	23,187	23,187	23,187	23,187	23,187
				実績	23,187	23,187	23,187		
				達成率	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%
イ 多くの方に鏡野町を知ってもらおう		イ 観光入込客数	千人	目標	800	825	850	875	900
				実績	790	948	828		
				達成率	98.8%	114.9%	97.4%		92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	→	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 登山道・観光施設整備		ア 作業日数	日	目標	300	300	300	300	300
				実績	305	268	264		
				達成率	101.7%	89.3%	88.0%		88.0%
イ 自然体験プログラムの創設		イ 体験プログラム数		目標	45	45	50	50	50
				実績	25	46			
				達成率	55.6%	102.2%			

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		登山道・観光施設等管理事業					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	6,435	6,028	6,168	6,500	6,500	140	一般財源	6,435	6,028	6,028	6,500	6,500		
合計	6,435	6,028	6,168	6,500	6,500	140	合計(A)	6,435	6,028	6,028	6,500	6,500		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1					
	延べ業務事務時間						20	20	20					
	人件費計(千円)(B)						68	67	67			-1		
	最終予算額		6,168 千円	予算執行率		97.7%	トータルコスト(A+B)		6,503	6,095	6,095	6,500	6,500	-1

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	登山道・観光施設等の管理を行うことで、施設の景観整備及び安全に利用することができる。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	委託事業者も登山道・観光施設について熟知しており円滑に整備を行っている
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	かがみのアクティビティ推進事業	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04417	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	小谷 英
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	アクティビティ、自然、農林業、文化体験等の要素を複合的に構築した健康に繋がるアドベンチャーツーリズムに実現に向けた物品整備や人材育成、受入整備、観光宣伝、観光客誘致が不可欠であるため鏡野観光局へ委託し受入環境整備を行う	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)の交付に伴いDMO法人専門人材やDMO運営補助金など負担をすることとなった

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	町への来訪者(観光客)	→	ア	千人	見込			16,881	16,881	16,881
					実績			16,881		
イ	町民	→	イ	人	見込			11,627	11,455	11,280
					実績			12,116		
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	→	ア	千人	目標			850	875	900
					実績			828		
					達成率			97.4%		92.0%
イ		→	イ	千人	目標			22	23	24
					実績			17		
					達成率			77.3%		70.8%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	備品購入・コンテンツ	→	ア	セット	目標			6	6	6
					実績			6		
					達成率			100.0%		100.0%
イ		→	イ	台	目標			5	5	5
					実績			5		
					達成率			100.0%		100.0%
ウ		→	ウ	件	目標			11	10	11
					実績			11		
					達成率			100.0%		100.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 03		事業 07		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光費		07		かがみのアクティビティ推進事業					
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金			3,245	3,135	3,275	3,245	国庫支出金			3,245	3,135	3,275	3,245			
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源			3,245	3,135	3,275	3,245	一般財源			3,245	3,135	3,275	3,245			
合計			6,490	6,270	6,550	6,490	合計(A)			6,490	6,270	6,550	6,490			
財源名称	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)						従事正職員人数				1	1	1	1		
							延べ業務事務時間				500	500	500	500		
							人件費計(千円)(B)				1,668	1,668	1,668	1,668		
	最終予算額		6,490 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		8,158	7,938	8,218	8,158		

事業番号	04417	事務事業名	かがみのアクティビティ推進事業	所管課名	産業観光課
------	-------	-------	-----------------	------	-------

4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか? アクティビティ、自然、農林業、文化体験等の要素を複合的に構築した健康に繋がるアドベンチャーツーリズムに実現に向けた物品整備や人材育成、受入整備、観光宣伝、観光客誘致が不可欠である
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯 今年度よりの取組
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか? 期待しているとご意見をいただいている

5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	理由説明 体験型の自然アクティビティを目的に観光客が町外から訪れている
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
有効性 評価	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	理由説明 一元的に受け入れを行っているため適切である
	③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	理由説明 体験型の自然アクティビティの受入を行うための備品等の整備であり適切である
効率性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 目標水準に達している	理由説明 備品の整備、インストラクター資格取得、コンテンツ造成などを行っており適切である
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	理由説明 廃止等を行えば町の観光振興に影響がでる
	⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)	
	<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	理由説明 なし
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 削減すれば観光業等に支障をきたす可能性がある
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)	
公平性 評価	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由説明 最低限の人員で対応している
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由説明 町の観光のコンテンツであり誰でも利用できる	

6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果	② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																								
A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	整備した備品や造成したコンテンツを広く周知し利用者の増加に努める																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	④ 担当課としての事業の方針																								
<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	<p>今後の改革改善案</p> <p>観光宣伝を効果的に行い今回整備した備品を活用し鏡野町へ訪れる方を増やしていく</p>																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題	<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)</p>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持																								
	低下																								

事業番号	事務事業名	観光施設共通経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04450	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	公共観光施設の維持管理に係る費用 需用費・役務費・委託料・使用料及び賃借料	観光施設の維持管理を行うため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公共観光施設	ア 産業観光課所管観光施設数	施設	見込 実績	27 27	27 27	27 27	27	27
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適正に管理する	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 修繕箇所数	箇所	目標 実績 達成率	10 18 180.0%	10 15 150.0%	10 8 80.0%	10	10 80.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公衆トイレの維持管理	ア 公衆トイレの数	箇所	目標 実績 達成率	8 9 112.5%	9 9 100.0%	9 9 100.0%	9	9 100.0%
イ 公共観光施設数	イ 産業観光課所管観光施設数	箇所	目標 実績 達成率	27 27 100.0%	27 27 100.0%	27 27 100.0%	27	27 100.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		観光施設共通経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町 債						町 債								
その他特財						その他特財	557	1,463	588			-875		
一般財源	32,222	26,478	23,645	22,966	22,966	-2,833	一般財源	28,930	23,462	25,179	22,966	22,966	1,717	
合計	32,222	26,478	23,645	22,966	22,966	-2,833	合計(A)	29,487	24,925	25,767	22,966	22,966	842	
財源名称	県産材利用促進対策事業補助金 1,179千円				従事正職員人数			3	3	3	3	3		
					延べ業務事務時間			80	80	80	80	80		
					人件費計(千円)(B)			274	269	267	267	267	-2	
	最終予算額		23,645 千円	予算執行率	108.9%	トータルコスト(A+B)			29,761	25,194	26,034	23,233	23,233	840

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	観光施設・公衆トイレ等修繕や清掃を行なってきているが、老朽化してきた施設も多くあり、また、公衆トイレの清掃等地元団体に委託している業務は高齢化の問題も出てきているため、再編や廃止も含めて検討が必要である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	観光施設共通臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04451	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	公共観光施設の臨時的な維持管理に係る費用 需用費・委託料・工事請負費・備品購入費・原材料費・負担金・補助金	観光施設の維持管理を行うため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公共観光施設	ア 産業観光課所管観光施設数	施設	見込 実績		27 27	27 27	27	27
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切に管理する	ア 修繕箇所数	箇所	目標 実績 達成率		10 45 450.0%	10 35 350.0%	10	350.0%
イ	イ 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率		825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 公共観光施設の修繕	ア 修繕の箇所数	箇所	目標 実績 達成率		10 45 450.0%	10 35 350.0%	10	350.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		観光施設共通臨時管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金		1,893				-1,893		
町債						町債								
その他特財						その他特財		27,521				-27,521		
一般財源	88,582	31,052			-57,530	一般財源		58,378	29,995	5,929		-28,383		
合計	88,582	31,052			-57,530	合計(A)		87,792	29,995	5,929		-57,797		
財源名称	従事正職員人数								2	2	2			
	延べ業務事務時間								100	100	100			
	人件費計(千円)(B)								336	334	334	-3		
	最終予算額	31,052 千円	予算執行率	96.5%		トータルコスト(A+B)			88,128	30,329	6,263	-57,800		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	観光施設等の臨時的に発生した修繕等を行った。老朽化してきた施設も多くあり、再編や廃止も含めて検討が必要である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	越畑ふるさとセンター経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04452	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町越畑ふるさとセンター条例及び施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	越畑ふるさとセンター維持管理業務 平成21年4月1日より休館しているが、地域の避難場所となっているため電気及び水道は継続している。(秋の紅葉まつり会場)維持管理に必要な経費をそれぞれの業者からの請求により支払う。必要最小限の電気・水道代のみ支出している。	昭和49年度岡山県ふるさと村に指定される。平成2年度にふるさと整備事業により整備され、平成3年6月にオープンした。利用者の減少により平成21年4月1日閉館した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標						
ア	公共施設 越畑ふるさとセンター	施設	見込実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
イ			見込実績	休止中	休止中	休止中	休止中	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)						
ア	最低限の維持管理を行う	施設	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
イ			達成率	—	—	—	—	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標						
ア	水道料金の支払い	回	実績	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
イ			達成率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01 一般会計		款 07 商工費		項 01 商工費		目 04 観光施設費		予算上の事業名					事業番号
	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	208	201	190			-11	一般財源	174	170	139				-31
合計	208	201	190			-11	合計(A)	174	170	139				-31
財源名称	従事正職員人数							1	1	1				
	延べ業務事務時間							4	4	4				
	人件費計(千円)(B)							14	13	13				-0
	最終予算額		190千円		予算執行率		73.1%		トータルコスト(A+B)		188	183	152	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	必要最小限の管理を行っているが、建物の痛みが増してきている。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	男女山公園経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04456	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	森腰 怜佳
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町立公園等条例 鏡野町立公園等条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	男女山公園の指定管理業務。 指定管理者と年度協定を締結して、指定管理料を支払う。	令和4年4月1日から一般社団法人かがみらの が指定管理者を務める。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 男女山公園	ア 公園面積	m	見込 実績	24,343 24,343	24,343 24,343	24,343 24,343	24,343	24,343
イ 男女山公園来園者	イ 公園来園者数	人	見込 実績	15,000 14,321	15,000 9,526	15,000	15,000	

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの人に来園してもらう	ア 公園来園者数	人	目標 実績 達成率	15,000 14,321 95.5%	15,000 9,526 63.5%	15,000 8,684 57.9%	15,000	15,000 57.9%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 委託料の支払	ア 委託料支払回数	回	目標 実績 達成率	5 5 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		男女山公園経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財	7	2				-2		
一般財源	4,578	3,346	3,457	3,446	3,446	111	一般財源	4,240	3,532	3,446	3,446	3,446	-86	
合計	4,578	3,346	3,457	3,446	3,446	111	合計(A)	4,247	3,534	3,446	3,446	3,446	-88	
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1		
	延べ業務事務時間						10	1	3	3	3	2		
	人件費計(千円)(B)						34	3	10	10	10	7		
	最終予算額	3,457 千円		予算執行率	99.6%		トータルコスト(A+B)	4,281	3,537	3,456	3,456	3,456	-81	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	指定管理者による円滑で健全な運営が行われた。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	ふれあい交流広場経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04458	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	農政係	担当者・シート作成者	釜本 遥平
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町立公園等条例及び施行条例		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	鏡野町物産館「夢広場」北側に隣接する公園を「夢広場」指定管理者である鏡野町振興公社へ委託。	「夢広場」附帯施設として整備され、「夢広場」指定管理者である鏡野町振興公社へ管理委託。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 快適に利用してもらう	ア 夢広場への来場者数	人	目標 実績 達成率	270,000 263,011 97.4%	270,000 282,440 104.6%	270,000 295,549 109.5%	300,000	300,000
イ	イ 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 委託料の支払	ア 支払回数	回	目標 実績 達成率	2 1 50.0%	2 1 50.0%	2 1 50.0%	1	1
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		ふれあい交流広場経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	04458
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440		一般財源	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440		
合計	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440		合計(A)	1,440	1,440	1,440	1,440	1,440		
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	4	4	4	4	4		
							人件費計(千円)(B)	14	13	13	13	13	-0	
	最終予算額	1,440 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	1,454	1,453	1,453	1,453	1,453	-0	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	「夢広場」附帯施設として整備され、「夢広場」指定管理者である鏡野町振興公社へ管理委託して、施設全体の利用者も増加傾向にある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	大釣温泉施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04462	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等	鏡野町大釣温泉条例鏡野町大釣温泉条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	施設用地が町有地ではないため、土地を賃貸契約し、毎年4月に借地料の支払い事務を行っている。 令和5年4月1日より休館している。	昭和57年に町民の健康と福祉の増進、及び観光休憩所として、奥津町時代に建設された。 施設用地が町所有でないため、賃貸借契約している。平成17年度より指定管理者制度を導入している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来館者	ア 利用者数	人	見込 実績	20,000 11,119	20,000 10,967	0 0	0	0
イ	イ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 賃貸借契約	ア 借地料	千円	目標 実績 達成率	850 850 100.0%	850 850 100.0%	850 850 100.0%	850	850 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 協定締結並びに指定管理料の支払い	ア 指定管理料	千円	目標 実績 達成率	2,357 2,357 100.0%	3,346 3,346 100.0%	0 0 -	0	0
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		大釣温泉施設経常管理費						
									01	31					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比			
国庫支出金						国庫支出金									
県支出金						県支出金									
町債						町債									
その他特財						その他特財									
一般財源	4,196	4,196	3,196	1,818	1,818	-1,000	一般財源	4,196	4,196	2,011	1,818	1,818	-2,185		
合計	4,196	4,196	3,196	1,818	1,818	-1,000	合計(A)	4,196	4,196	2,011	1,818	1,818	-2,185		
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1				
	延べ業務事務時間						20	20	20	20	20				
	人件費計(千円)(B)						68	67	67	67	67	-1			
	最終予算額	3,196 千円		予算執行率	62.9%		トータルコスト(A+B)	4,264	4,263	2,078	1,885	1,885	-2,186		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
見直し余地がある	向上余地がある	施設老朽化に伴い令和5年4月1日から休館しており、借地料と維持管理に要する支出のみであった。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	奥津湖総合案内所経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04466	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町奥津湖総合案内所条例鏡野町奥津湖総合案内所条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	奥津湖総合案内所を指定管理者である非営利活動法人「てっちりこ」に委託する。 事業内容については、指定管理者との基本協定等の締結、事業報告のとりまとめ等。 電気料の負担割合については、町が41.28%で、「てっちりこ」が58.72%の負担。	苦田ダム建設により誕生した奥津湖を町の新たな地域資源として最大活用した地域活性化推進、水没地域の歴史や文化の伝承、地域情報等の発信拠点施設として平成16年に完成し、維持管理が必要となった。平成16年度から業務委託を導入。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理・運営	ア 利用者数	数	目標 実績 達成率	50,000 33,502 67.0%	50,000 39,403 78.8%	50,000 36,068 72.1%	50,000	50,000 72.1%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3 100.0%
イ	イ	回	目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号	
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		奥津湖総合案内所経常管理費						
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	04466	
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財	2,466	2,433	2,467		2,500	34	その他特財	1,094	2,143	1,885		2,500	-258		
一般財源	6,620	8,243	7,462	1,700	7,500	-781	一般財源	7,066	7,850	7,442	1,700	7,500	-408		
合計	9,086	10,676	9,929	1,700	10,000	-747	合計(A)	8,160	9,993	9,327	1,700	10,000	-666		
財源名称	奥津湖総合案内所電気負担金						従事正職員人数	1	1	1	1	1			
	※特定非営利活動法人「てっちりこ」から						延べ業務事務時間	30	30	30	30	30			
	敷地面積の内広報展示館を除く58.72%を受領						人件費計(千円)(B)	103	101	100	100	100	-1		
	最終予算額		9,929 千円		予算執行率		93.9%		トータルコスト(A+B)		8,263	10,094	9,427	1,800	10,100

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	令和6年度から施設再編計画があり、また、現指定管理者との5年間の指定管理期間が満了となるため、現形態での施設運営は令和5年度が最後であった。改修工事後の指定管理について、指定管理料等検討する必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	泉源園地経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04470	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町泉源園地条例及び同条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	泉源園地の管理を指定管理者である泉源部落会に委託する。 施設用地が町有ではないため、土地を賃貸借契約し、借地料の支払い事務を行っている。 指定管理者との基本協定等の締結、事業報告の取りまとめ等、その他、借地料について毎年12月に支払い手続きを行っている。	平成2年度、岡山県県境町村等振興事業により完成。管理棟、休憩所、バーベキュー棟、調理棟の4棟があり、ヤマメのつかみ取りができる。 平成3年から土地を賃貸借している。 平成18年度より指定管理制度を導入。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理をし、安定的な運営を行う	ア 利用者数	人	目標 実績 達成率	400 491 122.8%	650 945 145.4%	1,000 1,104 110.4%	1,000	1,000
イ	イ 管理施設数	棟	目標 実績 達成率	4 4 100.0%	4 4 100.0%	4 4 100.0%	4	4
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01 一般会計		款 07 商工費		項 01 商工費		目 04 観光施設費		予算上の事業名 泉源園地経常管理費					事業番号 04470	
	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比		
国庫支出金							国庫支出金								
県支出金							県支出金								
町債							町債								
その他特財							その他特財								
一般財源	413	413	313	313	313	-100	一般財源	413	413	313	313	313	-100		
合計	413	413	313	313	313	-100	合計(A)	413	413	313	313	313	-100		
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間	16	16	16	16	16			
							人件費計(千円)(B)	55	54	53	53	53	-0		
	最終予算額		313 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		468	467	366	366	366

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	施設オープン後30年以上が経過する中、施設の老朽化がかなり進んでおり、顧客満足度を上げていくには、修繕や改修工事を実施する必要がある。しかし、町の財政状況が厳しい中、改修工事を見込むことが難しくなっており、このままでは今後の営業に支障きたす恐れがある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	ファームビレッジ施設等経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04472	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町ファームビレッジ施設条例鏡野町ファームビレッジ施設		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	令和5年10月1日より、(一社)かがみらのを指定管理者とし、ファームビレッジ施設の管理を委ねる。 各種協定の締結、事業報告のとりまとめ、施設修繕等を実施する。	平成5年~8年度の事業により中山間地域の生活環境基盤に活性化施設を取り入れ、都市住民による農業・農村生活の体験等を通じて、農業の大切さや農村生活の素晴らしさを実感し、その役割について誓いを促すとともに、農村住民と都市住民の交流による中山間地域の農業・農村の活性化を図る。このため、都市住民が、農業体験・農産物加工体験もできる宿泊・研修施設を備えた施設を整備した。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理をし、安定的な運営を行う	ア 利用者数	%	目標 実績 達成率	300 567 189.0%	1,000 1,112 111.2%	1,000 610 61.0%	1,000	1,000
イ	イ 管理施設数	棟	目標 実績 達成率	5 5 100.0%	5 5 100.0%	5 5 100.0%	5	5
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	千円	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 6 200.0%	3	3
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		ファームビレッジ施設等経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	523	523	642	800	800	119	一般財源	523	523	607	800	800	84	
合計	523	523	642	800	800	119	合計(A)	523	523	607	800	800	84	
財源名称	従事正職員人数							1	1	1				
	延べ業務事務時間							10	10	10				
	人件費計(千円)(B)							34	34	33			-0	
	最終予算額	642 千円	予算執行率	94.5%	トータルコスト(A+B)			557	557	640	800	800	84	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	令和5年4月1日~令和5年9月30日まで:農事組合法人長藤農場 令和5年10月1日~令和6年3月31日まで:(一社)かがみらのが指定管理者を務めた。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	指定管理者変更に伴う営業準備期間が生じ、その間利用客が減少したが、再開後は新指定管理者により円滑な運営がされている。
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	スノーモービルランド施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04474	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等	鏡野町スノーモービルランド施設条例鏡野町スノーモービルランド施設条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (4 年度~ 8 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	スノーモービルランドの管理を指定管理者であるスノーモービルランドinナチュラル泉源運営協議会に委託する。 施設用地と駐車場用地が町所有でないため、借地料の支払い。 指定管理者との基本協定の締結、事業報告の取りまとめ。 施設借地料(年間20万円)と駐車場借地料(年間32万円)を、毎年12月20日までに支払う。	平成9年8月、県境町村等振興事業により県下では初、中国地方では最大級となるスノーモービル施設が完成。地域の活性化を推進したいことから、平成9年に場所選定を行うとともに用地(施設・駐車場)を賃貸借して施設整備を行った。平成18年度より指定管理制度を導入。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理・運営	ア 利用者数	人	目標 実績 達成率	300 266 88.7%	300 232 77.3%	300 87 29.0%	300	300
イ	イ スノーモービル所有台数	台	目標 実績 達成率	24 24 100.0%	24 24 100.0%	24 24 100.0%	24	24

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 協定締結並びに指定管理料の支払い	ア 指定管理料	千円	目標 実績 達成率	418 418 100.0%	418 418 100.0%	418 418 100.0%	418	418
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		スノーモービルランド施設経常管理費					
3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	04474	
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	418	418	418	418	418	一般財源	418	418	418	418	418			
合計	418	418	418	418	418	合計(A)	418	418	418	418	418			
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間						16	16	16	16	16			
	人件費計(千円)(B)						55	54	53	53	53	-0		
	最終予算額		418 千円	予算執行率		100.0%	トータルコスト(A+B)		473	472	471	471	471	-0

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	現状では冬季間のスノーモービルだけに特化しているが、年間を通しモータースポーツ全般での視点に切り替えることで、新たな展開が望めるかもしれない。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	月出原苑地交流施設等経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04476	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町月出原苑地交流施設条例鏡野町月出原苑地交流施設条例施行規則 他		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	月出原苑地交流施設の管理を指定管理者である月出原観光農園管理組合に委託する。 指定管理者との基本協定等の締結、事業報告の取りまとめ等。	平成9年施設完成。 平成18年度より指定管理制度導入。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理をし、安定的な運営を行う	ア 利用者数	人	目標 実績 達成率	100 4 4.0%	100 22 22.0%	100 46 46.0%	100	46.0%
イ	イ 適切に管理・運営された施設数	施設	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	100.0%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		01 款 07		01 項 01		04 目 04		01 中事業 45 予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		月出原苑地交流施設等経常管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	1,198	1,093	1,093	1,093	1,093	一般財源	993	1,093	1,093	1,093	1,093			
合計	1,198	1,093	1,093	1,093	1,093	合計(A)	993	1,093	1,093	1,093	1,093			
財源名称	従事正職員人数		1	1	1	1	1							
	延べ業務事務時間		16	16	16	16	16							
	人件費計(千円)(B)		55	54	53	53	53					-0		
	最終予算額	1,093 千円	予算執行率	100.0%	トータルコスト(A+B)		1,048	1,147	1,146	1,146	1,146	-0		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	利用者が低迷しているとともに、農園についてもハウスや水道施設等の維持で手一杯の状況の中、努力に比例した農園作物の販売には繋がっていない。また、管理者の高齢化も進んでいることなどもふまえ、施設の地元移譲なども含めた検討が必要である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	奥津温泉星の里キャンプビレッジ施設経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04478	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	奥津振興センター	担当者・シート作成者	小林 英将
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等	競野町奥津温泉星の里キャンプビレッジ施設条例競野町奥津温泉星の里キャンプビレッジ施設条例施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	奥津温泉星の里キャンプビレッジの施設管理を、地元の奥津温泉振興企業組合に指定管理委託している。 事務概要としては、指定管理者との基本協定等の締結並びに事業報告の取りまとめ等を行っている。 令和4年度末まで奥津発電所の工事業者に敷地内利用をさせていたのが施設を休止したが、令和5年度からは通常営業を行っている。	平成10年4月、林業構造改善事業により、星の里キャンプビレッジが完成。 平成18年度より指定管理制度を導入。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理をし、安定的な運営を行う	ア 利用者数	人	目標 実績 達成率	0 0 -	0 0 -	1,000 1,111 111.1%	1,200	1,200 92.6%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		01	47	奥津温泉星の里キャンプビレッジ施設経常管理費			
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	648	648	811	811	811	163	一般財源	648	648	811	811	811	163	
合計	648	648	811	811	811	163	合計(A)	648	648	811	811	811	163	
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1	1		
	延べ業務事務時間						16	16	16	16	16	16		
	人件費計(千円)(B)						55	54	53	53	53	53	-0	
	最終予算額		811 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		703	702	864	864

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	休止後の再開であったが、アウトドアブームなどによって利用客は戻りつつある。運営状況を見ながら、改善事項等について協議していく必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	ミルキーウェイパーク経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己	
04482	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(事務事業の内容) 公園内の清掃、除草、草刈り、及び河川整備、植栽木の管理を一般財団法人上齋原振興公社に業務委託し、行っている。 (業務の内容手順など) 維持管理業務委託契約、契約後契約額の3分の2相当額を支払い、業務完了後実績報告に基づいて検査し、残額を支払った。	当該施設を整備した当時から一般財団法人上齋原振興公社に業務委託し、管理を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来訪者を増やし、滞在させ消費につなげる	ア 観光客入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 延べ宿泊客数	千人	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	21 24 114.3%	22 17 77.3%	23	24 70.8%

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 業務委託の締結	ア 協定締結数	件	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%
イ 実績報告に基づく検査、委託料の支払	イ 検査、支払い	時間	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3 100.0%



⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		ミルキーウェイパーク経常管理費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	731	731	731	629	629		一般財源	731	731	605	629	629	-126	
合計	731	731	731	629	629		合計(A)	731	731	605	629	629	-126	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	15	15	15	15	15		
							人件費計(千円)(B)	51	50	50	50	50	-0	
	最終予算額		731 千円		予算執行率		82.7%	トータルコスト(A+B)	782	781	655	679	679	-126

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	歩道や川沿いの柵に老朽が見られる。できる範囲で修繕や、報告をし、観光客に安全に楽しめる散策の場所を提供している。
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	オートキャンプ場経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04484	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町恩原高原オートキャンプ場条例		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(事務事業の内容) オートキャンプ場の管理、運営を行う事業で一般財団法人上齋原振興公社を指定し、管理業務委託している。 (業務の内容手順など) ①毎年度、年度協定を締結 ②締結後契約額の2分の1相当額を支払い、業務完了後実績報告に基づいて検査し、残金を支払った。	岡山県が開設した本格的なオートキャンプ場で、のちに旧上齋原村の施設となり、管理を一般財団法人上齋原振興公社に委託し、鏡野町に合併後の平成18年度から指定管理者制度により、管理を委託している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 快適に利用してもらう	ア キャンプ場利用者数	人	目標 実績 達成率	4,500 3,146 69.9%	4,500 4,442 98.7%	4,500 4,036 89.7%	4,500	4,500 89.7%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 協定等の締結事務	ア 支払回数	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		オートキャンプ場経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	1,251	1,242	1,242	1,242	1,242		一般財源	1,251	1,242	1,242	1,242	1,242		
合計	1,251	1,242	1,242	1,242	1,242		合計(A)	1,251	1,242	1,242	1,242	1,242	0	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	20	20	20	20	20		
							人件費計(千円)(B)	68	67	67	67	67	-1	
	最終予算額		1,242 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		1,319	1,309	1,309	1,309

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	指定管理者による円滑で健全な運営がされた。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	指定管理者による営業方法の工夫で、平日利用やソロキャンパーが増加した令和4年度よりは減少したが、過去5年間を比較するとまずまずの利用人数だった。
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	上齋原観光トイレ経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04486	政策名	2	地域経済を支える里づくり	係名	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25	観光の振興	根拠法令等		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	上齋原地域内の観光地に整備しているトイレ(観光リフレッシュトイレ、岩井滝トイレ)の維持管理を行う事業で、清掃業務を一般財団法人上齋原振興公社に委託している。 維持管理業務委託契約、契約後契約金額の3分の2相当額を支払、業務完了後実績報告に基づいて検査し、残額を支払った。	上齋原地域の観光客用トイレとして整備した施設の維持管理で、施設の整備後は一般財団法人上齋原振興公社に委託し、管理を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標									
ア	町外からの来訪者(観光客)	→	ア	岡山県南地域人口	千人	見込 実績	3 年度 4 年度 5 年度	6 年度 7 年度			
イ		→	イ	京阪神地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472 16,957 16,881	1,200 1,472 16,881 16,881			
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)									
ア	来訪者を増やし滞在して消費してもらおう	→	ア	観光客入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875 92.0%	900 70.8%
イ		→	イ	延べ宿泊客数	千人	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	21 24 114.3%	22 17 77.3%	23 70.8%	24
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標									
ア	業務委託契約の締結	→	ア	事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 100.0%	2
イ	実績報告の検査、委託料の支払	→	イ	事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 100.0%	3

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		上齋原観光トイレ経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	04486
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	1,136	1,145	1,115	1,019	1,019	-30	一般財源	1,054	1,093	1,006	1,019	1,019	-87	
合計	1,136	1,145	1,115	1,019	1,019	-30	合計(A)	1,054	1,093	1,006	1,019	1,019	-87	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	20	20	20	20	20		
							人件費計(千円)(B)	68	67	67	67	67	-1	
	最終予算額	1,115 千円		予算執行率	90.2%		トータルコスト(A+B)	1,122	1,160	1,073	1,086	1,086	-88	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	観光客に不自由のないよう気持ちよく利用していただいている。適切な管理・補修等を行い、地域の観光産業の基盤を支える施設として維持する。 岩井滝は8月に災害があり、通行止めとなった。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	クアガーデンこのか経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04488	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	上齋原振興センター	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町クアガーデンこのか条例		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(事務事業の内容) 施設の管理・運営について一般財団法人上齋原振興公社を指定し、管理業務の委託を行っている。 (業務の内容手順など) 毎年度年度協定を締結、締結後4月・7月に500万円11月に契約額の残額を支払った。	クアガーデンこのかは、施設整備当初より施設の維持管理を町で行っていたが、平成18年度より指定管理制度を取り入れ一般財団法人上齋原振興公社に委託し、管理を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来訪者を増やし滞在して消費してもらおう	ア 施設利用者	人	目標 実績 達成率	18,000 14,837 82.4%	18,000 18,515 102.9%	18,000 15,558 86.4%	18,000	18,000
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 業務委託契約の締結	ア 事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2
イ 実績報告の検査、委託料の支払	イ 事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		クアガーデンこのか経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	15,827	16,637	15,804	15,804	15,804	-833	一般財源	15,826	16,636	15,804	15,804	15,804	-832	
合計	15,827	16,637	15,804	15,804	15,804	-833	合計(A)	15,826	16,636	15,804	15,804	15,804	-832	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	20	20	20	20	20		
							人件費計(千円)(B)	68	67	67	67	67	-1	
	最終予算額	15,804 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	15,894	16,703	15,871	15,871	15,871	-833	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	指定管理者による円滑で健全な運営がされた。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	事務作業は必要最低限の人員で実施しており、削減の余地はない。 指定管理料について、燃料費の高騰などの状況を鑑み、再検討の余地がある。
改善余地がない	公平・公正である	老朽化のため、滑りやすいタイルや、重たい引き戸など修繕が必要。

事業番号	事務事業名	妖精の森ガラス美術館経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04490	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	石田 和之
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	妖精の森ガラス美術館条例及び施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	妖精の森ガラス美術館の管理運営を行う事業。 利用者が美術館展示室の観覧、ガラス工房でのガラス製作体験、ミュージアムショップでの作品購入などを支障なく利用できるように施設・設備の維持管理、運営を行う。日常業務は、会計年度任用職員6名(事務員3名、学芸員・工房スタッフ3名)アルバイト1名(ガラス作家)で実施している。	平成10年の旧動燃人形峠事業所の事業縮小に伴い、地域振興策の一つとして旧動燃事業団、国、県の協力のもと、地域資源である人形峠産ウランを着色剤として用いた「ウランガラス」の開発に着手し、日本でオンリーワンのウランガラスを制作するガラス工房と展示、販売施設の整備を行った。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 快適に利用してもらう	ア 入館者数	人	目標 実績 達成率	10,000 8,164 81.6%	10,000 9,410 94.1%	10,000 8,893 88.9%	10,000	10,000 88.9%
イ	イ ガラス体験利用者数	人	目標 実績 達成率	700 110 15.7%	700 234 33.4%	700 815 116.4%	800	800 101.9%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア ガラス作品の企画展の実施	ア 企画展の実施回数	回	目標 実績 達成率	4 4 100.0%	4 4 100.0%	4 4 100.0%	4	3 133.3%
イ 魅力的な販売作品を増やす	イ ショップ利用者	人	目標 実績 達成率	2,000 1,667 83.4%	2,000 1,997 99.9%	2,000 1,933 96.7%	2,000	2,000 96.7%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号		
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		妖精の森ガラス美術館経常管理費							
									01	69						04490
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財	15,324	15,373	15,480	17,511	17,511	107	その他特財	12,697	14,838		17,511	17,511	-14,838			
一般財源	23,973	25,778	27,231	23,555	23,555	1,453	一般財源	23,386	24,009		23,555	23,555	-24,009			
合計	39,297	41,151	42,711	41,066	41,066	1,560	合計(A)	36,083	38,847		41,066	41,066	-38,847			
財源名称	作品制作受託事業収入						従事正職員人数									
	入館料、売店収入、体験講座受講料、雑入						延べ業務事務時間									
							人件費計(千円)(B)							0		
	最終予算額		42,711 千円		予算執行率		0.0%		トータルコスト(A+B)		36,083	38,847	41,066	41,066	-38,847	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	向上余地がある	吹きガラス体験等が再開でき、体験者数は大幅に4年度を上回ることができたが、入館者数は国民宿舎いつきの閉館の影響もあり減少した。 魅力あるガラス作品や体験等により、入館者数の増加を図る必要がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	恩原高原青少年旅行村経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04492	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町恩原高原青少年旅行村条例		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(事務事業の内容) 施設の管理・運営について一般財団法人上齋原振興公社を指定し、管理業務の委託を行っている。 (業務の内容手順など) 毎年度年度協定を締結、締結後5月・7月に500万円12月に契約額の残額を支払った。	施設整備当初より施設の維持管理を町で行っていたが、平成18年度より指定管理制度を取り入れ一般財団法人上齋原振興公社に委託し、管理を行っている。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来訪者を増やし滞在して消費してもらおう	ア 観光客入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 延べ宿泊客数	千人	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	21 24 114.3%	22 17 77.3%	23	24 70.8%

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 業務委託契約の締結	ア 事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ 実績報告の検査、委託料の支払	イ 事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3 100.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		恩原高原青少年旅行村経常管理費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	418	418	418	418	418		一般財源	418	418	418	418	418		
合計	418	418	418	418	418		合計(A)	418	418	418	418	418	0	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	20	20	20	20	20		
							人件費計(千円)(B)	68	67	67	67	67	-1	
	最終予算額		418 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		486	485	485	485

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	指定管理者による円滑で健全な運営がされた。事務処理については必要最低限の人員で行っており、適正である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	うたたねの里経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04496	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	鏡野町うたたねの里条例		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	いっぷく亭、木地師の館、森の学校、公衆トイレその他関連施設(炭釜、園地、倉庫等)一括指定管理者による管理運営	いっぷく亭、木地師の館、森の学校、その他関連施設(炭釜、園地、倉庫等)一括指定管理者による管理運営 農山村の体験型観光施設を整備し、都市との交流による地域の振興と活性化を図るため、鏡野町うたたねの里を設置する。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来訪者を増やし滞在して消費してもらう	ア 利用者数	人	目標 実績 達成率	11,000 7,506 68.2%	11,000 8,913 81.0%	10,000 6,313 63.1%	10,000	10,000 63.1%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 協定等の締結事務	ア 指定管理料の支払回数	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号		
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		うたたねの里経常管理費							
									01	75						
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	3,770	3,770	3,770	25,993	25,993		一般財源	3,770	3,770	3,770	25,993	25,993				
合計	3,770	3,770	3,770	25,993	25,993		合計(A)	3,770	3,770	3,770	25,993	25,993	0			
財源名称	従事正職員人数								1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間								40	40	40	40	40			
	人件費計(千円)(B)								137	134	133	133	133	-1		
	最終予算額		3,770 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		3,907	3,904	3,903	26,126	26,126	-1

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	事務処理等は必要最低限の人員で実施しており、現状維持とする。 令和5年度をもって現指定管理者が辞退したため、令和6年度は運営方法が、業務委託となる。令和7年度に向けて協議が必要である。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	見直し余地がある	

事業番号	事務事業名	うたたねの里臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04497	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	森腰 怜佳
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (4 年度~ 5 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	現在、うたかたの館で食事提供のための漬物を製造しているが、食品衛生法改正(平成30年6月公布)に伴う営業届出制度の創設・施行(令和3年6月1日)により、営業施設基準(共通ならびに漬物製造業の基準)を満たす施設に改修する必要が生じたため、改修工事を実施。 また、指定管理者から修繕要望にあげられていた天井の改修も実施。	食品衛生法改正に伴う営業届出制度が創設・施行されたため。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来訪者を増やし滞在して消費してもらう	ア 利用者数	人	目標 実績 達成率	11,000 7,506 68.2%	11,000 8,913 81.0%	11,000 6,313 57.4%	11,000	11,000 57.4%
イ 営業施設基準を満たすこと	イ うたかたの館 漬物部屋	個	目標 実績 達成率		1 1 100.0%	1 1 100.0%		
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 営業施設基準を満たすための工事契約	ア 契約件数	件	目標 実績 達成率		1 1 100.0%	1 1 100.0%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		うたたねの里臨時管理費					
3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比		
国庫支出金						国庫支出金								
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財		250				-250		
一般財源	1,306	9,175			7,869	一般財源		982	9,174			8,192		
合計	1,306	9,175			7,869	合計(A)		1,232	9,174			7,942		
財源名称						従事正職員人数		1	1					
						延べ業務事務時間		5	10			5		
						人件費計(千円)(B)		17	33			17		
	最終予算額	9,175 千円	予算執行率	99.9%		トータルコスト(A+B)		1,249	9,207			7,959		

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	現場管理、監督業務は建設課及び専門業者に依頼し、確実な施工ができた。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	野鳥の森経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04498	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名		担当者・シート作成者	後藤 裕美
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	(事務事業の内容) 恩原湖畔に野鳥とのふれあいを通して多くの人に自然と親んでもらうために作られた「野鳥の森」の遊歩道、広場の草刈りなどの維持管理について一般財団法人上齋原振興公社を指定し、管理業務委託を行っている。 (業務の内容手順など) 維持管理業務委託契約を締結。締結後契約額の3分の2相当額を支払、業務完了後実績報告に基づいて検査し、残額を支払った。	野鳥とのふれあいを通して多くの人たちに自然に親んでもらうことを目的に、昭和62年度に恩原湖野鳥の森整備事業で整備した施設であり、平成4年度からは施設の管理を一般財団法人上齋原振興公社に委託している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 来訪者を増やし滞在して消費してもらう	ア 観光客入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ 延べ宿泊客数	千人	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	21 24 114.3%	22 17 77.3%	23	24 70.8%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 業務委託契約の締結	ア 事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ 実績報告の検査、委託料の支払	イ 事務に要した時間	時間	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3 100.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号		
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		野鳥の森経常管理費							
									01	77						
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	542	542	542	561	561		一般財源	473	542	542	561	561				
合計	542	542	542	561	561		合計(A)	473	542	542	561	561	0			
財源名称							従事正職員人数		1	1	1	1	1			
							延べ業務事務時間		20	20	20	20	20			
							人件費計(千円)(B)		68	67	67	67	67	-1		
	最終予算額		542 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)		541	609	609	628	628	-1	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
見直し余地がある	向上余地がある	経年劣化で渡れない木橋が多く、架設されないままである。安全で腐らない低コストの橋を新架橋し、全園路の通行を可能にした。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	高清水トレイル経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04500	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	遊歩道整備・修繕、トイレ清掃・修繕、維持管理経費の支払い、委託業務契約の締結など	令和元年度に高清水トレイル完成に伴い。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	800 790	825 948	1,000 1,472	1,000	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適正な維持管理を行う	ア 遊歩道延長	m	目標 実績 達成率	8,132 8,132 100.0%	8,132 8,132 100.0%	8,132 8,132 100.0%	8,132	8,132
イ	イ 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 遊歩道の管理	ア 修繕(直営)	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 1 50.0%	2	2
イ トイレの清掃	イ 委託事業者	者	目標 実績 達成率	2 3 150.0%	2 3 150.0%	2 3 150.0%	3	3

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		高清水トレイル経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源		4,075	3,166	3,237	3,237	-909	一般財源		2,939	2,433	3,237	3,237	-506	
合計		4,075	3,166	3,237	3,237	-909	合計(A)		2,939	2,433	3,237	3,237	-506	
財源名称	従事正職員人数								1	1	1	1		
	延べ業務事務時間								25	25	25	25		
	人件費計(千円)(B)								84	83	83	83	-1	
	最終予算額	3,166 千円		予算執行率	76.8%			トータルコスト(A+B)		3,023	2,516	3,320	3,320	-507

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	令和5年台風第7号の影響はあったものの、ある程度の安全を確保しつつフレックシングができる状態を確保した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	のどろ原キャンプ場経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04502	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤 裕子
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域にある、のどろ原キャンプ場の管理運営を、指定管理者である富ふるさと公社に委託する。	昭和54年にのどろ原キャンプ場が整備され、バンガロー・管理棟を含む周辺施設が設置されたことにより、本事業が開始された。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な運営・管理	ア のどろ原キャンプ場利用者数	人	目標 実績 達成率	7,900 5,679 71.9%	8,000 7,730 96.6%	8,100 7,539 93.1%	8,200	8,300 90.8%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 委託の管理・監督	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2 2 100.0%	2	2 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		のどろ原キャンプ場経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	1,092	1,031	1,031	1,031	1,031		一般財源	1,026	1,031	1,031	1,031	1,031		
合計	1,092	1,031	1,031	1,031	1,031		合計(A)	1,026	1,031	1,031	1,031	1,031	0	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	2	2	2	2	2		
							人件費計(千円)(B)	7	7	7	7	7	-0	
	最終予算額	1,031 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	1,033	1,038	1,038	1,038	1,038	-0	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	全体的には指定管理者による円滑な運営がされたが、台風7号の影響により、利用者が昨年度より減少した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	のどろ温泉経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04504	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤 裕子
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域にある、のどろ温泉の管理運営を、指定管理者である富ふるさと公社に委託する。	平成15年度に施設を建設したことにより管理運営が始まった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理をし安定的な運営を行う	ア のどろ温泉利用者数	人	目標 実績 達成率	32,000 24,991 78.1%	32,500 28,935 89.0%	33,000 27,796 84.2%	33,500	34,000 81.8%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 2 66.7%	3	3 66.7%
イ 修繕等工事の調整・協議	イ 協議回数	回	目標 実績 達成率	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1 1 100.0%	1	1 100.0%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号		
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		のどろ温泉経常管理費							
									01	83						
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	3,412	3,229	3,229	3,229	3,229		一般財源	3,220	3,229	3,229	3,229	3,229				
合計	3,412	3,229	3,229	3,229	3,229		合計(A)	3,220	3,229	3,229	3,229	3,229	0			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	2	2	2	2	2				
							人件費計(千円)(B)	7	7	7	7	7	-0			
	最終予算額	3,229 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)	3,227	3,236	3,236	3,236	3,236	-0			

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	指定管理者による円滑な運営がされたが、台風7号の影響により、法面が崩れたため、東露天風呂が3カ月程度利用できず利用客が減少した。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	のどろ館経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04506	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤 裕子
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	富地域にある、のどろ館の管理運営を、指定管理者である富ふるさと公社に委託する。	平成16年度に施設を建設したことにより管理運営が始まった。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町外からの来訪者(観光客)	ア 岡山県南地域人口	千人	見込 実績	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200 1,472	1,200	1,200
イ	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 適切な管理をし安定的な運営を行う	ア のどろ館利用者数	人	目標 実績 達成率	13,700 7,209 52.6%	13,800 8,618 62.4%	13,900 9,488 68.3%	14,000	14,100 67.3%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 施設の管理・運営に係る協議	ア 協議回数	回	目標 実績 達成率	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3 3 100.0%	3	3 100.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号		
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		のどろ館経常管理費							
									01	85						
予算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比			
国庫支出金							国庫支出金									
県支出金							県支出金									
町債							町債									
その他特財							その他特財									
一般財源	3,259	3,229	3,229	3,229	3,229		一般財源	3,218	3,229	3,229	3,229	3,229				
合計	3,259	3,229	3,229	3,229	3,229		合計(A)	3,218	3,229	3,229	3,229	3,229	0			
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1				
							延べ業務事務時間	2	2	2	2	2				
							人件費計(千円)(B)	7	7	7	7	7	-0			
	最終予算額		3,229 千円		予算執行率		100.0%		トータルコスト(A+B)		3,225	3,236	3,236	3,236	-0	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	指定管理者による円滑な運営がなされているが、光熱水費や物価高騰により、経営が難しくなってきた。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	富ふるさと公園経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04510	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	富振興センター	担当者・シート作成者	近藤裕子
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	・電気代、草刈り委託料等の支払い ・使用申請の受理及び許可	平成10年度に富総合福祉施設を整備した際、同時に公園整備のため用地買収し、平成12年度に整備。公園内には五葉亭、木工陶芸館、屋外調理施設、イベント広場などを設置している。完成後は「富ひらめ祭り」はふるさと公園を会場に実施している。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)		④対象指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	利用者	→	ア	人	見込	5	100	5,000	5,000	5,000
					実績	89	122	10,193		
イ		→	イ		見込					
					実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)		⑤成果指標(意図の達成度)		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	交流する	→	ア	回	目標	5	10	10	10	10
					実績	6	10	14		
					達成率	120.0%	100.0%	140.0%		140.0%
イ		→	イ		目標					
					実績					
					達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)		⑥活動指標		単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア	イベント	→	ア	回	目標	1	1	1	1	1
					実績	0	0	1		
					達成率	0.0%	0.0%	100.0%		100.0%
イ		→	イ		目標					
					実績					
					達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01 一般会計		款 07 商工費		項 01 商工費		目 04 観光施設費		予算上の事業名 富ふるさと公園経常管理費					事業番号
	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	決算(千円)	3 年度実績	4 年度実績	5 年度実績	6 年度見込	7 年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源	361	361	521	420	420	160	一般財源	329	321	432	420	420	111	
合計	361	361	521	420	420	160	合計(A)	329	321	432	420	420	111	
財源名称							従事正職員人数	1	1	1	1	1		
							延べ業務事務時間	30	30	30	30	30		
							人件費計(千円)(B)	103	101	100	100	100	-1	
	最終予算額		521 千円		予算執行率	82.9%		トータルコスト(A+B)	432	422	532	520	520	110

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	除草・池掃除・トイレ清掃・ドアと床修繕など環境整備を行った。今年度はほたる橋の修繕ができ、安全かつ、景観もよくなった。ひらめ祭りのメイン会場として活用している。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	恩原高原スキー場臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04513	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	森腰 怜佳
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等	恩原高原スキー場条例及び施行規則		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 <small>(令和5年度~令和6年度)</small> <input type="checkbox"/> 単年度のみ	①リフト整備事業 パノラマ第3リフト予備原動機設置工事 ②不可抗力による赤字補填	指定管理者による修繕報告等を受け、指定管理協定に基づき、緊急性等により町施工修繕を行う。

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 安全に快適に利用できる状態になっている	ア スキー場利用者数	人	目標 実績 達成率	50,000 39,998 80.0%	50,000 44,510 89.0%	50,000 4,774 9.5%	50,000	50,000
イ	イ		目標 実績 達成率					9.5%

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 工事契約	ア 契約件数	件	目標 実績 達成率	2 2 100.0%	4 6 150.0%	1 1 100.0%	3	3
イ	イ		目標 実績 達成率					33.3%

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		恩原高原スキー場臨時管理費					
3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比		
国庫支出金		33,752			-33,752	国庫支出金		33,752				-33,752		
県支出金						県支出金								
町債						町債								
その他特財						その他特財								
一般財源	30,861	9,307	55,634	27,099	225,428	46,327	一般財源	30,860	9,306	10,000	27,099	225,428	694	
合計	30,861	43,059	55,634	27,099	225,428	12,575	合計(A)	30,860	43,058	10,000	27,099	225,428	-33,058	
財源名称	従事正職員人数						1	1	1	1	1			
	延べ業務事務時間						10	20	30	30	30	10		
	人件費計(千円)(B)						34	67	100	100	100	33		
	最終予算額	55,634千円		予算執行率	17.9%		トータルコスト(A+B)	30,894	43,125	10,100	27,199	225,528	-33,025	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	リフト整備事業は、機械の納品に約1年間を要するため、工事は6年度へ繰越事業。不可抗力による赤字補填は、台風7号被害によるゲレンデ閉鎖及び積雪不足のため、スキー場営業日が著しく減少したため実施した。今後、継続的な積雪不足が懸念される中、スキー場の営業方針を検討する余地がある。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	奥津溪公衆トイレ改修工事臨時管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04517	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 単年度のみ	奥津溪公衆トイレは和式タイプの便座や車いすなどでの侵入ができなかった。多くの観光客が訪れるスポットであるため、洋式タイプの便座へ効果、多目的トイレ・スロープの設置を行ったもの	H2.12.25こぶしの小径整備事業で原初整備、H8.3.20国民健康温泉地整備事業で改修(便所、取水施設、浄化槽)H12年度便器交換、凍結防止、土地名義は浮田佐平氏

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,991	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	1,200
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 改修回数	ア 改修回数	回	目標 実績 達成率			1 1 100.0%		
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		奥津溪公衆トイレ改修工事臨時管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			12,950			12,950	一般財源			12,738			12,738	
合計			12,950			12,950	合計(A)			12,738			12,738	
財源名称							従事正職員人数			1			1	
							延べ業務事務時間			20			20	
							人件費計(千円)(B)			67			67	
	最終予算額	12,950 千円	予算執行率	98.3%	トータルコスト(A+B)					12,805			12,805	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	本改修により、利用しやすい公衆トイレとなり、奥津溪に訪れる観光客の利便性向上に繋がった。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	恩原高原マウンテンバイクコース経常管理費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04519	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	恩原高原マウンテンバイクコースの看板やコース整備などを行う。 台風7号での被災により予算執行無、再検討必要	令和4年度の新規事業に採択されたため

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア マウンテンバイクコース	ア マウンテンバイクコースの整備	件	見込 実績		1 0	1 0	1	1
イ 町内への来訪者(観光客)	イ 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 除草作業	ア 回数	回	目標 実績 達成率			1 0 0.0%	1	1 0.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		恩原高原マウンテンバイクコース経常管理費					
	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	決算 (千円)	3 年度 実績	4 年度 実績	5 年度 実績	6 年度 見込	7 年度 見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源				996	996		一般財源				996	996		
合計				996	996		合計(A)				996	996	0	
財源名称	従事正職員人数										1		1	
	延べ業務事務時間										3		3	
	人件費計(千円)(B)										10		10	
	最終予算額		0 千円		予算執行率			トータルコスト(A+B)			10	996	996	10

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
見直し余地がある	向上余地がある	昨年度は台風第7号により予定していたコースが被災し使用不可能なり復旧は困難と思われるため、今後は別のコースを検討する必要がある
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がある	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	鏡野町観光案内所整備事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04567	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 <small>(5年度は 年度~ 6年度)</small> <input type="checkbox"/> 単年度のみ	みずの郷奥津湖総合案内所を新たに観光案内所及びモンベル直営店を整備する R5年度は測量、実施設計、造成工事	株式会社モンベルと町が包括連携協定を締結しアウトドアフィールドを活かし連携を図るなかで観光案内所及びアウトドアショップに整備を実施することとなった

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	
イ	イ 県南地域人口(岡山市、倉敷市)	千人	見込 実績	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200 1,190	1,200	
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	ア みずの郷奥津湖観光入込客数	人	目標 実績 達成率	50,000 33,502 67.0%	50,000 39,403 78.8%	50,000 36,068 72.1%	—	
イ	イ 町観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
ア 工事関係契約	ア 工事関係契約	件	目標 実績 達成率			3 3 100.0%	4	
イ	イ	件	目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		鏡野町観光案内所整備事業費					
	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	決算(千円)	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度見込	7年度見込	前年比	
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			55,932	486,799		55,932	一般財源			16,936	486,799		16,936	
合計			55,932	486,799		55,932	合計(A)			16,936	486,799		16,936	
財源名称							従事正職員人数			1	1		1	
							延べ業務事務時間			50	50		50	
							人件費計(千円)(B)			167	167		167	
	最終予算額	55,932 千円		予算執行率	30.2%		トータルコスト(A+B)			17,103	486,966		17,103	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	設計業務、造成工事の一部は繰越しをしているものの令和5年度で実施する設計業務等は終了している。6年度建築、改修工事予定
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	

事業番号	事務事業名	なごみ茶屋整備事業費	所管課名	産業観光課	令和 5 年度課長名	小椋 正己
04568	政策名	2 地域経済を支える里づくり	係名	商工観光係	担当者・シート作成者	片田 剛
	施策名	25 観光の振興	根拠法令等			

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input type="checkbox"/> 単年度繰返し <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (5 年度~ 6 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	なごみ茶屋改修のための設計業務の実施	観光案内所(商工会事務所)として整備 H20から地元の地産地消研究グループ「うまいもん工房」に運営委託H20年度改修(電気・機械設備等)1,597千円(単町)

2. 事務事業の対象・意図・活動・施策との関係

①対象(誰、何を対象にしているのか)	④対象指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 町内への来訪者(観光客)	ア 京阪神地域人口	千人	見込 実績	16,957 16,957	16,957 16,881	16,881 16,881	16,881	16,881
イ	イ		見込 実績					
②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 多くの観光客に来町し滞在し消費してもらう	ア 観光入込客数	千人	目標 実績 達成率	800 790 98.8%	825 948 114.9%	850 828 97.4%	875	900 92.0%
イ なごみ茶屋利用者を増やす	イ なごみ茶屋利用者数		目標 実績 達成率	2,500 2,015 80.6%	2,500 2,824 113.0%	2,500 2,205 88.2%	2,500	2,800 78.8%
③活動(そのためにどんな活動をするのか)	⑥活動指標	単位	区分	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度
ア 設計業務	ア 委託	件数	目標 実績 達成率			1 1 100.0%		
イ 改修施設を充実させる	イ		目標 実績 達成率					

↓

⑦結果(事務事業を何に結び付けるのか)	
属する施策の対象	属する施策の意図
ア 観光客	ア 多くの観光客に来てもらう、泊ってもらう、食べてもらう、買ってもらう
イ	イ
ウ	ウ
エ	エ

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計 01		款 07		項 01		目 04		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		商工費		商工費		観光施設費		なごみ茶屋整備事業費					
	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	決算	3 年度	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	前年比	
	実績	実績	実績	見込	見込		(千円)	実績	実績	実績	見込	見込		
国庫支出金							国庫支出金							
県支出金							県支出金							
町債							町債							
その他特財							その他特財							
一般財源			2,255			2,255	一般財源			2,255			2,255	
合計			2,255			2,255	合計(A)			2,255			2,255	
財源名称							従事正職員人数			1			1	
							延べ業務事務時間			10			10	
							人件費計(千円)(B)			33			33	
	最終予算額	2,255 千円		予算執行率	100.0%		トータルコスト(A+B)			2,288			2,288	

4. 事業評価

対象と意図の見直し余地	成果の向上余地	全体総括(成果・反省点)、左記の評価結果の根拠、改革改善の方向等
適切である	目標水準に達している	必要最低限の業務を委託しているため改善の余地は無いものとする。
方法・手段の改善余地	受益機会・費用負担の適正化余地	
改善余地がない	公平・公正である	